

令和8年度入学者適用

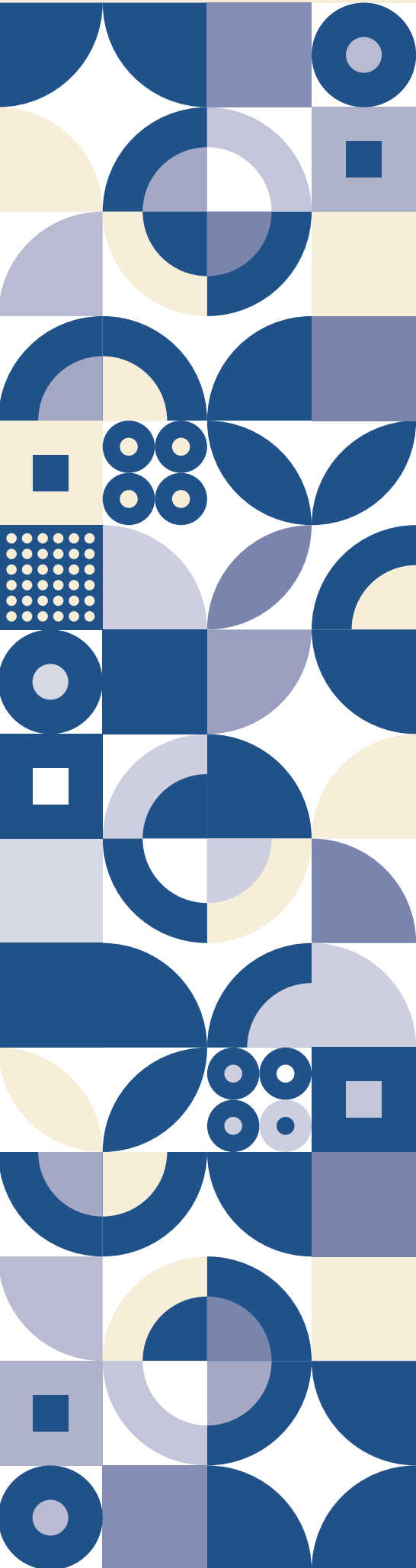


# 履修の手引

理学部

Faculty of Science

2026



## 目 次

<b>1</b>	<b>主要スケジュール</b> .....	<b>1</b>
<b>2</b>	<b>愛大学生コンピテンシー～愛媛大学学生として期待される能力～</b> .....	<b>1</b>
<b>3</b>	<b>学部の教育の理念と教育方針（特徴と履修の仕組み）</b> .....	<b>2</b>
	3-1 ディプロマ・ポリシー .....	2
	3-2 カリキュラム・ポリシー .....	2
<b>4</b>	<b>大学で学ぶ基本知識</b> .....	<b>4</b>
<b>5</b>	<b>単位制度</b> .....	<b>5</b>
<b>6</b>	<b>履修登録単位数の上限（CAP制）</b> .....	<b>5</b>
<b>7</b>	<b>教育コースの選択及び履修プログラムの選択</b> .....	<b>5</b>
	7-1 教育コースの選択 .....	5
	7-2 履修プログラムの選択 .....	6
	7-3 履修モデルと履修指導 .....	6
<b>8</b>	<b>教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング</b> .....	<b>7</b>
	8-1 共通教育科目 .....	9
	8-2 専門教育科目 .....	18
	8-3 共通課題科目の概要 .....	23
	8-4 科目ナンバリング .....	46
<b>9</b>	<b>履修登録手続き等</b> .....	<b>48</b>
	9-1 履修登録の時期 .....	48
	9-2 履修登録の手順 .....	48
	9-3 履修計画 .....	49
	9-4 共通教育履修モデル .....	49
	9-5 履修登録科目の確認について .....	49
	9-6 履修登録科目の修正について .....	50
	9-7 履修登録科目の取消について .....	50
<b>10</b>	<b>他学部授業科目履修</b> .....	<b>50</b>
<b>11</b>	<b>単位互換科目・他大学科目</b> .....	<b>51</b>
<b>12</b>	<b>受講上の注意事項（授業の実施場所、休講・補講、授業欠席）</b> .....	<b>52</b>
	12-1 授業の実施場所等 .....	52
	12-2 休講・補講 .....	52
	12-3 授業の欠席 .....	52

<b>13</b>	<b>試験・成績</b> .....	<b>53</b>
13-1	試験等における受験上の注意 .....	53
13-2	不正行為 .....	53
13-3	レポートの提出 .....	53
13-4	追試験 .....	53
13-5	成績の評価 .....	54
13-6	成績の確認と成績確認申立 .....	54
13-7	保証人への成績情報の開示について .....	54
13-8	GPA 及び GPT について .....	54
<b>14</b>	<b>卒業認定、早期卒業制度</b> .....	<b>56</b>
14-1	卒業認定・学位授与 .....	56
14-2	早期卒業制度（学則第 47 条・理学部規則第 11 条） .....	56
<b>15</b>	<b>履修プログラム／教育コースの変更、転学部</b> .....	<b>57</b>
15-1	履修プログラムの変更 .....	57
15-2	教育コースの変更 .....	57
15-3	転学部 .....	58
<b>16</b>	<b>学びのサポート（教科書、自主学習スペース、学習支援、履修相談窓口）</b> .....	<b>58</b>
16-1	教科書 .....	58
16-2	大学内での自主的な学習 .....	58
16-3	学習支援 .....	59
16-4	学生生活担当教員（学担） .....	59
16-5	教育コーディネーター（EC） .....	59
16-6	相談窓口 .....	60
<b>17</b>	<b>教育職員免許状</b> .....	<b>60</b>
17-1	「教育職員免許状」の取得方法 .....	61
17-2	その他 .....	69
<b>18</b>	<b>その他の資格（学芸員資格・測量士補資格）</b> .....	<b>69</b>
18-1	学芸員資格 .....	69
18-2	測量士補資格 .....	70
<b>19</b>	<b>留学・アクティビティの支援</b> .....	<b>72</b>
19-1	在学期間中の留学・アクティビティ .....	72
19-2	留学・海外渡航の相談 .....	72
19-3	早期卒業を利用した留学・アクティビティの例 .....	72

1	主要スケジュール
2	愛大学生コンピテンシー
3	学部との教育の理念と教育方針
4	大学の学びの基本知識
5	単位制度
6	履修登録単位数の上限
7	教育コースの選択及び履修プログラムの選択
8	教育目標・履修方法・科目ナンバリング
9	履修登録手続き等
10	他学部授業科目履修
11	単位互換科目
12	受講上の注意事項
13	試験・成績
14	卒業認定、卒業制度、早期卒業
15	履修プログラム/学部変更/転学部の教員
16	学びのサポート
17	教育職員免許状
18	その他の資格
19	留学・アクティビティの支援

# 1 主要スケジュール

各日程は大学のホームページで確認してください。

📅 学年暦・授業日程



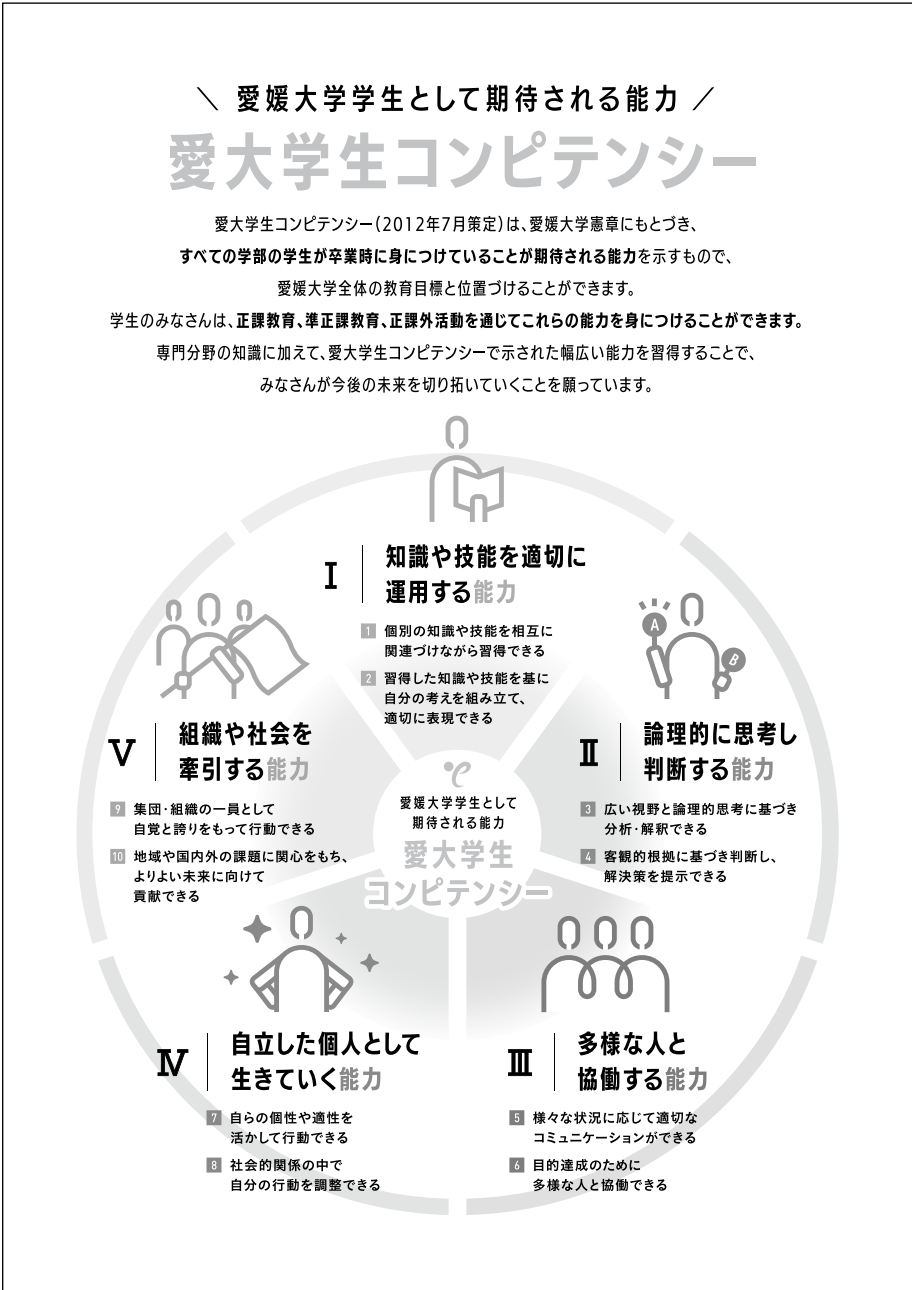
📅 履修日程



📅 授業時間



# 2 愛大学生コンピテンシー～愛媛大学学生として期待される能力～



## 3 学部の教育の理念と教育方針（特徴と履修の仕組み）

### 3-1 ディプロマ・ポリシー （教育理念と教育目的、育成する人材像、学習の到達目標、卒業認定・学位授与）

#### 〈教育理念と教育目的〉

科学は、数理、物質、自然、生命を支配する原理や法則を探究する学問で、現代文明の基礎であると同時に人類共有の知的財産です。科学を発展させ、新しい知・技術・文化を生み出す原動力は、「未知なるもの」に対する好奇心とそれを探究するチャレンジ精神です。「過去を知り・現在の発展を支え・未来を拓く」－この科学の原点に立って、将来の社会・科学・文化を担う市民・職業人となる理系人材を育て、社会に貢献することが理学部の教育の目的です。

理学部は、社会の様々な分野で活躍するための基礎知識・技能、探究力・応用力、人間性・コミュニケーション力を養う教育を行います。

#### 〈育成する人材像〉

理学部は、教育カリキュラムを通して「理学の体系的学識に由来する知性」・「科学に根差した汎用能力」・「高い教養に基づく豊かな人間性」を涵養し、社会が理学部卒業生に市民・職業人として期待する「倫理観・責任感に裏付けられた地に足をつけた人間性と、急速な社会環境の変化や多様な課題に柔軟に対応できる知性を備え、様々な人々と協働しながら主体的に行動し貢献する意志を持つ、自然科学の素養を持った理系人材」を継続的に輩出することを目指します。

#### 〈学習の到達目標〉

##### ① 広い教養・基礎学力と汎用的能力

理学全般にわたる基盤的な学力と、人文科学・社会科学などの一般教養、日本語・英語の読解力・表現力、情報リテラシー・コミュニケーション能力などの汎用能力を修得し、それらを活用することができる。

##### ② 科学の体系的基礎学識・技能・科学的思考力

科学の体系的基礎学識と基盤技能を修得し、それらを活用して、調査・研究を通じた課題の発見・提示や解決を科学的思考のもとで行い、その過程や結果を他者に説明することができる。国内外の文献を調査し必要な情報を収集し理解できる。

##### ③ 協働する姿勢・能力

修得した科学的センスと高い教養に基づく価値観・倫理観・責任感のもと、様々な人々と能動的に関わり協働することができる。自己啓発・自己研鑽を継続する努力ができる。

#### 〈卒業認定・学位授与〉

理学部の定める教育課程を修め、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与します。

### 3-2 カリキュラム・ポリシー （教育課程の編成と教育内容、 教育方法と成績評価（進級・卒業判定）、カリキュラムの評価）

#### 〈教育課程の編成と教育の内容〉

理学部では、高等学校教育との接続性、基礎から発展・応用へと接続する専門分野ごとの体系性、学生個々の多彩な知的好奇心・キャリアプラン・学修目的に対応できる柔軟性、を確保するカリキュラムを編

成します。カリキュラムは全学共通教育科目と理学部専門教育科目で構成され、年次進行に沿って基礎から発展・応用へ段階を踏んで学べるように配慮されています。専門教育科目は、理学の基幹分野・学際分野を専門とする理学部及び関連センター等の教育研究者により実施されます。また、学内外の第一線級の研究者による特別講義、汎用的能力を涵養するキャリア教育プログラムが適宜開講されます。

理学部理学科には、数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学の5教育コースが設置されています。さらに、どのコースに所属していても、自コースの専門教育科目と並行して他コース科目などを学ぶことで、多様な学際分野へ進む準備をすることができます。1年次は全学共通教育科目、理学部必修基礎科目及び理学部共通基礎科目を中心にバランスよく履修し、大学生としての教養・学びの基礎・キャリアビジョンを育むとともに、外国語・数学・理科の基礎を学び、理系人材として自律的に成長していく上での基盤を身に付けます。理学部必修基礎科目は理学部での大学生活を有意義に過ごすための基礎を学ぶ必修の科目群です。理学部共通基礎科目は、理学の専門分野を学ぶ基礎となる理数の学力を確立すると同時に、科学を俯瞰し、学習意欲を高めめます。2年次前学期開始時に志向・目標に沿った教育コースを選択して専門領域に踏み出し、コースの履修モデルに沿って学修して体系的な知識とスキルを修得します。4年次には指導教員を定め、特別演習・特別研究・課題研究の個別あるいは少人数型の実践的科目を通して個性や能力を磨き、広い視野と論理的な問題分析・解決能力を育みます。

2年次後学期開始時に選択する履修プログラムは、卒業後のキャリアパスを見据えた特徴ある履修プログラムの構築を可能にします。標準プログラムは、各コースが開講する専門教育科目を標準履修モデルに沿って体系的に学修し、コースの基幹分野における標準的専門知識と実験等の基礎技能を修得する基本の履修プログラムです。科学コミュニケーションプログラムは、理学の汎用的基礎知識・技能を背景に科学を伝える力を磨き、人と技術・文化の橋渡しをする役割を担うキャリアを目指す学生のための履修プログラムです。課題挑戦プログラムは、宇宙物理学・地球惑星科学・環境汚染動態学・海洋学分野の学際的先端科学に関わる研究能力を養成するための特別科目を履修するカリキュラムで構成されます。どのプログラムを選択しても、卒業に必要な要件は同じです。

## 〈教育方法と成績評価〉

- ・講義、演習、実験、体験学習、ディスカッション・グループワーク、Eラーニングなど、科目の教育目標に応じて最適な形式の授業を実施します。
- ・一部の科目で、反転授業・プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション形式のアクティブラーニングを取り入れ、主体的な学びを促進し、表現力・コミュニケーション能力を涵養します。
- ・授業時間外学習に充てる時間を十分に確保できるように履修登録制限（CAP制）を設けるとともに、Eラーニングなど時間外学習を支援するツールを用意します。
- ・カリキュラムマップで科目の関連性を示すとともに、専門志向・キャリアパスに応じた履修モデルを提示するほか、学年ごとのガイダンスを実施し、学生個々の履修計画をサポートします。
- ・全科目で、筆記試験・レポート・口頭試問などの客観的方法による厳正な成績判定を実施します。
- ・成績優秀者を対象とする3.5年の早期卒業・早期大学院進学制度を設けます。
- ・4年間のカリキュラム中に必修科目のない semester またはクォーターを設定するほか、カリキュラムを3.5年に短縮する制度を設け、在学中の留学等を支援します。
- ・協力大学との単位互換、他学部・他大学・海外の大学の科目の単位認定、他学部などへの進路変更などについても柔軟な対応をします。

## 〈カリキュラムの評価〉

授業アンケート、入学者アンケート、卒業生アンケートなどの学生調査と各種統計データの分析を実施し、個々の授業科目の教育効果や、コースの学修到達目標の達成状況について検証します。

## 4 大学で学ぶ基本知識

理学部の学生が履修する授業科目には、愛媛大学の全学生向けに開講される「共通教育科目」と理学部の学生向けに開講される「専門教育科目」があります。理学部の学生に対して入学から卒業までに開講される授業科目は、この「履修の手引」の「教育課程表」に掲載されています。

履修の要件や自分のキャリアビジョンに合わせて、該当する教育課程表から履修する授業科目を選択し、単位を修得してください。授業科目の履修には、学期初めに「履修登録」が必要です。この「履修の手引」を熟読して、卒業要件のほか、履修の条件・制限を十分に理解し、周到な履修計画を立ててください。また、学習内容を理解するために、シラバスを活用してください。

### 用語解説

- (1) 学期：本学は、1年間（学年）を前学期と後学期の2つの学期に分けており、学期のことをセメスターと呼ぶこともあります。さらに、学期（セメスター）を半分に区切り、前学期を第1、第2クォーター、後学期を第3、第4クォーターに分けています。授業科目はそれぞれの学期にあわせて開講されます。また、一定期間集中して開講するなど、授業日程に縛られず開講される授業科目は、「集中講義」と呼びます。なお、この手引ではクォーターを「Q」と表記する場合があります。
- (2) 履修：大学では、教育課程に設けられた授業科目の中から、自らが受けたい授業を登録し、所定の時間数の授業を受け、試験等に合格すれば単位を修得できます。この一連の流れを履修といいます。
- (3) 履修登録：その年度（学期）に履修しようとする授業科目の授業を受けるためには登録手続きが必要です。
- (4) 単位：授業科目の学修を数量的に表すものです。授業科目には学修時間に応じた単位数が定められています。
- (5) シラバス：授業計画を表し、授業担当教員、授業科目の概要、各回の授業の計画等が記載されています。授業科目を履修する際には、シラバスを参照し、授業内容を確認してください。
- (6) 修業年限と在学期間：修業年限は、学位を取得するために必要な正規の教育課程の期間で、4年間の修業が必要です。一方、在学期間とは、学部在学可能な期間で、修業年限の2倍、つまり8年（休学期間を除く）を超えて在学することはできません。
- (7) 卒業：所定の授業科目を履修し所定の単位を修得すると卒業として認定されます。

## 5 単位制度

大学の単位を修得するためには、授業を受講する以外に、教室外での自学自習（予習、復習、その他の課題、教育体験やボランティア活動など）を併せて行い、受け身ではない主体的な学習を行うことが求められています。

制度上のルールでは、1単位は、教室での授業と教室外での自学自習を合わせ、45時間の学習を必要とすることが標準とされています。このため、1単位の授業科目で、1学期に週1回合計15回の授業がある場合には、教室での授業を含め、週3時間の学習が必要になります。

例えば、1人の学生が1週間で学習できる時間を72時間（日曜日以外、毎日12時間学習すると仮定）としても、1学期間に学習できる単位数は24単位、2単位の授業科目であれば12科目分が履修の限度になります。これより多い授業科目を履修しようとするれば、授業の予習・復習などが十分にできなくなり、学習内容を身に付けることができないおそれがあります。このことを防止し、履修登録した授業科目をそれぞれ十分に学習することができるよう、1学期中に履修登録できる単位数には制限があります。

予習や復習のほかにも、図書館で参考文献を閲覧したり、各種の体験活動に参加して知識・技能を高めたり、教員や先輩と話をするなど、大学生活では、自分なりのテーマを発見して解決する、学ぶことの楽しさを感じてください。

## 6 履修登録単位数の上限（CAP制）

1学期間に履修登録可能な単位数に上限を設ける制度をCAP制と呼びます。愛媛大学理学部では、各学期24単位が登録の上限です。ただし、次の科目はCAP制の対象外です。

- (1) 集中形式で実施される授業科目
- (2) 「教職に関する科目」<sup>注1</sup>・「博物館に関する科目」
- (3) 他大学等との単位互換協定に基づく科目
- (4) 外部試験による成績判定を申請した科目
- (5) 特別科目

注1 「教科の指導法に関する科目」（表17-2A/B上部分）及び「教育の基礎的理解に関する科目等」（表17-3）に記載された科目に限ります。

注2 通年で実施される授業科目は、その単位数の半分を1学期分の単位と換算します。

注3 早期卒業制度適用期間中はCAP制が適用されません。

## 7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択

### 7-1 教育コースの選択

理学部には、数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学の5つの教育コースが設置されています。各コースの教育目標・カリキュラム（科目表）は「8. 教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング」を参照してください。

一般選抜（前期日程、後期日程）を受験して入学したすべての学生は、1年次はコースに所属せず、2年次からいずれかの教育コースに所属します。コースの選択は、1年次末に「コース所属希望届」を理学部事務課学務チームに提出して行います。1年次に全学共通教育科目や理学部必修基礎科目、理学部共通基礎科目を学修しながら、自分に合った分野や卒業後の進路（キャリアパス）をよく考えて、所属コースを選択してください。コースに所属しない場合（コース選択の保留）、2年次以降向けに開講される専門教

育科目を履修することができません。

学校推薦型選抜を受験して入学した学生は、受験したコースに1年次から所属しています。一旦所属したコースから別のコースへの変更を希望する場合については、「15. 履修プログラム／教育コースの変更、転学部」を参照してください。

## 7-2 履修プログラムの選択

理学部には、「標準プログラム」「科学コミュニケーションプログラム」「宇宙・地球・環境課題挑戦プログラム」の3つの履修プログラムがあります。2年次前学期終了時（8月）に「履修プログラム選択届」を理学部事務課学務チームに提出し、2年次後学期からの履修プログラムを選択します。

履修プログラムは、原則として所属コースに関係なく選択することができます。ただし、課題挑戦プログラムにおいては、「宇宙科学」及び「地球科学」分野は、数学・数理情報コース、物理学コース、地学コースを、「環境科学」分野は、化学コース、生物学コース、地学コースを、選択した学生に適した内容となっています。また、履修科目表や卒業要件は、所属コースで定められているので、いずれの履修プログラムを選択しても違いはありません。

### (1) 標準プログラム

標準プログラムは、各コースが開講する専門教育科目を標準履修モデルに沿って体系的に学修し、コースの基幹分野における標準的専門知識と実験等の基礎技能を修得する基本の履修プログラムです。

### (2) 科学コミュニケーションプログラム

科学コミュニケーションプログラムは、地域や海外といったフィールドでの実践機会から学ぶことを志向する学生のための特別履修プログラムです。このプログラムでは、所属コースの主要科目や課題科目の履修と同時に、フィールド（地域または海外）での実践を通じた演習に取り組みます。実践フィールドは地域フィールドと海外フィールドの2つが用意されています。本プログラムを志向する学生には、所属コースの主要科目と並行して他コースの基盤的・俯瞰的科目や基礎実験を履修することが推奨され、幅広い理学の汎用的能力を培うことが期待されています。

### (3) 宇宙・地球・環境課題挑戦プログラム

課題挑戦プログラムは、先端研究院が取り組む宇宙物理学・地球惑星科学・環境科学分野の学際的先端研究を志向する学生のための特別履修プログラムです。このプログラムでは、学際的研究に必要とされる基盤知識を学ぶため、所属コースの科目に加えて特定の他コース科目を並行して履修するモデルを提示します。卒業後は大学院に進学してさらに研鑽し、国際的に活躍する技術者・研究者に成長することが期待されています。

## 7-3 履修モデルと履修指導

教育コース・履修プログラムに沿った代表的な履修モデルを提示しています。カリキュラムの全体像は、「8. 教育目標・教育課程表・履修方法・科目ナンバリング」の科目表とカリキュラムマップで確認してください。自分が選択したコース・プログラムの特徴を理解し、履修モデルを参考に学修を進めてください。

学年の節目にガイダンスを実施し、教育コーディネーターが学部／コースに共通の履修指導を行います。また、学生生活担当教員が必要に応じて個別の履修指導を行います。

## 8 教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング

愛媛大学において開講される授業科目は、「共通教育科目」と「専門教育科目」とに大別されています。理学部の卒業に必要な単位数は、表8-1に示す要件を満たす、共通教育科目27単位以上、専門教育科目92単位以上で、かつ、その合計が124単位以上です。

共通教育科目と専門教育科目の教育目標を紹介します。また、卒業に必要な授業科目や単位数を整理した「教育課程表」は、自身の卒業要件を理解するうえで重要な資料です。各科目の履修方法の説明と合わせて必ず確認してください。

表8-1 理学部の卒業に必要な科目/単位

科目区分/科目		卒業に必要な修得単位					
共通教育科目	基盤科目	新入生セミナー	2単位	必修15単位	27単位以上		
		こころと健康	1単位				
		スポーツ	1単位				
		英語	3単位				
		数学	微積分 2単位				
		社会力入門	1単位				
		情報リテラシー入門	2単位				
		知的財産入門	1単位				
	未来思考支援科目	Beyond SDGs	1単位	27単位以上			
		未来思考リテラシー	1単位				
	教養科目	愛大スタンダード科目	選択 12単位以上			124単位以上	
愛大プライム科目							
課題発見基礎セミナー		注1: 「愛大スタンダード科目」3単位以上を修得する必要がある。					
大学間連携科目		注2: 「教員免許に関する科目」の履修には要件がある。					
初修外国語		注3: 「留学生対象科目」については別に定める。					
教員免許に関する科目							
発展科目							
専門教育科目	必修基礎科目		1単位		55単位以上		92単位以上
	共通基礎科目		選択 8単位以上				
	共通課題科目	科学研究倫理	1単位				
		特別演習Ⅰ	2単位				
		特別演習Ⅱ	2単位				
		特別研究Ⅰ・Ⅱ /課題研究	<指定選択> 1または2科目必要				
	コース体系科目		所属コースの科目				
	コース課題科目		所属コースの科目				
	特別科目/関連科目		16単位まで要件に含むことができる				
	キャリア科目		10単位まで要件に含むことができる				

# ○専門教育科目の科目表の読み方

科目区分は、科目のカテゴリーや履修のルールによる違いで分けられています。

講義科目は1コマ90分間の授業を2時間分として計算します。

開講学年・学期・クォーターの表示です。数字は開講クォーターを示しています。

区分	科目名	必修／指定／履修要件	単位数	総時間数	開講学年・クォーター								科目コード	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
必修基礎科目	理学部基礎セミナー	必修	1	15	○									ScS1G-5XCB011
共通基礎科目	数学の基礎		1	16	1									ScS1A-5MBa011
	数理情報の基礎		1	16	1									ScS1A-5MBa021
	物理学Ⅰ		2	30	○									ScS1A-5PBa012
	化学Ⅰ		1	16	1	3								ScS1A-5CBa011
	化学Ⅱ		1	16	2	4								ScS1A-5CBa021
	生物学Ⅰ		2	30	○									ScS1A-5BBa012
	地学Ⅰ		2	30	○									ScS1A-5EBa012
	数学Ⅰ		2	30		3								ScS1A-5MBa032
	数学Ⅱ		2	30		4								ScS1A-5MBa042
	物理学Ⅱ		2	30		○								ScS1A-5PBa022
	化学Ⅲ		1	16		3								ScS1A-5CBa031
	化学Ⅳ		1	16		4								ScS1A-5CBa041
	生物学Ⅱ		2	30		○								ScS1A-5BBa022
	地学Ⅱ		2	30		○								ScS1A-5EBa022
	基礎物理学実験	*a	1	30				1,2						ScS2A-5PES011
基礎化学実験	*b	1	30				2	3					ScS2A-5CES011	
基礎生物学実験	*c	1	30				1,2						ScS2A-5BES011	
基礎地学実験	*d	1	30				1,2						ScS2A-5EES011	

卒業に必要な最低修得単位数や、卒業要件に含むことができる単位数の上限が、科目区分において設定されています。科目の必修、選択必修、指定などの条件に注意して履修して下さい。

実験・実習科目は、講義科目と単位数あたりの総時間数が異なります。

○で示される科目は該当のセメスターで開講されます。  
△で示されている科目は、その期間中いずれかで開講されます。

進化神経学	指定	2	30					○				ScS3D-5BMo-042
進化植物学		2	30					○				ScS3D-5BAP-032
生物化学Ⅲ		1	16					3				ScS3D-5BBM-061
生体分析化学		1	16					3				ScS3D-5BBM-071
生態環境分析学		1	16					3				ScS3D-5BEE-081
基礎生物学演習	必修	2	30		○							ScS2E-5BPE-012
生物学実験Ⅰ	選択必修	2	60				3					ScS2E-5BES-012
生物学実験Ⅱ	選択必修	2	60				4					ScS2E-5BES-022
生物学実験Ⅲ	選択必修	2	60					1				ScS3E-5BES-032
生物学実験Ⅳ	選択必修	2	60					2				ScS3E-5BES-042
生物学野外実習	*a	1	30							△		ScS2E-5BFW-011

【必修】科目は卒業に必須の科目です。

【選択必修】【指定】科目は、単位取得パターンが決められている科目です。

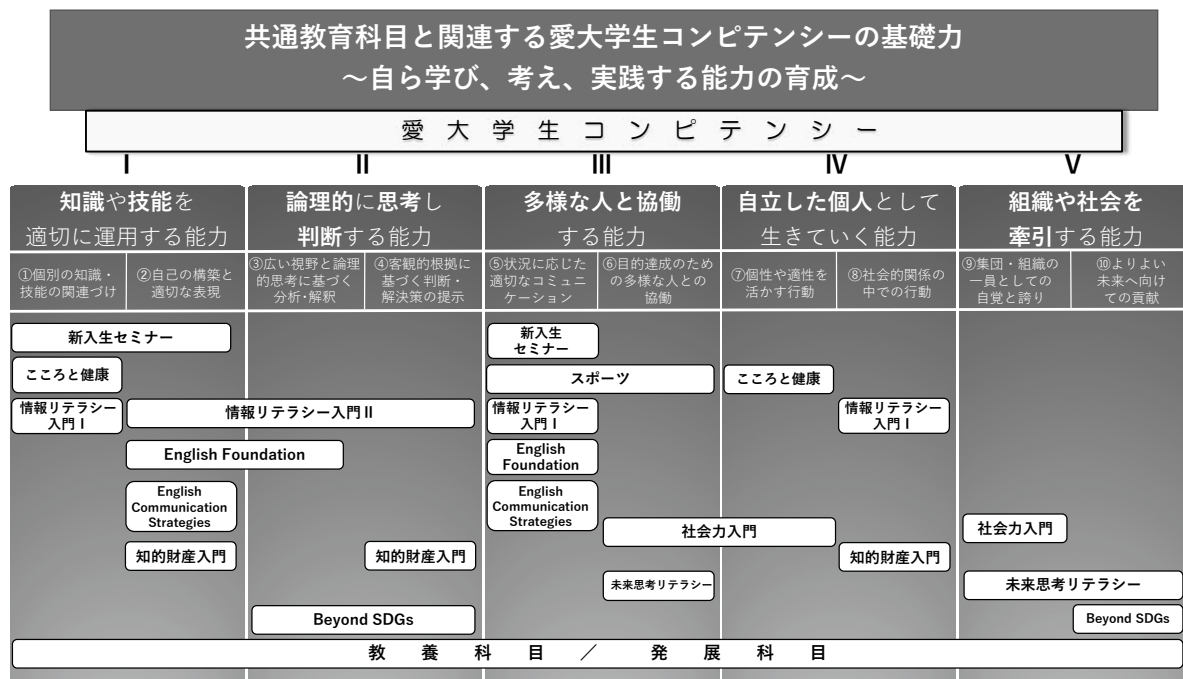
## 8-1 共通教育科目



### 共通教育の目的と実施方針

愛媛大学の共通教育は、愛媛大学憲章に謳われている理念にもとづき、学生が自ら学び、考え、実践する能力を身につけられるようにすることを目的としています。特に、総合大学としての利点を活かし、学生が様々な学問領域を学修することを通して、愛大学生コンピテンシーで示されている5つの能力を獲得できるように支援することをその方針としています。

愛大学生コンピテンシーで示されている能力を獲得するため、共通教育科目は次のように編成されています。



### (1) 教育目標

#### ①基盤科目

新入生が、健康で充実した学生生活を送るための知識や能力（ライフ・スキル）、大学における効果的な学修方法（スタディ・スキル）を獲得し、学修全般の基盤となる知識や能力を身に付けるための授業科目を開講します。

#### 新入生セミナー

新入生が大学での学びに必要な知識や能力を身に付け、主体的に学習を進められるよう支援することを目的とした授業科目です。

#### こころと健康

大学に入学した皆さんが、心身の健康のあり方について学ぶことにより、健全な学生生活を継続的に送ることを目的とした授業科目です。

## スポーツ

生涯にわたって心身ともに健やかな生活を送るために必要な知識及び技能の習得を目的とした授業科目です。

## 英語

共通教育における英語は、高校までに学んできた英語の知識の定着と維持の他、専門教育において必要不可欠な英語力及び世界で活躍するために必要なグローバルコミュニケーション力の養成に重点を置いています。

## 数学

高校で学習した数学を基礎として、学部における専門教育科目を学習する際に必要となる「微積分」を学ぶための授業科目です。

## 社会力入門

人生の新しい段階（社会）へと移行する若者の成長を支えるキャリア教育科目です。社会を形成し、維持していくために必要不可欠な資質・能力について学び、生涯を通じた持続的な就業力の育成や豊かな人間形成と人生設計について考えます。

## 情報リテラシー入門

ネットワークの安全性や仕組みを理解した上で、コンピュータを用いてデータをどのように取得し利用するのかを数理・データサイエンス及びAIの重要性と共に理解し、データ駆動型の社会に対応する能力を養成します。

## 知的財産入門

知的財産の全体概要を理解するとともに、レポートや論文作成時に必要とする知的財産の知識など、身近な事例をテーマにして、概念の理解や初歩的な知的財産対応力を養成します。

## ②未来思考支援科目

変化の時代を生き抜き、世界的課題を理解して地域や国内外に生じる未来に向けた課題解決に貢献できる人材となるための基礎的知識と思考力を身に付けるための授業科目を開講します。

## Beyond SDGs

いまなぜSDGsの達成が求められているのかについてその全体像を探るとともに、SDGsの17の目標と169のターゲットについての理解を深める授業科目です。

その上で、Beyond SDGs時代における地球のあるべき姿を追い求めるべく、現代社会が抱える課題がSDGsとどう関連するのか、そしてその克服の仕方について学びます。

## 未来思考リテラシー

これからの社会の担い手として、未来を予測し、変化する世界の中で他者と協働しながら、課題の解決や新しい価値の創造を行うための知識や姿勢について学ぶ授業科目です。

地域社会や地球環境など俯瞰した視野から未来を捉えることを目指します。

## ③教養科目

基本的なものの見方や知識を幅広く理解するとともに、主体的な学びを通して汎用的能力を育成し、良識ある社会人として求められる豊かな人間性を養うための授業科目を開講します。

## 愛大スタンダード科目

愛媛大学生として豊かな教養を身に付けるため、所属の学部の専門分野にとらわれず、様々な学問領域の概要や基本知識を幅広く理解することを目指す授業科目を開講します。

## 愛大プライム科目

「輝く個性で 地域を動かし世界とつながる大学」のスローガンのもと、特色のある教育プログラムが提供される授業科目を開講します。学内外での演習や宿泊を伴う研修などにも積極的に取り組み、愛媛大学ならではの学びに触れることを目的とします。例えば、「未来思考セミナー」は、「Beyond SDGs」「未来思考リテラシー」で学んだことを踏まえて、未来社会について予測したり展望を描いたりする対面によるゼミナール形式の授業科目です。さまざまなトピックについて未来思考の実践を行うことを目指します。

## 課題発見基礎セミナー

授業で解説された主題を基に、受講生が自ら課題（問い）を見つけ、授業内外における情報の収集や分析をとおして、主体的に探究学習を行うことを目的とする授業科目を開講します。能動的な学修の姿勢が求められます。

## 大学間連携科目

他大学と協力し、多岐に渡る分野の授業が実施される授業科目を開講します。大学コンソーシアムえひめ参加大学によるオムニバス形式の講義や、四国5大学連携共同実施による「知プラe科目」が開講されます。愛媛大学以外の大学教員からも、様々な学びを得てください。

## 初修外国語

「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「朝鮮語」とこれまで学ぶ機会がほとんどなかった英語以外の外国語を学ぶための授業科目を開講します。1年間を通して同一言語4単位を修得することを目指します。

## 教員免許に関する科目

「教職日本国憲法」及び「スポーツと教育」の2つの授業科目を開講します。教育職員免許状の取得を目指す学生以外は履修できません。詳細はP14に記載している履修条件を確認してください。

## ④発展科目

本学独自の資格取得を目的とする授業科目や全学的な副専攻的授業科目を開講します。発展科目には、「愛媛の食と農の持続可能性に関する科目」、「SUIJI サーバント・リーダー養成に関する科目」、「環境ESD指導者養成に関する科目」、「愛媛大学リーダーズ・スクールに関する科目」、「スキルアップ科目」があります。

## ⑤留学生対象科目

留学生の皆さんが日本での生活や学習に対応できるように、基礎レベルの日本語、日本の文化や伝統、日本社会の現実等について学ぶ授業科目を開講します。

1  
主要  
スケ  
ジュール

2  
愛  
大  
学  
生  
コ  
ン  
ビ  
ン  
テ  
ン  
シ  
ー

3  
教  
育  
の  
理  
念  
と  
教  
育  
方  
針

4  
大  
学  
で  
学  
ぶ  
基  
本  
知  
識

5  
単  
位  
制  
度

6  
履  
修  
登  
録  
単  
位  
数  
の  
上  
限

7  
教  
育  
コ  
ー  
ス  
の  
選  
択  
及  
び  
履  
修  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム  
の  
選  
択

8  
教  
育  
目  
標  
履  
修  
課  
目  
履  
修  
方  
法  
シ  
ス  
テ  
ム

9  
履  
修  
登  
録  
手  
続  
き  
等

10  
他  
学  
部  
履  
修  
課  
目

11  
単  
位  
互  
換  
課  
目

12  
受  
講  
上  
の  
注  
意  
事  
項

13  
試  
験  
・  
成  
績

14  
卒  
業  
認  
定  
・  
早  
期  
卒  
業  
制  
度

15  
履  
修  
課  
目  
履  
修  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム  
の  
変  
更  
・  
留  
学  
部  
の  
教  
科

16  
サ  
ポ  
ー  
ト  
の  
学  
び

17  
教  
育  
職  
員  
免  
許  
状

18  
そ  
の  
他  
の  
資  
格

19  
留  
学  
生  
の  
支  
援  
テ  
ィ  
の

## (2) 教育課程表

授業科目の区分等	授業科目	単位数	必修	最低修得単位数	週授業時間																	
					1年次				2年次				3年次									
					前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期							
					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q						
基盤科目	新入生セミナー	2	○	13	2																	
	こころと健康	1	○		2																	
	スポーツ	1	○		2																	
	英語	English Foundation	1		○	2																
		English Communication Strategies	2		○		4	4														
	数学	微積分	2		○	4																
	社会力入門	1	○				2															
	情報リテラシー入門	情報リテラシー入門Ⅰ	1		○	2																
		情報リテラシー入門Ⅱ	1		○	2																
知的財産入門	1	○			2																	
未来思考支援科目	Beyond SDGs	1	○	2						2												
	未来思考リテラシー	1	○							2												
教養科目	愛大スタンダード科目	自然	自然法則の探究	1	3	9																
			宇宙・地球のすがた	1																		
			物質の構造と変化	1																		
		技術	技術の力	1																		
			科学技術と人間	1																		
		生命	データリテラシー入門	1																		
			生命と物質	1																		
			生命の営み	1																		
		人間	生命を守る	1																		
			多様性と共生	1																		
			ことばの力	1																		
		制度	文化・芸術を読み解く	1																		
			ビジネスリサーチ	1																		
			政治・経済の考え方	1																		
	社会	なぜ法を知るべきか	1																			
		歴史からの問い	1																			
		地理から見た世界	1																			
		環境と社会	1																			
		愛大プライム科目	1					(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		愛大プライム科目	2					(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		課題発見基礎セミナー	1					(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		課題発見基礎セミナー	2					(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		大学間連携科目	1					(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
		大学間連携科目	2					(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)	(2)				
	初修外国語	初級ドイツ語Ⅰ、初級フランス語Ⅰ、初級中国語Ⅰ、初級朝鮮語Ⅰ	各1					4														
		初級ドイツ語Ⅱ、初級フランス語Ⅱ、初級中国語Ⅱ、初級朝鮮語Ⅱ	各1					4														
		初級ドイツ語Ⅲ、初級フランス語Ⅲ、初級中国語Ⅲ、初級朝鮮語Ⅲ	各1						4													
初級ドイツ語Ⅳ、初級フランス語Ⅳ、初級中国語Ⅳ、初級朝鮮語Ⅳ		各1							4													
教員免許に関する科目	スポーツと教育	1											2									
	教職日本国憲法	2											2									
	教養科目 計			12																		
発展科目	(科目の詳細についてはP14～17参照)																	修得した単位は卒業要件に含まます				
留学生対象科目	(科目の詳細についてはP17参照)																	外国人留学生対象の科目です				
	共通教育科目 計			27																		

「週授業時間」は、1週間あたりの授業開講時間数を示します。愛媛大学では、1回90分の授業を2時間として計算するため、「2」の場合は週に「1回」、「4」の場合は週に「2回」開講されることを示します。なお、愛大プライム科目、課題発見基礎セミナー、大学間連携科目は、上表の履修時期に開講がない場合や集中講義として開講される場合があるため、「週授業時間」を（ ）を用いて表しています。

注1 English Communication Strategiesの履修時期は、学生証番号の中の3桁の「個人番号」（P48参照）によって以下のように指定されています。

学生証番号の中の個人番号が 1～120・・・第3クォーターに履修

学生証番号の中の個人番号が 121～・・・第4クォーターに履修

注2 教養科目12単位のうち3単位以上は愛大スタンダード科目から修得してください。

注3 愛大スタンダード科目の「週授業時間」欄の（ ）内は、各クォーターで履修できる科目数の上限を表しています。

### (3) 履修方法

#### ①履修上の注意事項

##### 1) 重複履修の禁止

一度履修して単位を修得した授業科目を、再度履修することはできません。ただし、一部の授業科目では、重複履修が認められています。

##### 2) 夜間開講科目の履修禁止

法文学部夜間主コース以外の学生は、夜間開講の共通教育授業科目を履修することはできません。ただし、6時限目に開講される初修外国語はこの限りではありません。

#### ②教養科目

教育上の効果や円滑な授業運営を図るため、一部の授業科目を除いて各授業科目に受講定員を設けています。履修登録者数が定員を超えた場合は修学支援システムの抽選機能を用いて抽選が行われますので、必ず抽選結果を確認し、抽選漏れした場合は履修登録修正期間中に他の授業科目を登録してください。抽選後の登録は先着順となります。

なお、集中講義では、履修登録者数が定員に達すると、登録を締め切る場合があります。

#### 愛大スタンダード科目

理学部では、愛大スタンダード科目は人間・制度・社会を含めて履修し、特定の専門分野に偏ることがないようにバランス良く履修することを推奨します。

1) 1年次の前学期から履修できます。1年次の前・後学期（第1クォーター～第4クォーター）及び2年次の前学期（第1クォーター・第2クォーター）は、学部ごとに指定された月曜日から土曜日開講の授業科目群の中から履修してください。

なお、土曜日開講の授業科目は法文学部夜間主コースのみ履修できます。

2) 2年次前学期までは、クォーターごとに履修できる授業科目数に上限があります。教育課程表（P12）の「週授業時間」欄に記された（ ）内が、各クォーターで履修できる科目数の上限となりますので確認してください。2年次第3クォーター以降は授業科目群及び科目数に制限なく自由に履修できます。

3) 各クォーターで履修できるのは原則として各曜日1科目までです。

4) 同一科目名でも、担当教員が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

#### 課題発見基礎セミナー

1) 1年次の前学期から履修できます。授業題目が科目によって異なりますので、シラバスで授業題目を確認のうえ履修してください。授業題目「微積分入門」として開講されるセミナーは、1年生を対象に開講される数学の補完授業ですが、受講は任意です。

2) 担当教員が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。（同じ担当教員が1単位科目の課題発見基礎セミナーと2単位科目の課題発見基礎セミナーを開講している場合は、別科目となりますので両方を履修できます。）

#### 初修外国語

1) 初修外国語は、「ドイツ語」、「フランス語」、「中国語」、「朝鮮語」の言語ごとに、第1クォーターから第4クォーターまで、それぞれⅠ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ（例、「初級ドイツ語Ⅰ」～「初級ドイツ語Ⅳ」）の授業科目が、毎週2回ずつ開講され、1年次から履修できます。

2) 初修外国語は、同一言語を前学期・後学期と継続して受講することを前提に、1年間通して開講されます。

前学期（第1クォーター・第2クォーター）についてはⅠとⅡの授業科目を、後学期（第3クォーター・第4クォーター）についてはⅢとⅣの授業科目をセットで履修してください。（ⅠとⅡの単位を両方修得していなければ、ⅢとⅣの履修はできません。）


- 3) 初修外国語に含まれるいずれかの言語を母語とする学生は、当該外国語を履修することができません。
- 4) 異なる言語の科目を複数履修することも可能です。(重複履修にはあたりません。)

### 愛大プライム科目

- 1) 1年次の前学期から履修できます。
- 2) 授業題目が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

### 大学間連携科目

- 1) 1年次の前学期から履修できます。
- 2) 大学間連携科目のうち、四国5大学連携共同実施による「知プラe科目」については、詳しい受講方法を以下のサイトで確認してください。

 [大学連携e-Learning教育支援センター四国ホームページ](#) (愛媛大学学生向け履修案内)



- 3) 授業題目が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

### 教員免許に関する科目

教育職員免許状の取得を希望する学生以外は履修できません。

教員免許に関する授業科目の履修条件は次のとおりです。

#### 「教職日本国憲法」の履修条件

- 1) 「教職履修ガイダンス」に出席していること
- 2) 「教職基礎論」を修得済みであること

#### 「スポーツと教育」の履修条件

- 1) 「教職履修ガイダンス」に出席していること
- 2) 「教職基礎論」を修得済みであること
- 3) 「スポーツ」を修得済みであること

※第1期リフレクション・デイに参加し、教職課程学習ポートフォリオ(リフレクション・ログを含む)を提出していることを2)の代替条件とすることができます。

※「教職履修ガイダンス」は前学期中に開催予定です。詳細は教職教育チームにお問い合わせください。

### ③発展科目

#### 愛媛の食と農の持続可能性に関する科目

本プログラムは、持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて、フードバリューチェーン(Food Value Chain)と食料安全保障(Food Security)の重要性を理解し、食と農の持続可能性について探求することを目的としています。所定科目の単位を修得し、修了要件を満たした学生には、「Sustainable-FVCプログラム修了証」が授与されます。なお、本プログラムは英語(音声・字幕)で提供されます。プログラムの詳細については以下のサイトで確認してください。

 [https://aac.isc.ehime-u.ac.jp/ehimeu\\_asean-gfs](https://aac.isc.ehime-u.ac.jp/ehimeu_asean-gfs)



#### 【修了認定】

本プログラムの修了認定を受けるためには、所定の授業科目を修得する必要があります。次の表にしたがって計画的に履修してください。なお、履修を希望する学生は、毎学期初めに開催されるガイダンスに出席することが必要です。

愛媛の食と農の持続可能性に関する科目	単位	1年次生以上		2年次生以上	
		前	後	前	後
SDGs×Food-Value-Chain in Ehime for Glocal Food Security	1	○	○		
田舎×持続可能性でブランド化する愛媛と世界の経済学	1	○	○		
食と農の持続可能性と地域のイニシアティブ※	1				○
食と農のマルチスピーシーズ持続可能性理論※	1				○
合計	4				

※社会共創学部の専門教育科目として開講される科目です。

### SUIJIサーバント・リーダー養成に関する科目

グローバルな視野を持ちながら、地域に立脚し、未来社会の持続的発展に貢献できる国際的なサーバント・リーダーの育成を目的としています。所定科目の単位を修得し、修了要件を満たした学生には、SUIJIコンソーシアム※より、SUIJI サービスラーニング・プログラムコースの修了証が授与されます。

※SUIJI コンソーシアムは、愛媛大、香川大、高知大、ガジャマダ大、ボゴール農業大、ハサヌディン大の6大学からなるコンソーシアム。SUIJIはSix-University Initiative Japan Indonesiaの略。

#### 【修了認定】

SUIJI サービスラーニング・プログラムコースの修了認定を受けるためには、所定の授業科目を修得する必要があります。次の表にしたがって、計画的に履修してください。なお、履修を希望する学生は、毎学期初めに開催されるガイダンスに出席することが必要です。

SUIJI サーバント・リーダー養成に関する科目	単位	1年次生以上		2年次生以上	
		前	後	前	後
SDGsーグローバル未来創成入門※ 1	2	○			
ベーシック国内サービスラーニング※ 2	4	○			
ベーシック海外サービスラーニング※ 2	4		○		
アドバンスド国内サービスラーニング※ 2	4			○	
アドバンスド海外サービスラーニング※ 2	4				○
合計	18				

※ 1 「環境ESD指導者養成に関する科目」で開講される授業科目です。

※ 2 開講時期については変更となる場合があります。

### 環境ESD指導者養成に関する科目

国連SDGs (SDGs : Sustainable Development Goals) の達成を目指して、持続可能な社会づくりのための教育 (ESD : Education for Sustainable Development) を担うことのできる環境ESD指導者の育成を目的としています。

本コースでは、国連SDGs (持続可能な開発目標) と地域規模の環境・経済・社会問題について学ぶほか、フィールド調査や公開講座の企画・開催を行います。

所定の単位を修得し、修了要件を満たした学生には、環境ESD指導者養成コースの修了認定証を授与します。

#### 【修了認定】

環境ESD指導者養成コースの修了認定を受けるためには、所定の授業科目を修得する必要があります。次の表にしたがって、計画的に履修してください。なお、履修を希望する学生は、毎学期初めに開催され

るガイダンスに出席することが必要です。

環境ESD指導者養成コース修了認定科目	単位	1年次生以上		2年次生以上	
		前	後	前	後
SDGsーグローバル未来創成入門	2	○			/
環境ESD指導者養成講座Ⅰ	4		○		
環境ESD指導者養成講座Ⅱ	4			○	
合計	10				

### 愛媛大学リーダーズ・スクール (ELS) に関する科目

本プログラムは、在学中ならびに卒業後に地域・国際社会に貢献し得るリーダーを養成する、愛媛大学独自の取り組みです。

受講生は、教職員からの指導や先輩学生からのサポート等を通して、自身のリーダーとしてのスキルやマインドを開発・成長させることができます。

プログラムの詳細については以下のサイトで確認してください。

#### ☑ 愛媛大学リーダーズ・スクール



#### 【資格認定】

本プログラムでは、授業を含めた以下の要件を満たすことによって、本学公認の資格「愛媛大学リーダーズ・ライセンス」を取得することができます。

1. 授業科目「愛媛大学リーダーズ・スクール」の履修（必修）
2. 授業科目「ファシリテーションとリーダーシップ」(EFL) の履修（必修）
3. ELS認定科目の履修（選択必修）
4. ELS / EFL / 西日本学生リーダーズ・スクール (UNGL) プロジェクト等のリーダー経験
5. その他ELS授業内でアナウンスする学内外のセミナー・研修等の受講

愛媛大学リーダーズ・ライセンスを取得するためには所定の授業科目を修得する必要があります。次の表にしたがって、計画的に履修してください。

授業科目		単位	1年次生～4年次生	
			前期	後期
必修	愛媛大学リーダーズ・スクール	2	集中	
	ファシリテーションとリーダーシップ	2	/	集中
選択必修	グローバル・リーダーシップⅠ※	1	/	集中
	グローバル・リーダーシップⅡ※	1	/	集中
	グローバル・リーダーシップⅢ※	1	/	集中
	グローバル・リーダーシップⅣ※	1	/	集中
	リーダーシップ・フィールド演習Ⅰ※	2	集中	
	リーダーシップ・フィールド演習Ⅱ※	2	集中	
	リーダーシップ・フィールド演習Ⅲ※	2	集中	
	その他のELS認定科目	1～2	随時履修	

※重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

## スキルアップ科目

スキルアップ科目とは、基礎的な科目を習得した後、さらに経験を積みたい、また、高度な内容を学び知識を深めたい、継続して学びたい場合に履修できる発展的な科目です。

授業科目名	単位	開講時期	授業科目の概要
英語S1	2	夏季集中	海外での短期語学研修に参加した学生に対して、研修先より発行された修了証等を確認し、単位を認定する授業です。なお、事前・事後指導の受講が義務づけられており、それらを適切に受講していない場合は、単位認定は行われません。なお、いずれも重複履修ができ、単位を修得できる科目です。
英語S2	2	春季集中	
英語S3	2	前・後学期	

## ④留学生対象科目

外国人留学生（大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学した外国人留学生）及び外国人留学生以外の学生で外国において相当の期間、中等教育（中学校又は高等学校で受ける教育に相当する）を受けた学生（帰国子女）のうち、所属する学部で履修を許可された学生に対して、次のような授業科目を開講しています。これらの授業科目には履修上の特例が定められています。詳しくは各学部の指示に従って履修してください。

区分	授業科目	単位	原則的な履修年次（単位）			
			1年次			
			前学期		後学期	
			第1クォーター	第2クォーター	第3クォーター	第4クォーター
日本語科目	アカデミックジャパニーズ1	1	1			
	アカデミックジャパニーズ2	1		1		
	アカデミックジャパニーズ3	1			1	
日本事情に関する科目	日本事情A 1※	2	2			
	日本事情A 2※	2			2	
	日本事情B 1※	2	2			
	日本事情B 2※	2			2	

※同一科目名でも、担当教員が異なれば、重複履修ができ、単位を修得できる科目です。

外国人留学生が、上表の授業科目について次の表の第1欄に掲げる単位を修得したときは、学部の定めるところにより、第2欄に掲げる単位に代えることができます。なお、「日本語科目」と「英語」の単位を合算して3単位にすることはできません。

第1欄	第2欄
日本語科目 3単位	英語 3単位
日本事情に関する科目 8単位まで	教養科目 8単位まで

### 共通教育科目履修上の注意

1. 基盤科目（必修）の単位を1年次に修得しておかないと、2年次以降の専門教育科目の履修計画に支障が出る場合があります。
2. 教養科目の愛大スタンダード科目については、3単位以上の修得が必要です。人間・制度・社会を含めて履修し、特定の専門分野に偏ることがないようにバランス良く履修することを推奨します。
3. 教養科目の「初修外国語」を履修する場合は、前学期についてはⅠとⅡ、後学期についてはⅢとⅣをセットで履修してください。
4. 理学部では、修得した「発展科目」の単位を卒業要件に算入することができます。
5. 「留学生対象科目」は、外国人留学生／帰国子女のうち履修を許可された学生を対象とした日本語・日本事情に関する科目です。一部の科目を「英語(English Foundation、English Communication Strategies)」または教養科目とすることができます。

## 8-2 専門教育科目

理学部で開講される専門教育科目は、学修目的に応じて「必修基礎科目」「共通基礎科目」「共通課題科目」「コース体系科目」「コース課題科目」「特別科目・関連科目」「キャリア科目」に区分されています。開講（予定）科目は、本手引の教育課程表（表8-1、8-2、8-3、8-5、8-6、8-7、8-8）に掲載されています。科目表は入学年度ごとに規定されているので、必ず自分の入学年度の履修の手引を参照してください。なお、科目表にない専門教育科目が追加で開講される場合があります。

卒業のためには、所属の教育コースが定める要件に沿って専門教育科目を修得する必要があります。学修を進める上で履修が推奨される科目は、所属コース・履修プログラムや学生個々の志向・キャリアビジョンにより異なります。所属（希望）のコースのカリキュラムを理解し、履修モデルを参考にして、自分に合った履修計画を作成しましょう。

### (1) 必修基礎科目

大学生活を有意義に過ごすための基礎を学ぶ必修の科目で、1年次前学期に開講されます。自己理解を深め、計画的に時間を管理することを学びます。また、ピア・エデュケーションの方法を身につけ、学生間のソーシャル・ネットワークを構築します。

### (2) 共通基礎科目

理学部で専門教育科目を学ぶために必要となる「数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学」の基礎を体系的に学ぶ科目群で、講義科目と基礎実験科目が理学部の共通科目として1-2年次に開講されます。各分野の俯瞰的内容を含み、自然科学への広い視野と人間と自然環境との関わりについての理解のほか、高校理科・数学から大学の理学に接続する役割を担っています。複数の分野を必ず学修するように、8単位以上修得する必要があります。履修人数の調整または理解度別・目的別に分けるために、複数のクラスを開講する科目があります。

### (3) 共通課題科目

共通課題科目は、最終学年の4年次（早期卒業予定者は3年次後学期と4年次前学期）に、それまでの学修の集大成として、指導教員の下で具体的な科学研究・調査等の総合的課題に挑戦し、実験・実習、課題探索・解決、発表・討論などの実践力・応用力を養う授業科目です。必修科目の「科学研究倫理」「特別演習Ⅰ・Ⅱ」と指定科目の「特別研究Ⅰ・Ⅱ」「課題研究」があり、それぞれ履修するための要件がコースごとに定められています。

#### (4) コース体系科目・コース課題科目

コース体系科目・コース課題科目は、数学・数理情報、物理学、化学、生物学、地学の各コースが開講するコースの基幹となる専門教育科目です。各コースが提供する履修モデルに沿って体系的に学修することで、コース分野における学問基盤となる標準的専門知識・技能を修得することができます。

コース課題科目は、分野固有の実験、フィールドワーク、課題探索・解決、発表・討論などの技術・能力を養うための実験・実習・セミナー形式の授業科目です。多くの科目がコースの必修または選択必修科目で、履修の方法や要件が定められている場合があります。なお、所属するコース以外のコースの課題科目を履修することはできません。

理学部では、教育コース・履修プログラムに関わらず、境界領域や複数分野の基礎を学修するなどの目的で、所属するコース以外のコース体系科目を履修することが可能です。修得したコース外の体系科目は、関連科目として取り扱われます。

#### (5) 特別科目・関連科目

特別科目は、科学コミュニケーションプログラム・課題挑戦プログラムを特徴づける少人数対象のセミナー形式または実習形式の授業科目です。

「科学コミュニケーション科目」は、地域や海外といったフィールドでの実践を通じて、所属コースをはじめとする理学分野の知識を活用するための実践力を高めることを目指した特別科目です。実践フィールドとして、地域フィールドと海外フィールドの2つが用意されており、地域フィールド志向の学生は小中学生・高校生や一般の人に科学の魅力を伝える実践に取り組み、海外フィールド志向の学生は英語を中心とした外国語を活用した科学分野でのコミュニケーションを円滑に行うための実践に取り組みます。

「課題挑戦科目」は、先端研究院が取り組む宇宙物理学・地球惑星科学・環境科学分野の学際的前端研究に関する学術セミナーです。各分野の研究課題・方法論・国際的な動向などに直接触れ、これらの研究分野に進む意欲と学修のモチベーションを高めることが目的です。

関連科目は、所属コース以外の教育コースのコース体系科目、及び他学部または他大学等で開講の専門教育科目のうち認定された専門教育科目です。

修得した特別科目・関連科目の単位は、合計で16単位まで卒業要件に含めることができます。

#### (6) キャリア科目

キャリア科目は、卒業後の職業人としてのあり方を自己啓発するための授業科目です。理学部では「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」「インターンシップ」「キャリア形成セミナー」が開講されます。また、教育職員免許状・学芸員資格の取得に必要な「教科の指導法に関する科目」(表17-2A/B上部分)「教育の基礎的理解に関する科目等」(表17-3)「博物館に関する科目」(表18-1)も、キャリア科目に区分されます。

修得したキャリア科目は、合計で10単位まで卒業要件に含めることができます。

1  
主要  
ス  
ケ  
ジュール

2  
愛  
大  
学  
生  
コ  
ン  
ピ  
ュ  
ー  
シ  
ー

3  
教  
育  
の  
理  
念  
と  
教  
育  
力  
針

4  
大  
学  
で  
学  
ぶ  
基  
本  
知  
識

5  
単  
位  
制  
度

6  
履  
修  
登  
録  
単  
位  
数  
の  
上  
限

7  
教  
育  
コ  
ー  
ス  
の  
選  
択  
及  
び  
履  
修  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム  
の  
選  
択

8  
教  
育  
目  
標  
履  
修  
方  
法  
科  
目  
ナ  
ン  
バ  
ー

9  
履  
修  
登  
録  
手  
続  
き  
等

10  
他  
学  
部  
履  
修  
課  
目

11  
単  
位  
互  
換  
科  
目

12  
受  
講  
上  
の  
注  
意  
事  
項

13  
試  
験  
・  
成  
績

14  
卒  
業  
認  
定  
・  
早  
期  
卒  
業  
制  
度

15  
履  
修  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム  
の  
変  
更  
・  
コ  
ー  
ス  
の  
変  
更  
・  
学  
部  
の  
教  
育

16  
サ  
ポ  
ー  
ト  
の  
学  
び

17  
教  
育  
職  
員  
免  
許  
状

18  
そ  
の  
他  
の  
資  
格

19  
留  
学  
・  
ア  
ク  
テ  
ィ  
ビ  
テ  
ィ  
の  
支  
援

## キャリア教育とインターンシップを将来のために

大学で学んだ知識や考え方を将来の生活設計（キャリアデザイン）に活かすためには、在学中に自分の適性を知り、卒業後何をもって社会に貢献したいのか十分に考えておくことが大切です。そのうえで、自分の希望や適性にあった進路や職場を選択する必要があります。そのためには自身を掘り下げ、就職先を知ることが必要です。

これらに対応できるよう愛媛大学理学部では、2年次後学期から3年次前学期に開講される「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」（各1単位）を用意しています。この中では「自己分析講座」や「企業が求める理系人材」などキャリア形成を行うにあたって基礎となる部分を掘り下げたり、企業研究や自己PRといった就職活動に直結する内容を扱ったりしています。3年次後学期には「キャリア形成セミナー」を開講しています。ここでは、地元を中心に、企業活動を知ることにより、自身の生き方や社会への貢献のしかたについて考えることを目的とします。企業の経営者や採用担当者に来てもらい、企業の社会における役割や企業が求める人材像について、具体的に語ってもらいます。また、「インターンシップ」で実際の職場体験をすることにより、自らのキャリアデザインをさらに豊かにすることができます。

インターンシップ（就業実習）は、企業や自治体、研究機関で実際に1-2週間働き、自分の専攻分野や希望職種に関連した就業の体験をする授業科目(2単位)です。この科目を通じて、人々がどのような役割を担いどのように連携して社会を動かしているか、どのような場面でどのような技能や知識が求められているか、などを知ることによって大学で学ぶことの意義、現代社会を支える自然科学の重要性を認識するのが狙いです。

インターンシップは、3年次に受講することができます。大学としては愛媛県下の大学とコンソーシアムを組み、インターンシップを実施していますが、理学部ではコンソーシアム以外の企業でも単位取得を可としています。単位取得に対して不安があれば、お気軽に授業担当教員に相談してください。

なお、この授業科目は企業や自治体、研究機関の好意に満ちた協力によって実施できていることを十分に理解して授業に臨んでください。

表8-2 理学部理学科の専門教育科目

区分	科目名	必修/ 指定/ 履修要件	単位数	総時間数	開講学年・クォーター								科目コード		
					1年次		2年次		3年次		4年次				
					前	後	前	後	前	後	前	後			
必修基礎科目	理学部基礎セミナー	必修	1	15	○									ScS1G-5XCB011	
共通基礎科目	数学の基礎		1	16	1									ScS1A-5MBa011	
	数理情報の基礎		1	16	1									ScS1A-5MBa021	
	物理学Ⅰ		2	30	○									ScS1A-5PBa012	
	化学Ⅰ		1	16	1	3								ScS1A-5CBa011	
	化学Ⅱ		1	16	2	4								ScS1A-5CBa021	
	生物学Ⅰ		2	30	○									ScS1A-5BBa012	
	地学Ⅰ		2	30	○									ScS1A-5EBa012	
	数学Ⅰ		2	30		3								ScS1A-5MBa032	
	数学Ⅱ		2	30		4								ScS1A-5MBa042	
	物理学Ⅱ		2	30	○									ScS1A-5PBa022	
	化学Ⅲ		1	16		3								ScS1A-5CBa031	
	化学Ⅳ		1	16		4								ScS1A-5CBa041	
	生物学Ⅱ		2	30		○								ScS1A-5BBa022	
	地学Ⅱ		2	30		○								ScS1A-5EBa022	
	基礎物理学実験	*a	1	30			1,2							ScS2A-5PES011	
基礎化学実験	*b	1	30			2	3						ScS2A-5CES011		
基礎生物学実験	*c	1	30			1,2							ScS2A-5BES011		
基礎地学実験	*d	1	30			1,2							ScS2A-5EES011		
共通課題科目	科学研究倫理	必修*e	1	15								△		ScS4B-5XRX011	
	特別演習Ⅰ	必修*e	2	30								○		ScS4B-5XRX022	
	特別演習Ⅱ	必修*e	2	30								○		ScS4B-5XRX032	
	課題研究	指定*f	4	120								○		ScS4B-5XRX044	
	特別研究Ⅰ	指定*f	6	180								○		ScS4B-5XRX056	
	特別研究Ⅱ	指定*f	8	240								○		ScS4B-5XRX068	
コース体系科目	所属する教育コースのコース体系科目														
コース課題科目	所属する教育コースのコース課題科目														
特別科目	科学コミュニケーションⅠ		2	30			△							ScS1F-5XSC012	
	科学コミュニケーションⅡA	*g	2	30				△						ScS2F-5XSC022	
	科学コミュニケーションⅢA	*g	2	30					△					ScS3F-5XSC032	
	科学コミュニケーションⅡB	*g	2	30				△						ScS2F-5XSC042	
	科学コミュニケーションⅢB	*g	2	30						△				ScS3F-5XSC052	
	課題挑戦 キックオフセミナー		1	16		3								ScS1F-5XAS011	
	宇宙科学セミナーⅠ	*h	2	30				○						ScS2F-5XAS022	
	宇宙科学セミナーⅡ	*h	2	30					○					ScS3F-5XAS032	
	宇宙科学セミナーⅢ	*h	2	30						○				ScS3F-5XAS042	
	地球科学セミナーⅠ	*i	2	30				○						ScS2F-5XAS052	
	地球科学セミナーⅡ	*i	2	30					○					ScS3F-5XAS062	
	地球科学セミナーⅢ	*i	2	30						○				ScS3F-5XAS072	
	環境科学セミナーⅠ	*j	2	30				○						ScS2F-5XAS082	
	環境科学セミナーⅡ	*j	2	30					○					ScS3F-5XAS092	
環境科学セミナーⅢ	*j	2	30						○				ScS3F-5XAS102		
関連科目	所属コース以外の教育コースのコース体系科目／他学部・他大学の認定科目														
キャリア科目	キャリアデザインⅠ		1	15					△					ScS2C-5XCa011	
	キャリアデザインⅡ		1	15						△				ScS3C-5XCa021	
	インターンシップ		2	30							△			ScS3C-5XCa032	
	キャリア形成セミナー		1	15								△		ScS3C-5XCa041	
	教職科目	表17-2A/B上部分(教科の指導法に関する科目)、17-3													
	博物館に関する科目	表18-1													

1 主要スケジュール  
2 愛大学生コンベンション  
3 学部の理念と教育方針  
4 大学で学ぶ基本知識  
5 単位制度  
6 履修登録の位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標と教育課程  
9 履修登録の手続き等  
10 他学部授業科目履修  
11 単位互換科目  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業認定・卒業制度  
15 履修プログラム変更/転学部の教員  
16 学びのサポート  
17 教育職員免許状  
18 その他資格  
19 留学・アクティビティの支援

\*a-d. 基礎実験の履修には下記の要件がある。実験の定員に沿ったクラス分けを行うので、前年度末に理学部事務課学務チームに「基礎実験希望願」を回答する必要がある。(修学支援システムの通知に注意)

a. 基礎物理学実験：「物理学Ⅰ」または「物理学Ⅱ」を修得済であること。

b. 基礎化学実験：「化学Ⅰ・Ⅱ」の計2単位を修得済であること。

c. 基礎生物学実験：「生物学Ⅰ」または「生物学Ⅱ」を修得済であること。

d. 基礎地学実験：「地学Ⅰ」または「地学Ⅱ」を修得済であること（地学コース所属学生を除く）。

\*e, f 共通課題科目の履修には、教育コースが定める修得単位に関する要件に加え、下記の要件がある。

e. 「科学研究倫理」は「特別演習Ⅰ」と同時に履修する必要がある。(または、「特別演習Ⅰ」が修得済である必要がある。)[特別演習Ⅱ]の履修には、「科学研究倫理」と「特別演習Ⅰ」が修得済である必要がある。

f. 「特別研究Ⅰ」は「特別演習Ⅰ」と同時に履修する必要がある。(または、「特別演習Ⅰ」が修得済である必要がある。)[課題研究][特別研究Ⅱ]は「特別演習Ⅱ」と同時に履修する必要がある。(または、「特別演習Ⅱ」が修得済である必要がある。)[課題研究][特別研究Ⅰ][特別研究Ⅱ]から2科目以上を同時に履修することはできない。

\*g. 科学コミュニケーションⅡ・Ⅲ(A/B)は、科学コミュニケーションプログラム選択者のみが履修できる。履修には、それぞれ「科学コミュニケーションⅠ・ⅡA/B」を修得している必要がある。

\*h-j. 宇宙科学セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ/地球科学セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ/環境科学セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲは、課題挑戦プログラム選択者のみが履修できる。

h. 宇宙科学セミナーⅡ・Ⅲ：それぞれ「宇宙科学セミナーⅠ・Ⅱ」を修得している必要がある。

i. 地球科学セミナーⅡ・Ⅲ：それぞれ「地球科学セミナーⅠ・Ⅱ」を修得している必要がある。

j. 環境科学セミナーⅡ・Ⅲ：それぞれ「環境科学セミナーⅠ・Ⅱ」を修得している必要がある。

## 8-3 共通課題科目の概要

### 科学研究倫理（必修）

「科学研究倫理」は、科学研究に携わる者が常に意識し遵守しなければならない倫理・コンプライアンスと安全衛生の基礎について、E-learning教材も用いつつ学ぶ科目です。特別演習・特別研究・課題研究で本格的な調査・研究活動を開始する際に受講します。

### 特別演習Ⅰ・Ⅱ（必修）

「特別演習Ⅰ・Ⅱ」は、科学研究者に必要な「調査・研究（リサーチワーク）を主体的に進める能力」を育むことを目的として、特別研究または課題研究の受講を前提にゼミナール形式で実施されます。学生ごとに指導教員を定め、指導教員との一対一の授業、または指導教員の属する教育研究グループにおける少人数での授業を受講します。

### 特別研究Ⅰ・Ⅱ（指定）

「特別研究Ⅰ・Ⅱ」は、最終学年において研究に必要な先端的知識・技術を新たに修得し、それらを用いた科学の主体的な実践を経て自ら新たな知見を獲得して、その成果を適切にまとめて発表する「研究」の過程を実践的に学ぶ科目です。学生ごとに、特別研究Ⅰ・Ⅱを通して1年間で実施できる具体的な研究テーマを設定し、そのテーマに沿って調査・研究を主体的に進めます。学生は、特別演習Ⅰ・Ⅱで定めた指導教員の教育研究グループに所属し、そのグループが提供する授業を受講します。

### 課題研究（指定）

「課題研究」は、最終学年において科学に関係する一般的・社会的なテーマを含む総合的な調査・研究に取り組み、学術調査の過程を学ぶ科目です。学生ごとに、興味に沿った調査・研究課題を設定し、リサーチワークの1サイクルを実施する中で、サイエンスリサーチャーとして必要な知識・経験・能力を培います。調査・研究の成果は、適切な報告書としてまとめて提出し、評価を受けます。学生は、特別演習Ⅰ・Ⅱで定めた指導教員または指導教員の教育研究グループが提供する授業を受講します。

#### ※科目の履修要件の判定

共通課題科目、実験科目等の一部には「履修要件」が設定されています。履修要件は、その科目を履修するために必要な修得単位に関する条件です。履修要件を満たすかどうかの判定は、該当科目が開講される学期の直前の学期の成績通知日までに認定された単位を対象に行われます。成績通知日以降に遅れて認定された単位は、その学期に開講された科目のものであっても原則として判定の対象となりません。

1  
主要  
スケ  
ジュール

2  
愛大  
学生  
コン  
ピテン  
シー

3  
教育  
の理  
念  
と教  
育方  
針

4  
大  
学  
で  
学  
ぶ  
基  
本  
知  
識

5  
単  
位  
制  
度

6  
履  
修  
登  
録  
単  
位  
数  
の  
上  
限

7  
教  
育  
コ  
ー  
ス  
の  
選  
択  
及  
び  
履  
修  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム  
の  
選  
択

8  
教  
育  
目  
標  
履  
修  
課  
目  
ナ  
ン  
バ  
ー  
シ  
ス  
テ  
ム

9  
履  
修  
登  
録  
手  
続  
き  
等

10  
他  
学  
部  
履  
修  
課  
目

11  
単  
位  
互  
換  
課  
目

12  
受  
講  
上  
の  
注  
意  
事  
項

13  
試  
験  
・  
成  
績

14  
卒  
業  
認  
定  
・  
早  
期  
卒  
業  
制  
度

15  
履  
修  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ム  
の  
変  
更  
・  
コ  
ー  
ス  
の  
変  
更  
・  
学  
部  
の  
変  
更

16  
サ  
ポ  
ー  
ト  
の  
学  
び

17  
教  
育  
職  
員  
の  
免  
許  
状

18  
そ  
の  
他  
の  
資  
格

19  
留  
学  
・  
ア  
ク  
テ  
ィ  
ビ  
テ  
ィ  
の  
支  
援

### ※1年次の履修計画

1. 今年度開講の授業科目が次年度も同じ内容・同じ時間帯で開講されるとは限りません。また、カリキュラム変更により科目自体が廃止される場合があります。卒業や資格取得に必要な授業科目を、科目表に記載されている開講年次以外の年次に履修する計画を立てないように注意してください。
2. 教育コースの選択は2年次からですが、コースの基盤となる専門教育の体系科目の一部が1年次後学期（4Q）に開講されます。進路選択について早めに検討してください。
3. 教育職員免許状・学芸員資格の取得に必要な科目の一部は1年次から開講されています。また、教育職員免許状の取得には、2年次後学期開講の共通教育科目の教員免許に関する科目「教職日本国憲法」及び「スポーツと教育」の修得が必要です。詳細は「17 教育職員免許状」を参照してください。

### ※履修の失敗例

- ・ 授業時間割が前年から変更され、履修予定の授業科目が履修できなかった  
授業時間割は、毎年同じとは限りません。翌年に履修するつもりでいた科目の時間割が変更され、登録できないことがあります。
- ・ 卒業要件と共通課題科目の履修要件の違いを認識していなかった  
共通課題科目を履修するための要件と卒業要件は別です。共通課題科目の履修が認められたことで安心して、卒業要件の確認を怠らないようにしてください。
- ・ 履修登録時期を逃した  
基礎実験の履修登録は、前年度の2月に理学部事務課学務チームで行われます。一部の科目は、学期途中に履修登録が必要ですので、修学支援システムを確認してください。
- ・ 卒業要件に含まれるキャリア科目の単位数の上限を間違えていた  
「教科の指導法に関する科目」（表17-2A/B上部分）「教育の基礎的理解に関する科目等（表17-3）」「博物館に関する科目（表18-1）」及び理学部で開講されるキャリア科目の単位は、すべて専門教育科目のキャリア科目に算入されます。合計10単位まで卒業に必要な専門教育科目とすることができます。
- ・ 集中講義の単位認定が遅れて共通課題科目の履修ができなかった  
予定されていた集中講義がやむを得ない理由で延期された・開講されなかった・複数の科目の開講時期が重なった等の理由で、科目の単位の認定が卒業判定あるいは共通課題科目の履修要件判定に間に合わない場合があります。これらの要件の認定は、当該学期末の成績通知日までに認定された単位を対象として行われます。  
例えば、9月（3月）に開講される前（後）学期の集中講義の単位認定は、前（後）学期の成績開示日に間に合いません。次の学期に履修する共通課題科目に関する要件判定において、その集中講義の単位は修得済の単位に含まれません。

## (1) 数学・数理情報コース

数学は、それ自身に内在する現象を探求する理論として、また、数学以外の諸分野の基礎付けを与える基礎科学として、あるいは、応用のための高度なツールとして発展してきました。特に、現代は情報科学の著しい発展の最中にあり、これを数学的に正しく活用し、更に発展させていくことが重要です。また、現代社会において高度な数学の活用・発展の期待も高いものとなっています。

数学・数理情報コースは、数学及び情報科学の活用・発展の一翼を担うことで社会に貢献できる人材の育成を目的として、数学の広範な理論体系の基礎及び情報科学の基本的知識・技能を教育するとともに、専門分野の枠を超えて協働できる能力を養う教育を行います。

### ① 数学・数理情報コースの到達目標

数学・数理情報の基幹分野である代数学・位相数学・幾何学・解析学・確率統計・応用数学・数理情報処理に関わる体系的基礎学識と数理情報処理に関する実践的基盤スキルを修得し、それらを活用して、調査・研究を通じた課題の発見・提示や解決を科学的思考のもとで行い、その過程や結果を他者に説明することができる。国内外の文献を調査し必要な情報を収集し理解できる。

### ② 数学・数理情報コースのカリキュラム方針と科目表・カリキュラムマップ

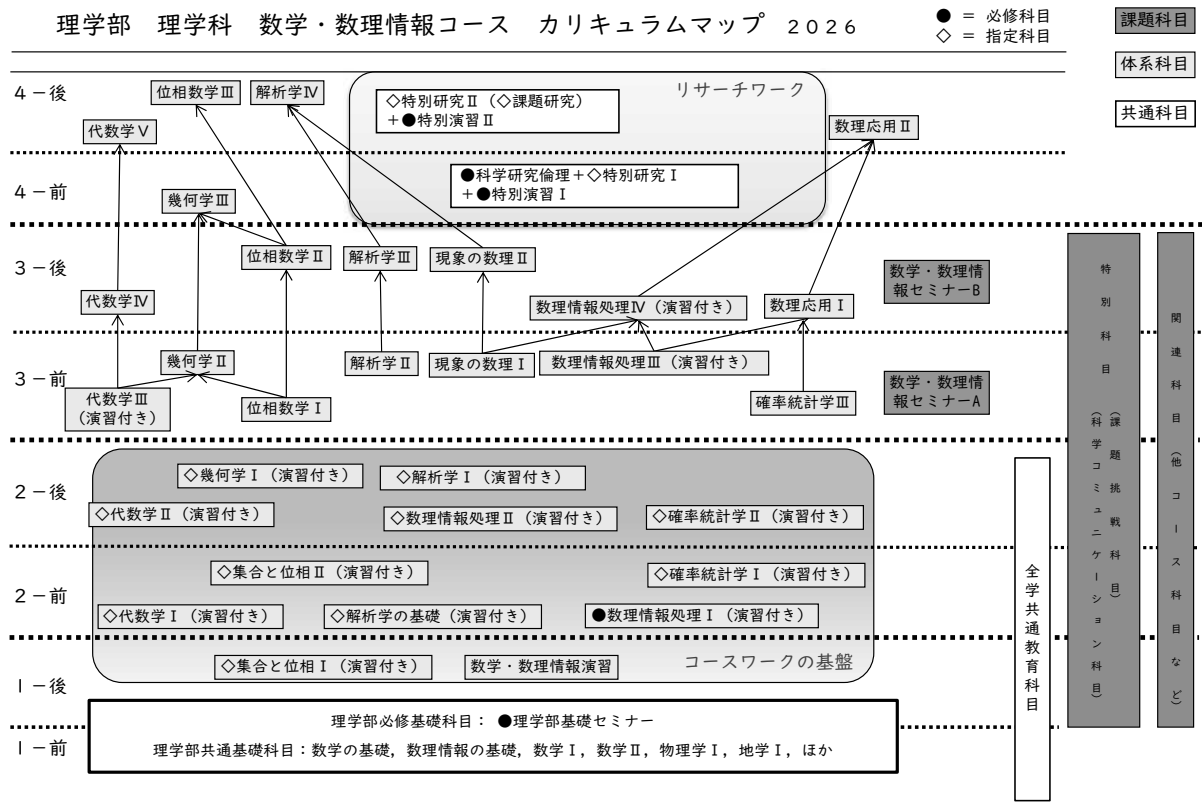
- ・数学・数理情報の基幹分野である代数学・位相数学・幾何学・解析学・確率統計・応用数学・数理情報処理に関わる体系的知識を学修し、課題を通じて論理的思考力・応用力を養います。
- ・必修の数理情報処理 I において、数理情報処理に関する実践的なスキルを修得します。
- ・演習を含む科目や特別演習・特別研究・課題研究等の科目で、知識・情報社会において必須の情報収集・処理・発信技術、科学倫理、表現力・英語力を培います。
- ・特別演習・特別研究・課題研究における個別あるいは少人数型教育において、調査・研究の倫理と手法を学び、課題理解力・論理的思考力など、自身の個性や能力を伸ばします。演習やセミナーなどで様々な人々と能動的に関わり協働する姿勢を涵養します。
- ・興味やキャリアパスの必要に応じて他コース・他学部の科目や特別科目を学ぶことができます。

1  
主要  
スケ  
ジュール2  
愛大  
学生  
コン  
ピテン  
シー3  
学部  
の理  
念  
と教  
育方  
針4  
大学  
で学  
ぶ  
基本  
知識5  
単  
位  
制  
度6  
履  
修  
登  
録  
単  
位  
の  
上  
限7  
教育  
コース  
の選  
択及  
び履  
修  
プ  
ロ  
グ  
ラ  
ムの  
選  
択8  
教育  
課程  
履  
修  
課  
目  
ナ  
ン  
バ  
ー  
シ  
ス  
テ  
ム9  
履  
修  
登  
録  
手  
続  
き  
等10  
他  
学  
部  
履  
修  
課  
目11  
単  
位  
互  
換  
課  
目  
・  
他  
学  
部  
履  
修  
課  
目12  
受  
講  
上  
の  
注  
意  
事  
項13  
試  
験  
・  
成  
績14  
卒  
業  
認  
定  
・  
早  
期  
卒  
業  
制  
度15  
履  
修  
課  
目  
の  
変  
更  
・  
転  
学  
部  
の  
教  
育  
グ  
ラ  
ム16  
学  
び  
の  
サ  
ポ  
ー  
ト17  
教  
育  
職  
員  
免  
許  
状18  
そ  
の  
他  
の  
資  
格19  
留  
学  
・  
ア  
ク  
テ  
ィ  
ビ  
テ  
ィ  
の  
支  
援

表8-3 数学・数理情報コース 教育課程表

区分	科目名	必修／ 指定／ 履修要件	単位数	総時間数	開講学年・クォーター								科目コード	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
コース体系科目	集合と位相 I	指定	3	45		4								ScS1D-5MBa053
	数学・数理情報演習	指定	1	16		4								ScS1D-5MBa061
	代数学 I	指定	4	60			△							ScS2D-5MAI014
	解析学の基礎	指定	3	45			△							ScS2D-5MAAn073
	確率統計学 I	指定	4	60			△							ScS2D-5MPS014
	集合と位相 II	指定	4	60			△							ScS2D-5MTG014
	数理情報処理 I	必修	2	30			△							ScS2D-5MAp012
	代数学 II	指定	4	60				△						ScS2D-5MAI024
	幾何学 I	指定	4	60				△						ScS2D-5MTG024
	解析学 I	指定	4	60				△						ScS2D-5MAAn014
	確率統計学 II	指定	3	45				△						ScS2D-5MPS023
	数理情報処理 II	指定	2	30				△						ScS2D-5MAp022
	代数学 III		4	60					△					ScS3D-5MAI034
	位相数学 I		2	30					△					ScS3D-5MTG032
	確率統計学 III		2	30					△					ScS3D-5MPS023
	幾何学 II		2	30					△					ScS3D-5MTG042
	解析学 II		2	30					△					ScS3D-5MAAn022
	現象の数理 I		2	30					△					ScS3D-5MAAn042
	数理情報処理 III		2	30					△					ScS3D-5MPS082
	代数学 IV		2	30						△				ScS3D-5MAI042
	位相数学 II		2	30						△				ScS3D-5MTG052
	解析学 III		2	30						△				ScS3D-5MAAn032
	現象の数理 II		2	30						△				ScS3D-5MAAn082
	数理情報処理 IV		2	30						△				ScS3D-5MPS092
	数理応用 I		2	30						△				ScS3D-5MPS102
	代数学 V		2	30							△			ScS4D-5MAI052
幾何学 III		2	30							△			ScS4D-5MTG062	
位相数学 III		2	30							△			ScS4D-5MTG072	
解析学 IV		2	30							△			ScS4D-5MAAn052	
数理応用 II		2	30							△			ScS4D-5MPS112	
課題科目	数学・数理情報セミナー A		2	30						○				ScS3E-5MES012
	数学・数理情報セミナー B		2	30						○				ScS3E-5MES022

図8-3 数学・数理情報コース カリキュラムマップ



### ③数学・数理情報コースの共通課題科目を履修するための要件

共通課題科目 (表8-2) を履修するためには、下記の1—5の要件をすべて満たす必要があります。

1. 卒業に必要な共通教育科目 (基盤科目13単位、未来思考支援科目2単位、教養科目12単位、計27単位) を修得済みである。
2. 理学部必修基礎科目1単位、及び理学部共通基礎科目8単位以上を修得済みである。
3. 数学・数理情報コースのコース体系科目 (表8-3) 「数理情報処理Ⅰ」 (必修) 2単位を修得済みである。
4. 数学・数理情報コースのコース体系科目及びコース課題科目 (表8-3) を合計36単位以上修得済みである。
5. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が65単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が97単位以上である。

### ④数学・数理情報コースの卒業要件

修業年限以上在学し、共通課題科目を履修するための要件、及び下記の1—4をすべて満たす必要があります。(表8-1、8-2、8-3、8-4参照)

1. 理学部共通課題科目の必修3科目5単位を修得済みである。
2. 数学・数理情報コースのコース体系科目及び理学部共通課題科目の指定科目から14単位以上を修得済みである。ただし、「課題研究」・「特別研究Ⅰ」・「特別研究Ⅱ」のいずれかを含む必要がある。
3. 数学・数理情報コースのコース体系科目、コース課題科目、及び理学部共通課題科目の修得単位数の合計が55単位以上である。
4. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が92単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が124単位以上である。

1 主要スケジュール  
2 愛大生生活  
3 教育学の理念  
4 大学で学ぶ  
5 単位制度  
6 履修登録単位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標  
9 履修登録手続き等  
10 他学部履修  
11 単位互換科目・他  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業制度  
15 履修プログラムの転入/出口  
16 サポート  
17 教育職員免許状  
18 その他の資格  
19 留学・アクティビティの支援

表8-4 数学・数理情報コースを卒業及び共通課題科目を履修するために必要な最低修得単位数

		卒業に必要な最低修得単位	共通課題科目を履修するために必要な最低修得単位	
共通教育科目	共通教育科目 (X)	27単位 (注1)	同左 (注1)	
専門教育科目	必修基礎科目	1単位	同左	
	共通基礎科目	8単位	同左	
	共通課題科目	必修科目(A)	5単位	
		指定科目(B)	4単位	
	指定科目： (B)欄及び本コース体系科目(指定科目)の合計	14単位		
	本コース体系科目及び課題科目の合計 (C)	36単位(注2)	同左 (注2)	
	(A),(B),(C)欄の合計	55単位		
専門教育科目の合計 (注3) (Y)	92単位	65単位		
合計	(X),(Y) 欄の合計	124単位	97単位	

この表において、本コースとは数学・数理情報コースを表す。

(注1) 科目区分ごとに、要件を満たす必要がある。

(注2) 本コース体系科目「数理情報処理I」(2単位)を修得済であること。

(注3) 特別科目・関連科目は16単位まで、キャリア科目は10単位まで専門教育科目の合計に含めることができる。

⑤数学・数理情報コースの履修モデル (2026年度)

数学・数理情報コースを選択した場合の代表的な履修モデルを示します。選択する履修プログラムや自分のキャリアビジョン・取得を希望する免許等に合わせてアレンジして履修計画を立ててください。なお、体系科目の開講時期は変更されることがあります。

標準プログラムの履修モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
全学 共通教育	English Foundation	English Communication/Practices (28&L-C243)															
	微積分																
	情報リテラシー I	情報リテラシー II	知的財産入門	社会力入門													
	スポーツ																
	こころと健康																
	新入生セミナー																
理学部 共通	必修 基礎	理学部基礎セミナー															
	共通 基礎	数学の基礎	数学 I		数学 II												
		数理情報の基礎															
	課題	物理学 I・II, 化学 I・II, 生物学 I・II, 地学 I・II から4~6単位分程度															
数学・ 数理情報 コース	体系					代数学 I	代数学 II	幾何学 I	幾何学 II	代数学 III	代数学 IV, 位相数学 II, 解析学 III, 現象の数理 II, 数理情報処理 IV, 数理応用 I から8単位分程度	代数学 V, 幾何学 III, 位相数学 III, 解析学 IV, 数理応用 II から6~8単位分程度					
				集合と位相 I	集合と位相 II	解析学 I	解析学 II	現象の数理 I	現象の数理 II	数理情報処理 I	数理情報処理 II	数理情報処理 III					
					解析学の基礎												
					数理情報処理 I	数理情報処理 II	確率統計学 I	確率統計学 II	確率統計学 III								
					数学・数理情報演習												
	課題									数学・数理情報セミナーA	数学・数理情報セミナーB						
	特別																
	他コース 関連																
	キャリア							キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	キャリア形成セミナー インターンシップ							

- 理学部共通基礎科目である「数学の基礎」、「数理情報の基礎」、「数学 I」、「数学 II」、及び、2年次までの数学・数理情報コース体系科目すべての履修を推奨します。
- その他の履修モデルはこの履修モデルを元にして作成されています。

標準プログラム (数学) の履修モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
全学 共通教育	English Foundation	English Communication/Practices (28&L-C243)															
	微積分																
	情報リテラシー I	情報リテラシー II	知的財産入門	社会力入門													
	スポーツ																
	こころと健康																
	新入生セミナー																
理学部 共通	必修 基礎	理学部基礎セミナー															
	共通 基礎	数学の基礎	数学 I		数学 II												
		数理情報の基礎															
	課題	物理学 I・II, 化学 I・II, 生物学 I・II, 地学 I・II から4~6単位分程度															
数学・ 数理情報 コース	体系					代数学 I	代数学 II	幾何学 I	幾何学 II	代数学 III	代数学 IV	代数学 V	幾何学 III	幾何学 III	幾何学 III	幾何学 III	幾何学 III
				集合と位相 I	集合と位相 II	解析学 I	解析学 II	現象の数理 I	現象の数理 II	数理情報処理 I	数理情報処理 II	数理情報処理 III					
					解析学の基礎												
					数理情報処理 I	数理情報処理 II	確率統計学 I	確率統計学 II	確率統計学 III								
					数学・数理情報演習												
	課題									数学・数理情報セミナーA	数学・数理情報セミナーB						
	特別																
	他コース 関連																
	キャリア							キャリアデザイン I	キャリアデザイン II	キャリア形成セミナー インターンシップ							

1 主要スケジュール  
2 愛大生コンピテンシー  
3 学部の理念と教育方針  
4 大学で学ぶ基本知識  
5 単位制度  
6 履修登録単位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標・履修科目目標  
9 履修登録手続き等  
10 他学部履修  
11 単位互換科目・他  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業認定・卒業式  
15 履修プログラムの教口  
16 学びのサポート  
17 教育職員免許状  
18 その他の資格  
19 留学・アクティビティの支援



学に携わるための総合的な実践的知識・技能を培います。

4年次では、指導教員のもとでリサーチワークを実施します。先端研究の課題を通じて調査・研究の倫理と手法を学び、課題理解力・論理的思考力などを養います。また、セミナー等での研究室内外の人々との議論を通じて情報発信技術・表現力などのコミュニケーション力を培い、様々な人々と能動的に関わる姿勢を育みます。

表8-5 物理学コース 教育課程表

区分	科目名	必修／指定／履修要件	単位数	総時間数	開講学年・クォーター								科目コード	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
コース体系科目	力学Ⅰ		2	30	4									ScS1D-5PMe-012
	電磁気学Ⅰ		2	30	4									ScS1D-5PEm-012
	力学Ⅱ		2	30		1								ScS2D-5PMe-022
	電磁気学Ⅱ		2	30		1								ScS2D-5PEm-022
	力学Ⅲ		2	30		2								ScS2D-5PMe-032
	電磁気学Ⅲ		2	30		2								ScS2D-5PEm-032
	物理数学Ⅰ		2	30		○								ScS2D-5PPM-012
	熱統計力学Ⅰ		2	30			3							ScS2D-5PTS-012
	電磁気学Ⅳ		2	30			3							ScS2D-5PEm-042
	力学Ⅳ		2	30			3							ScS2D-5PMe-042
	物理実験学		1	16			3							ScS2D-5PES-021
	熱統計力学Ⅱ		2	30			4							ScS2D-5PTS-022
	電磁気学Ⅴ		2	30			4							ScS2D-5PEm-052
	力学Ⅴ		2	30			4							ScS2D-5PMe-052
	物理数学Ⅱ		2	30			○							ScS2D-5PPM-022
	熱統計力学Ⅲ		2	30				1						ScS3D-5PTS-032
	量子力学Ⅰ		2	30				1						ScS3D-5PQM-012
	熱統計力学Ⅳ		2	30				2						ScS3D-5PTS-042
	量子力学Ⅱ		2	30				2						ScS3D-5PQM-022
	天文学		2	30				○						ScS3D-5PAs-012
	物性物理学		2	30					○					ScS3D-5PCM-012
	熱統計力学Ⅴ		2	30					3					ScS3D-5PTS-052
	量子力学Ⅲ		2	30					3					ScS3D-5PQM-032
熱統計力学Ⅵ		2	30					4					ScS3D-5PTS-062	
量子力学Ⅳ		2	30					4					ScS3D-5PQM-042	
宇宙物理学		2	30					○					ScS3D-5PAs-022	
相対性理論	*a	2	30						△				ScS3D-5PRe-012	
課題科目	物理学実験Ⅰ	必修*b	2	60				○						ScS2E-5PES-032
	物理学実験Ⅱ	必修*c	3	90				○						ScS3E-5PES-043
	物理学実験Ⅲ	必修*d	3	90					○					ScS3E-5PES-053

\*a：「相対性理論」は、隔年開講または集中開講の場合がある。

\*b、c、d：物理学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの履修には下記の要件がある。

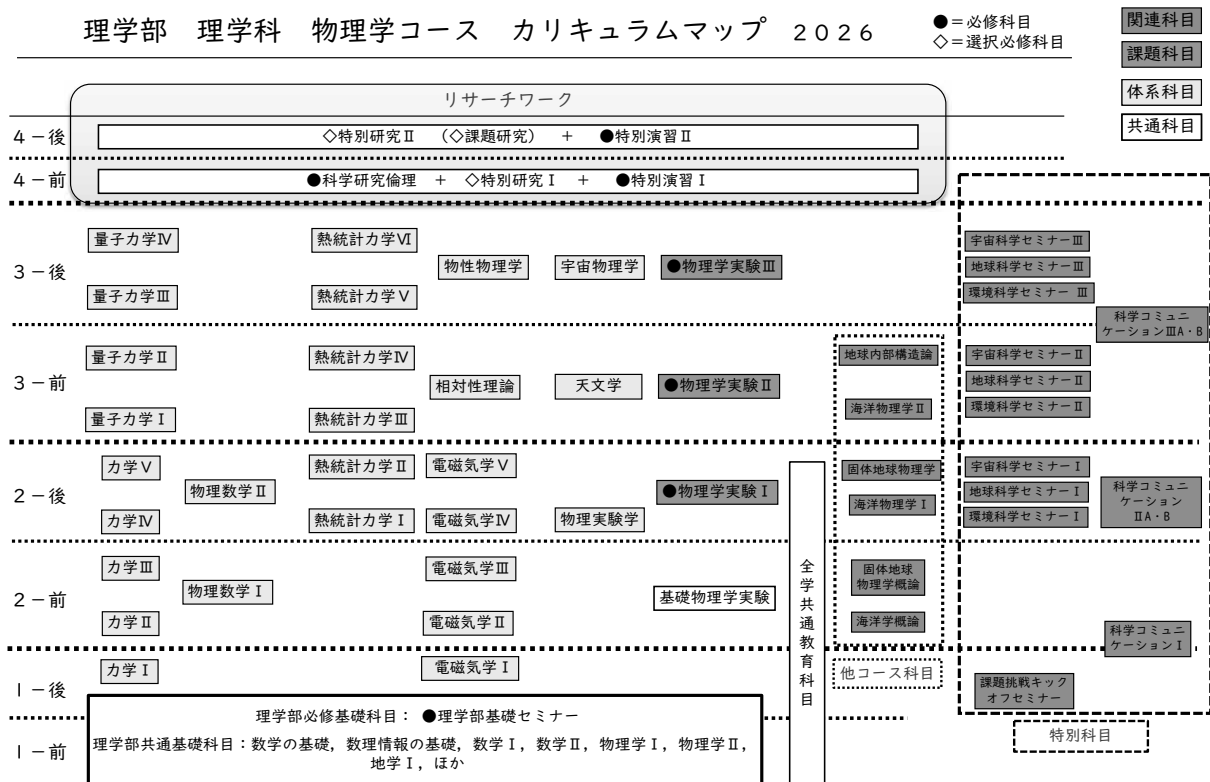
b. 物理学実験Ⅰ：「物理学Ⅰ（標準クラス）」、「力学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「電磁気学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「物理数学Ⅰ」のうち4科目以上を修得済であること。

c. 物理学実験Ⅱ：「物理学実験Ⅰ」を修得済であること。但し、早期卒業制度適用者は「物理学実験Ⅰ」と同時に履修することができる。

d. 物理学実験Ⅲ：「物理学実験Ⅱ」を修得済であること。

1 主要スケジュール  
2 愛大生コンベンション  
3 学部教育理念と教育方針  
4 大学で学ぶ基本知識  
5 単位制度  
6 履修登録の位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標と履修科目  
9 履修登録の手続き等  
10 他学部授業科目履修  
11 単位互換科目・他  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業制度、卒業認定、卒業変更プログラム  
15 履修プログラムの教員  
16 学びのサポート  
17 教育職員免許状  
18 その他資格  
19 留学・アクティビティの支援

図8-5 物理学コース カリキュラムマップ



### ③物理学コースの共通課題科目を履修するための要件

共通課題科目（表8-2）を履修するためには、下記の1-5をすべて満たしていることが必要です。

1. 卒業に必要な共通教育科目（基盤科目13単位、未来思考支援科目2単位、教養科目12単位、計27単位）を修得済みである。
2. 理学部必修基礎科目1単位、及び理学部共通基礎科目8単位以上を修得済みである。
3. 物理学コースのコース課題科目（表8-5）の必修3科目8単位を修得済みである。
4. 物理学コースのコース体系科目及びコース課題科目（表8-5）を合計36単位以上修得済みである。
5. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が73単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が105単位以上である。

### ④物理学コースの卒業要件

修業年限以上在学し、共通課題科目を履修するための要件、及び下記の1-4の要件をすべて満たす必要があります。（表8-1、8-2、8-5参照）

1. 理学部共通課題科目の必修3科目5単位を修得済みである。
2. 理学部共通課題科目の指定科目から14単位以上を修得済みである。ただし、「課題研究」・「特別研究Ⅰ」・「特別研究Ⅱ」のいずれかの科目を含む必要がある。
3. 物理学コースのコース体系科目、コース課題科目、及び理学部共通課題科目の修得単位数の合計が55単位以上である。
4. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が92単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が124単位以上である。

### ⑤物理学コースの履修モデル (2026年度)

物理学コースの代表的な履修モデルを示します。選択する履修プログラムや自分のキャリアビジョン・取得を希望する免許等に合わせてアレンジして履修計画を立ててください。

#### 標準プログラムの履修モデル

	1年次				2年次				3年次				4年次						
	前学期	2Q	3Q	4Q	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4			
全学共通教育	English Foundation																		
	英検																		
	情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ	知的財産入門	社会力入門															
	スポーツ				未来思考リテラシー (4+4+4+4+4)														
理学部共通	新入生セミナー																		
	理学部基礎セミナー																		
	生物学Ⅰ/地学Ⅰ		化学Ⅰ	化学Ⅱ															
	数値情報の基礎		数学Ⅰ	数学Ⅱ	基礎物理学実験														
物理学コース	物理学Ⅰ												科学研究論						
													特別演習Ⅰ 特別研究Ⅰ						
													特別演習Ⅱ 特別研究Ⅱ						
物理学コース					力学Ⅰ	力学Ⅱ	力学Ⅲ	力学Ⅳ	力学Ⅴ										
					電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電磁気学Ⅲ	電磁気学Ⅳ	電磁気学Ⅴ										
					物理数学Ⅰ		物理数学Ⅱ		熱統計力学Ⅰ		熱統計力学Ⅱ	熱統計力学Ⅲ	熱統計力学Ⅳ	熱統計力学Ⅴ	熱統計力学Ⅵ	量子力学Ⅰ	量子力学Ⅱ	量子力学Ⅲ	量子力学Ⅳ
									相対性理論		天文学		物性物理学		宇宙物理学				
物理学コース									物理学実験Ⅰ				物理学実験Ⅱ						
													物理学実験Ⅲ						
特別																			
他コース関連																			
キャリア					キャリアデザインⅠ				キャリアデザインⅡ				インターンシップ						

- 「数値情報の基礎」、「数学Ⅰ・Ⅱ」、「物理学Ⅰ」の履修を推奨します。
- 「物理学実験Ⅰ」を履修する前に、「基礎物理学実験」の履修を推奨します。

### (3) 化学コース

化学は、物質の構造・性質・変化を原子・分子レベルで扱う科学です。物質創成、化学分析、反応・物性制御などが関わる産業・医療・製薬の現場、生命の摂理、環境に拡散した人工化学物質の問題など、化学の役割は広くかつ重大です。化学コースでは、体系化された講義科目群による基盤知識の学修と実験・課題科目群による実践的スキルの学修により、現代社会に必須の化学物質の取扱法・機器分析法を含む化学の知識・技能、理解力・探究力・応用力などを総合的に培います。

#### ①化学コースの到達目標

分析化学・有機化学・無機化学・物理化学・生物化学の体系的基礎学識と化学物質・器具の取扱を含む実験技術・機器操作・安全衛生・科学倫理などの実践的基盤スキルを修得し、それらを活用して、調査・研究を通じた課題の発見・提示や解決を科学的思考のもとで行い、その過程や結果を他者に説明することができる。国内外の文献を調査し必要な情報を収集し理解できる。

#### ②化学コースのカリキュラム

1年次は、数学・物理学・化学・生物学・地学の基礎を学ぶ理学部共通基礎科目と、分析化学・有機化学・物理化学の導入科目を学修し、体系的な化学の学修に備えます。

2-3年次は、化学コースの専門教育科目の講義で分析化学・有機化学・無機化学・物理化学・生物化学の体系的知識を学修します。また、必修の実験科目で、実験計画・観察・記録・機器操作・安全衛生・事故防止など、化学に携わるための総合的な実践的知識・技能を培います。実験科目と機器分析の講義で、現代の科学に必須の機器分析技術について学び、リサーチワークに必要なスキルを修得します。

4年次は、指導教員のもとでリサーチワークを実施し、先端研究の課題を通じて調査・研究の倫理と手法を学び、課題理解力・論理的思考力などを養います。また、セミナー・学会発表などで研究者と接する経験を積み、情報発信技術・表現力などのコミュニケーション力/様々な人々と能動的に関わる姿勢を涵養します。

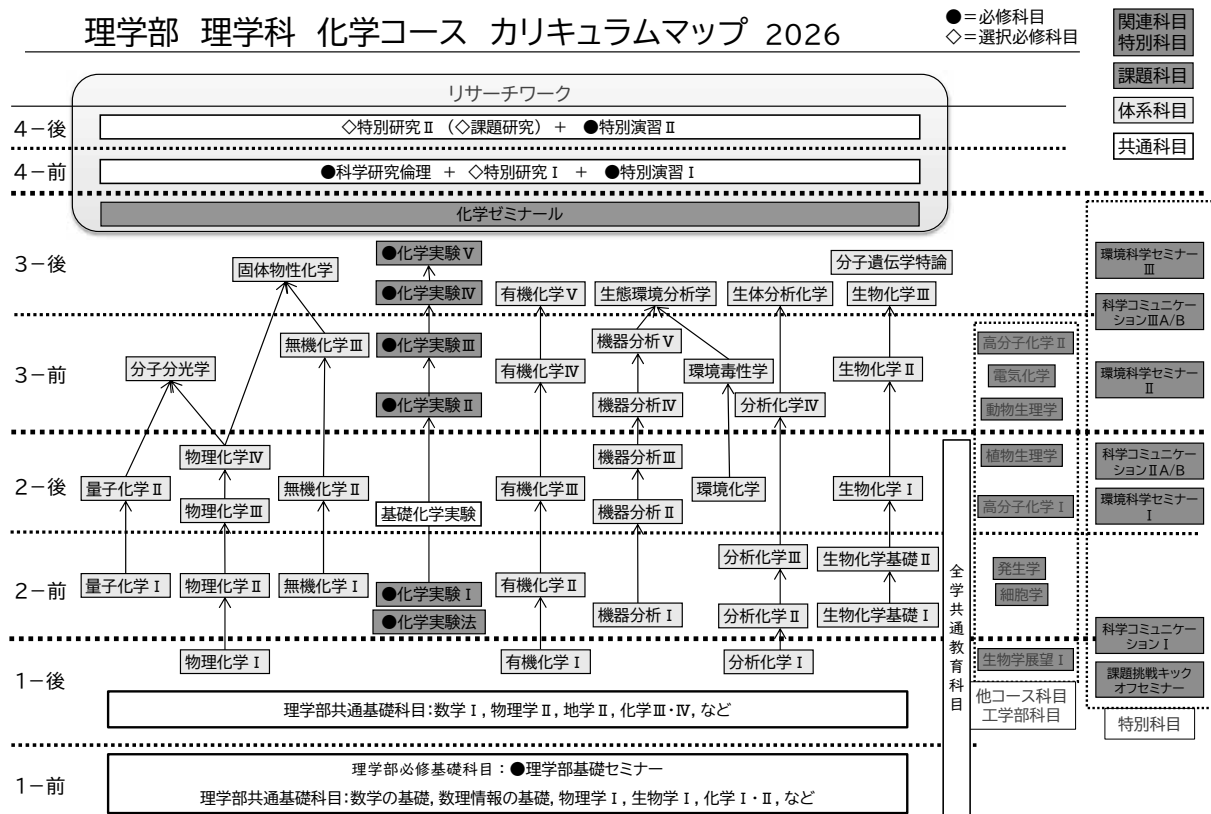
表8-6 化学コース 教育課程表

区分	科目名	必修／ 指定／ 履修要件	単位数	総時間数	開講学年・クォーター								科目コード
					1年次		2年次		3年次		4年次		
					前	後	前	後	前	後	前	後	
コース体系科目	物理化学Ⅰ		1	16		4							ScS1D-5CPh011
	有機化学Ⅰ		1	16		4							ScS1D-5COr011
	分析化学Ⅰ		1	16		4							ScS1D-5CAn011
	無機化学Ⅰ		2	30			○						ScS2D-5CIn012
	量子化学Ⅰ		2	30			○						ScS2D-5CQc012
	生物化学基礎Ⅰ		1	16			1						ScS2D-5CBI011
	生物化学基礎Ⅱ		1	16			2						ScS2D-5CBI021
	機器分析Ⅰ		1	16			1						ScS2D-5CAn051
	物理化学Ⅱ		2	30			○						ScS2D-5CPh022
	有機化学Ⅱ		2	30			○						ScS2D-5COr022
	分析化学Ⅱ		1	16			1						ScS2D-5CAn021
	分析化学Ⅲ		1	16			2						ScS2D-5CAn031
	無機化学Ⅱ		2	30				○					ScS2D-5CIn022
	量子化学Ⅱ		2	30				○					ScS2D-5CQc022
	生物化学Ⅰ		2	30				○					ScS2D-5CBI032
	物理化学Ⅲ		1	16				3					ScS2D-5CPh031
	物理化学Ⅳ		1	16				4					ScS2D-5CPh041
	有機化学Ⅲ		2	30				○					ScS2D-5COr032
	環境化学		2	30				○					ScS2D-5CEc012
	機器分析Ⅱ		1	16				3					ScS2D-5CAn061
	機器分析Ⅲ		1	16				4					ScS2D-5CAn071
	有機化学Ⅳ		2	30					○				ScS3D-5COr042
	生物化学Ⅱ		2	30					○				ScS3D-5CBI042
	分析化学Ⅳ	指定	1	16					1				ScS3D-5CAn041
	機器分析Ⅳ	指定	1	16					1				ScS3D-5CAn081
	機器分析Ⅴ	指定	1	16					2				ScS3D-5CAn091
	無機化学Ⅲ	指定	1	16					2				ScS3D-5CIn031
	分子分光化学	指定	2	30					○				ScS3D-5CQc032
	環境毒性学	指定	2	30					○				ScS3D-5CEc022
	分子遺伝学特論	指定	2	30						○			ScS3D-5CBI062
生物化学Ⅲ	指定	1	16						3			ScS3D-5CBI051	
生体分析化学	指定	1	16						3			ScS3D-5CAn101	
生態環境分析学	指定	1	16						3			ScS3D-5CEc031	
有機化学Ⅴ	指定	1	16						3			ScS3D-5COr051	
固体物性化学	指定	2	30						○			ScS3D-5CPh052	
コース課題科目	化学実験法	必修	1	15			△						ScS2E-5CES011
	化学実験Ⅰ	必修	1	30			1						ScS2E-5CES021
	化学実験Ⅱ	必修	2	60					○				ScS3E-5CES032
	化学実験Ⅲ	必修	2	60					○				ScS3E-5CES042
	化学実験Ⅳ	必修	2	60					○				ScS3E-5CES052
	化学実験Ⅴ	必修	2	60					○				ScS3E-5CES062
	化学ゼミナール		2	30						○			ScS3E-5CES072

\* 化学コース課題科目には下記の履修要件がある。科目ごとにガイダンスの受講が必要である。

1. 「化学実験Ⅰ」は化学実験法と同時に履修する必要がある。「化学実験Ⅰ」及び「化学実験法」の履修には、24単位以上を修得済である必要がある。
2. 「化学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」の履修には、72単位以上を修得済である必要がある（早期卒業は除く）。
3. 「化学実験Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」は、それぞれ前学期または後学期に受講できる。ただし、「化学実験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」のうち2科目以上を同一クォーターに同時履修することはできない。
4. 「化学ゼミナール」の履修には、GPAと修得単位数の要件を満たす必要がある。

図8-6 化学コース カリキュラムマップ



③化学コースで共通課題科目を履修するための要件

共通課題科目 (表8-2) を履修するためには、下記の1-5をすべて満たす必要があります。

1. 卒業に必要な共通教育科目 (基盤科目13単位、未来思考支援科目2単位、教養科目12単位、計27単位) を修得済みである。
2. 理学部必修基礎科目1単位、及び理学部共通基礎科目8単位以上を修得済みである。
3. 化学コースのコース課題科目 (表8-6) の必修10単位を修得済みである。
4. 化学コースのコース体系科目及びコース課題科目 (表8-6) を合計36単位以上修得済みである。
5. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が73単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が105単位以上である。

④化学コースの卒業要件

修業年限以上在学し、共通課題科目を履修するための要件、及び下記の1-4をすべて満たす必要があります。(表8-1、8-2、8-6参照)

1. 理学部共通課題科目の必修3科目5単位を修得済みである。
2. 化学コースのコース体系科目及び理学部共通課題科目の指定科目から14単位以上を修得済みである。ただし、「課題研究」・「特別研究 I」・「特別研究 II」のいずれかを含む必要がある。
3. 化学コースのコース体系科目、コース課題科目、及び理学部共通課題科目の修得単位数の合計が55単位以上である。
4. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が92単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が124単位以上である。

1 主要スケジュール  
2 愛大生生活と教育方針  
3 学部の理念  
4 大学で学ぶ基本知識  
5 単位制度  
6 履修登録単位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標・履修方法・科目ナンバリング  
9 履修登録手続き等  
10 他学部履修  
11 単位互換科目・他  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業認定・卒業時期  
15 履修プログラムの変更に伴う教員部の対応  
16 学部のサポート  
17 教育職員免許状  
18 その他資格  
19 留学・アクティビティの支援

## ⑤化学コースの履修モデル (2026年度)

化学コースの代表的な履修モデルを示します。履修プログラム・免許の取得に要する単位の要件や自身のキャリアビジョン等に合わせて無理のない適切な履修計画を立ててください。

### 標準プログラムの履修モデル

	1年次				2年次				3年次				4年次					
	前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
全学共通教育	新入生セミナー				未来思考/テラシー Beyond SDGs													
	こころと健康 微積分																	
	スポーツ																	
	English Foundation		English Communication Strategies (3Q or 4Q)															
教養/基礎	情報/テラシー I   情報/テラシー II		知的財産入門   社会力入門		教養科目(選択) 4~6 単位				(教養科目)									
	教養科目(選択) 4~5 単位		教養科目(選択) 5~6 単位															
理学部共通	必修 理学部基礎セミナー				基礎化学実験													
	化学 I		化学 II		化学 III		化学 IV											
	数学の基礎		数学 I															
	数理情報の基礎		物理学 I										科学研究倫理					
化学コース	生物学 I / 地学 I		地学 II / 生物学 II		基礎生物学実験								特別演習 I		特別演習 II			
													特別研究 I		特別研究 II			
					量子化学 I		量子化学 II		分子分光学		固体物性化学							
			物理化学 I		物理化学 II		物理化学 III   物理化学 IV											
特別関連			無機化学 I		無機化学 II		無機化学 III		無機化学 IV		無機化学 V		生物物質化学					
			有機化学 I		有機化学 II		有機化学 III		有機化学 IV		有機化学 V							
			機器分析 I		機器分析 II		機器分析 III		機器分析 IV		機器分析 V		生体分析化学					
			分析化学 I		分析化学 II		分析化学 III		分析化学 IV		分析化学 V		生体分析化学					
キャリア			生物化学基礎 I		生物化学基礎 II		環境化学		環境毒理学		生体環境分析学		生物化学 III					
			化学実験 I		化学実験 II		生物化学 I		生物化学 II		化学実験 III		化学実験 IV   化学実験 V (化学ゼミナール)					
			化学実験法						化学実験 II		化学実験 III							
							キャリアデザイン I		キャリアデザイン II		キャリア形成セミナー		インターンシップ					

➤ 「数学 I」、「物理学 I」、「化学 I・II (標準クラス)」、「化学 III・IV」、「生物学 I」の履修を推奨します。高校において物理を未履修の場合は、物理学 I (入門クラス) を選択してください。

## (4) 生物学コース

生物学は、分子から生態系にいたる様々なレベルの生命現象に対し、生理・発生・形態・環境などの側面からアプローチし、自然、生命、自然と生物とのかかわりを明らかにしてきました。生物学コースでは、コース体系科目群 (講義) で、細胞学・発生学・生理学・形態学・生態学・環境科学・進化学の体系的知識を学修し、また、コース課題科目 (実験・演習) で実験計画・観察・記録・機器操作・安全衛生・事故防止など、生物学に携わるための総合的な実践的知識・技能を培います。

### ①生物学コースの到達目標

形態学・発生学・生理学・生態学・環境科学の体系的基礎学識と薬品や顕微鏡などの取扱を含む実験技術・機器操作・安全衛生・科学倫理などの実践的基盤スキルを修得し、それらを活用して、調査・研究を通じた課題の発見・提示や解決を科学的思考のもとで行い、その過程や結果を他者に説明することができる。国内外の文献を調査し必要な情報を収集し理解できる。

### ②生物学コースのカリキュラム方針と科目表・カリキュラムマップ

1年次には、入門的な授業を通じて生物学への関心を持てるような科目「生物学展望 I」を配置しています。

2-3年次は、コースの専門教育科目を中心に志向・目標に適した科目を選択して履修します。必修科目「基礎生物学演習」・「生物学展望 II」および選択必修科目の生物学実験を履修し、様々な生物の扱いや化学物質の取扱、機器の操作を含む実験技術・安全衛生・科学倫理について、実践的なスキルを修得します。また、「基礎生物英語」・「文献講読」・「生物学ゼミナール I、II」では生物学で必要となる英語能力およびプレゼンテーション能力を高め、最新の科学情報の入手および研究成果の発信のための技能を修得します。3年次後期の生物学課題演習では、4年次で行う「特別研究 I、II」の準備として、文献調査や実験技術の習得、予備的な研究活動を行います。

4年次には学生ごとに指導教員のもとで、個別あるいは少人数型の実践的科目を通して調査・研究の倫理と手法を学び、広い視野と論理的な問題分析・解決能力を育みます。

表8-7 生物学コース 教育課程表

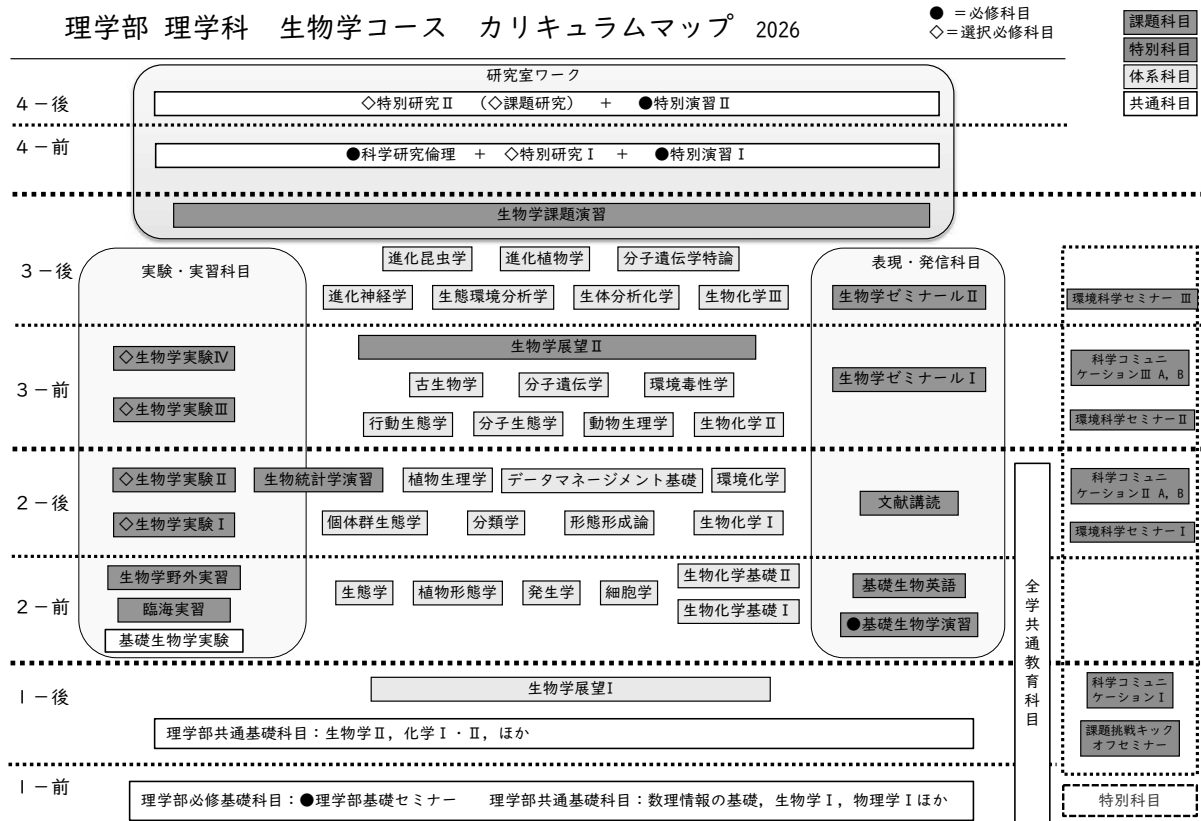
区分	科目名	必修／指定／履修要件	単位数	総時間数	開講学年・フォーター								科目コード	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
コース体系科目	生物学展望I		1	16		4								ScS1D-5BIn-021
	細胞学		2	30			○							ScS2D-5BCD-012
	発生学		2	30			○							ScS2D-5BCD-022
	植物形態学		2	30			○							ScS2D-5BMo-012
	生態学		2	30			○							ScS2D-5BEE-012
	生物化学基礎 I		1	16			1							ScS2D-5BBM-011
	生物化学基礎 II		1	16			2							ScS2D-5BBM-021
	分類学		2	30				○						ScS2D-5BMo-022
	植物生理学	指定	2	30				○						ScS2D-5BAP-012
	形態形成論		2	30				○						ScS2D-5BCD-032
	個体群生態学		2	30				○						ScS2D-5BEE-092
	生物化学 I		2	30				○						ScS2D-5BBM-032
	環境化学		2	30				○						ScS2D-5BEE-032
	データマネジメント基礎		1	16				4						ScS2D-5BBa-011
	分子遺伝学	指定	2	30					○					ScS3D-5BBM-042
	動物生理学	指定	2	30					○					ScS3D-5BAP-022
	行動生態学	指定	2	30					○					ScS3D-5BEE-042
	分子生態学		2	30					○					ScS3D-5BEE-072
	環境毒性学	指定	2	30					○					ScS3D-5BEE-062
	生物化学 II		2	30					○					ScS3D-5BBM-052
	古生物学		2	30					○					ScS3D-5BMo-032
	進化昆虫学	指定	2	30						○				ScS3D-5BGE-042
	分子遺伝学特論	指定	2	30						○				ScS3D-5BGE-032
	進化神経学	指定	2	30						○				ScS3D-5BMo-042
	進化植物学		2	30						○				ScS3D-5BAP-032
	生物化学 III		1	16						3				ScS3D-5BBM-061
生体分析化学		1	16						3				ScS3D-5BBM-071	
生態環境分析学		1	16						3				ScS3D-5BEE-081	
コース課題科目	基礎生物学演習	必修	2	30			○							ScS2E-5BPE-012
	生物学実験 I	選択必修	2	60				3						ScS2E-5BES-012
	生物学実験 II	選択必修	2	60				4						ScS2E-5BES-022
	生物学実験 III	選択必修	2	60					1					ScS3E-5BES-032
	生物学実験 IV	選択必修	2	60					2					ScS3E-5BES-042
	生物学野外実習	*a	1	30				△						ScS2E-5BFW-011
	臨海実習	*a	1	30				△						ScS2E-5BFW-021
	基礎生物英語		2	30			○							ScS2E-5BPE-022
	文献講読		2	30				○						ScS2E-5BPE-032
	生物統計学演習		2	30				○						ScS2E-5BPE-042
	生物学展望II	必修	2	30					○					ScS3E-5BES-082
	生物学ゼミナール I		2	30					○					ScS3E-5BES-052
	生物学ゼミナール II		2	30						○				ScS3E-5BES-062
	生物学課題演習		6	180							○			ScS3E-5BES-072

\* a. 「生物学野外実習」・「臨海実習」の履修方法については、掲示により通知する。

\* 【選択必修科目】「生物学実験 I・II・III・IV」(各2単位)の4科目から3科目以上を修得する。

1 主要スケジュール  
2 愛大学生コンベンション  
3 教育学の理念と教育方針  
4 大学で学ぶ基本知識  
5 単位制度  
6 履修登録単位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標・履修方法・科目ナンバリング  
9 履修登録手続き等  
10 他学部授業科目履修  
11 単位互換科目  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業認定・卒業式  
15 グラデュエーションプログラムの履修と学位取得  
16 サポート  
17 教育職員免許状  
18 その他  
19 留学・アクティビティの支援

図8-7 生物学コース カリキュラムマップ



### ③生物学コースの共通課題科目を履修するための要件

共通課題科目(表8-2)を履修するためには、下記の1-5の要件をすべて満たしていることが必要です。

1. 卒業に必要な共通教育科目(基盤科目13単位、未来思考支援科目2単位、教養科目12単位、計27単位)を修得済みである。
2. 理学部必修基礎科目1単位、及び理学部共通基礎科目8単位以上を修得済みである。
3. 生物学コースのコース課題科目(表8-7)の必修2科目4単位と選択必修3科目6単位以上を修得済みである。
4. 生物学コースのコース体系科目及びコース課題科目(表8-7)を合計36単位以上修得済みである。
5. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が72単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が105単位以上である。

### ④生物学コースの卒業要件

修業年限以上在学し、共通課題科目を履修するための要件、及び下記の1-4をすべて満たす必要があります。(表8-1、8-2、8-7参照)

1. 理学部共通課題科目の必修3科目5単位を修得済みである。
2. 専門教育科目の生物学コースのコース体系科目及び共通課題科目の指定科目から14単位以上を修得済みである。ただし、「課題研究」・「特別研究Ⅰ」・「特別研究Ⅱ」のいずれかの科目を修得済みである。
3. 生物学コースのコース体系科目、コース課題科目、及び理学部共通課題科目が合計55単位以上である。
4. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が92単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が124単位以上である。

1 主要スケジュール  
2 愛大学生コンベンション  
3 学部の理念と教育方針  
4 大学で学ぶ基本知識  
5 単位制度  
6 履修登録単位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標・履修方法・科目ナンバリング  
9 履修登録手続き等  
10 他学部授業  
11 単位互換科目・他  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業認定、卒業変更プログラム  
15 履修プログラムの教員  
16 サポート  
17 教育職員免許状  
18 その他  
19 留学・アクティビティの支援

### ⑤生物学コースの履修モデル (2026年度)

生物学コースの代表的な履修モデルを示します。履修プログラム・免許の取得に要する単位の要件や自身のキャリアビジョン等に合わせて無理のない適切な履修計画を立ててください。

#### 標準プログラムの履修モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次					
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
全学共通教育	English Foundation	English Communication Strategies (SELC1484)																	
	微積分																		
	情報リテラシーI	情報リテラシーII	知的財産入門	社会力入門			未来思考リテラシー	Beyond 50:50											
	スポーツ																		
	こころと健康																		
	新入生セミナー																		
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目											
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目											
	必修基礎	理学部基礎セミナー																	
	共通基礎	数理情報の基礎	化学I	化学II															
理学部共通	生物学I/地学I	生物学II/地学II																	
	物理学I	物理学II	基礎生物学実験	基礎化学実験															
生物学コース	体系		生物学展望I	細胞学	分類学	分子遺伝学	進化昆虫学												
			微生物学	植物生理学	植物生理学	動物生理学	分子遺伝学特論												
			植物形態学	形態形成論	分子生物学	進化神経学													
			生態学	個体群生態学	行動生態学	進化植物学													
				環境化学	環境毒理学														
特別																			
他コース開講																			
キャリア					キャリアデザインI	キャリアデザインII	インターンシップ												

### (5) 地学コース

地球科学（地学）は、私たちの住む地球に起こる、あるいは過去に起こった諸現象を解析し、その仕組みを野外調査や室内実験などから理解する学問です。地学コースでは、コース体系科目群（講義）で、地質古生物学・岩石鉱物学・固体地球物理学・海洋学の体系的知識を学修します。また、コース課題科目（実験・実習）で、野外調査・室内実験・安全衛生・事故防止など、地球科学に携わるための総合的な実践的知識・技能を培います。

#### ①地学コースの到達目標

地質学・鉱物学・岩石学・固体地球物理学・海洋学の体系的基礎学識と、野外活動・実験技術・機器操作・安全衛生・科学倫理などの実践的基盤スキルを修得し、それらを活用して、調査・研究を通じた課題の発見・提示や解決を科学的思考のもとで行い、その過程や結果を他者に説明することができる。国内外の文献を調査し必要な情報を収集し理解できる。

#### ②地学コースのカリキュラム方針と科目表・カリキュラムマップ

1年次には、入門的な授業を通じて地球科学への関心を持てるような科目「最新地球惑星科学」を配置しています。

2-3年次は、コースの専門教育科目を中心に志向・目標に適した科目を選択して履修します。必修科目「地質野外実習I」及び2種類の選択必修科目（「地質学実験・岩石鉱物学実験・地球物理学実験」から2科目以上、及び、「地質野外研究・沿岸海洋学研究・地球科学実験」のうちのどれか1科目）を履修し、フィールドワークを通じた野外活動技術・実験機器の取扱いを含む実験技術・安全衛生・科学倫理について、実践的なスキルを修得します。また、3年次後学期の「地学課題演習」（履修することを強く推奨する科目）では、仮研究室配属が行われます。仮指導教員のもとで、自分自身で選択したテーマに関する文献調査と入門的な研究活動を行って、4年次での研究の準備をするとともに、その方向性について自分で考えます。

4年次では正式に研究室配属され、正式な指導教員のもとでゼミやリサーチワークを中心に行います。

表8-8 地学コース 教育課程表

区分	科目名	必修／指定／履修要件	単位数	総時間数	開講学年・クォーター								科目コード	
					1年次		2年次		3年次		4年次			
					前	後	前	後	前	後	前	後		
コース体系科目	最新地球惑星科学		2	30		4								ScS1D-5EBa-022
	地質学概論		2	30			○							ScS2D-5EGL-012
	鉱物学概論		2	30			○							ScS2D-5EPM-012
	岩石学概論		2	30			1							ScS2D-5EPM-022
	固体地球物理学概論		2	30			○							ScS2D-5EGP-012
	海洋学概論		2	30			○							ScS2D-5EOC-012
	生態学		2	30			○							ScS2D-5BBM-012
	分類学		2	30				○						ScS2D-5BMo-012
	岩石学		2	30				○						ScS2D-5EPM-032
	鉱物学		2	30				○						ScS2D-5EPM-042
	地層学		2	30				△						ScS2D-5EGL-022
	固体地球物理学	指定	2	30				○						ScS2D-5EGP-022
	海洋物理学Ⅰ	指定	2	30				○						ScS2D-5EOC-022
	分析化学Ⅰ		1	16					4					ScS2D-5CAn-011
	力学Ⅰ		2	30					4					ScS2D-5PMe-012
	力学Ⅱ		2	30						1				ScS3D-5PMe-023
	進化神経学	指定	2	30						○				ScS3D-5BMo-042
	情報地球科学	指定	2	30						○				ScS3D-5EGP-032
	地球内部構造論	指定	2	30						○				ScS3D-5EGP-042
	古生物学	指定	2	30						○				ScS3D-5EGL-032
	海洋物理学Ⅱ	指定	2	30						○				ScS3D-5EOC-032
	沿岸海洋学	指定	2	30							○			ScS3D-5EOC-042
	地球化学	指定	2	30							○			ScS3D-5EPM-052
地球環境学特論		2	30							3△			ScS3D-5EGL-042	
岩石鉱物学特論		2	30							3△			ScS3D-5EPM-062	
地球物理学特論		2	30							3△			ScS3D-5EGP-052	
熱統計力学Ⅰ	指定	2	30						3				ScS3D-5PTS-012	
コース課題科目	地質野外実習Ⅰ	必修	2	60				△						ScS2E-5EFW-012
	地質学実験	選択必修①	2	60				○						ScS2E-5EES-012
	岩石鉱物学実験	選択必修①	2	60				○						ScS2E-5EES-022
	地球物理学実験	選択必修①	2	60				○						ScS2E-5EES-032
	地質野外実習Ⅱ		2	60						△				ScS2E-5EFW-022
	情報地球科学演習		2	30						○				ScS3E-5EES-042
	地質図学演習	*a	1	16						1				ScS3E-5EES-051
	地質調査法実習	*a	1	30						△				ScS3E-5EES-061
	地質野外研究	選択必修②	6	180						○				ScS3E-5EES-076
	沿岸海洋学研究	選択必修②	6	180						○				ScS3E-5EES-086
	地球科学実験	選択必修②	6	180						○				ScS3E-5EES-096
	地学課題演習	*b	6	180								△		ScS3E-5EES-106

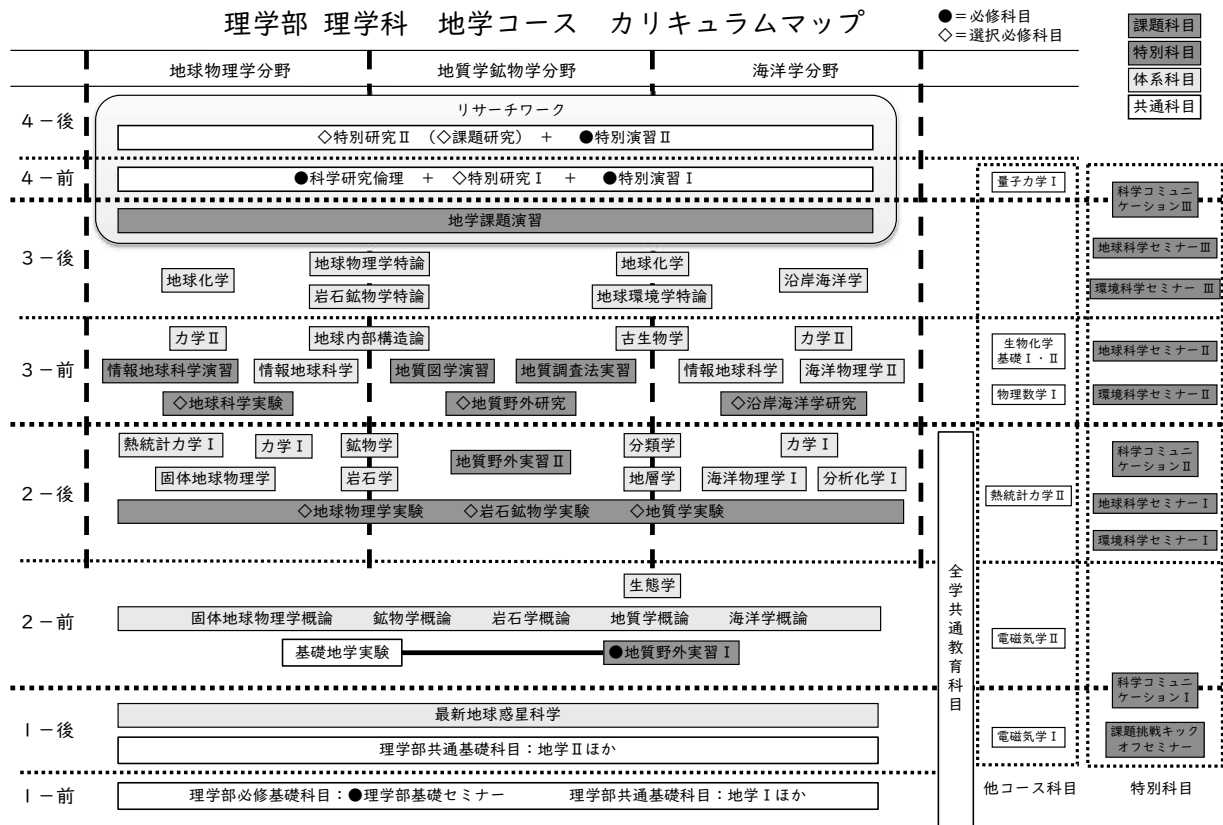
\* a. 「地質野外研究」の履修者は、「地質図学演習」、「地質調査法実習」を合わせて履修することが望ましい。

\* b. 「地学課題演習」を履修することが望ましい。

\* 【選択必修科目①】「地質学実験、岩石鉱物学実験、地球物理学実験」(各2単位)の3科目から2科目以上を修得する。

\* 【選択必修科目②】「地質野外研究、沿岸海洋学研究、地球科学実験」(各6単位)の3科目から1科目のみを選択し修得する。

図8-8 地学コース カリキュラムマップ



③地学コースの共通課題科目を履修するための要件

共通課題科目（表8-2）を履修するためには、下記の1—5の要件をすべて満たす必要があります。

1. 卒業に必要な共通教育科目（基盤科目13単位、未来思考支援科目2単位、教養科目12単位、計27単位）を修得済みである。
2. 理学部必修基礎科目1単位、及び理学部共通基礎科目8単位以上を修得済みである。
3. 地学コースのコース課題科目（表8-8）から18単位以上を修得済みである。ただし、必修1科目2単位、選択必修①から2科目4単位以上、及び選択必修②から1科目6単位の計12単位以上を含む必要がある。
4. 地学コースのコース体系科目及びコース課題科目（表8-8）を合計36単位以上修得済みである。
5. 卒業要件に算入される修得済みの専門教育科目が64単位以上であり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が97単位以上である。

④地学コースの卒業要件

修業年限以上在学し、共通課題科目を履修するための要件、及び下記の1—4の要件をすべて満たしていることが必要です。（表8-1、8-2、8-8参照）

1. 理学部共通課題科目の必修3科目5単位を修得済みである。
2. 地学コースのコース体系科目及び理学部共通課題科目の指定科目から14単位以上を修得済みである。ただし、「課題研究」・「特別研究Ⅰ」・「特別研究Ⅱ」のいずれかを含む必要がある。
3. 地学コースのコース体系科目・コース課題科目、及び理学部共通課題科目を計55単位以上修得済みである。
4. 卒業に必要な専門教育科目92単位以上を修得済みであり、かつ修得済みの共通教育科目との合計が124単位以上である。

1 主要スケジュール  
2 愛大生コンベンション  
3 教育学の理念と教育方針  
4 大学で学ぶ基本知識  
5 単位制度  
6 履修登録単位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標・履修方法・科目ナンバリング  
9 履修登録手続き等  
10 他学部授業科目履修  
11 単位互換科目・他  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業認定、卒業制度  
15 履修プログラム変更・転入・プログラムの教員  
16 サポートの学びのサポート  
17 教育職員免許状  
18 その他の資格  
19 留学・アクティビティの支援

### ⑤地学コースの履修モデル (2026年度)

地学コースの代表的な履修モデルを示します。地学コースには、【地質系】【地球深部実験系】【地球深部数値系】【海洋系】の学修分野があります。選択する履修プログラム・学修分野や自分のキャリアビジョン・取得を希望する免許等に合わせてアレンジして履修計画を立ててください。

#### 標準プログラムの履修モデル

		1年次				2年次				3年次				4年次						
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期				
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
全学共通教育	未来 基礎	新生セミナー																		
		スポーツ	微積分																	
		こころと健康																		
		English Foundation																		
		情報リテラシーI	情報リテラシーII																	
		知的財産入門	社会力入門																	
		教養科目(選択)	教養科目(選択)																	
理学部共通	基礎	理学部基礎セミナー																		
		地学I	地学II	基礎地学実験																
		数理情報の基礎 数学の基礎 物理学I	数学I 数学II 物理学II 化学I 化学II	生物学I																
		課題												科学研究倫理 特別演習I 特別研究I			特別演習II 特別研究II			
地学コース	体系		最新地球惑星科学	地質学概論 鉱物学概論 岩石学概論 固体地球物理学概論 海洋学概論	岩石学 鉱物学 地層学 固体地球物理学 海洋物理学I 分類学・統計力学I・ 力学Iなど	地球内部構造論・ 海洋物理学II・ 情報地球科学・ 古生物学・力学IIなど	地球化学 地球環境学特論 岩石鉱物学特論 地球物理学特論 沿岸海洋学													
				地質野外実習I	地質学実験 岩石鉱物学実験 地球物理学実験 地質野外実習II	地質図学演習・ 地質調査法実習・ 情報地球科学演習など 地質野外研究・ 地球科学実験・ 沿岸海洋学研究から選択	地学課題演習													
特別																				
他コース 関連																				
キャリア																				

### 特別プログラム：科学コミュニケーションプログラム・課題挑戦プログラム

履修プログラムは、原則として所属コースに関係なく独立に選択することができます。特別プログラムである科学コミュニケーションプログラムまたは宇宙・地球・環境課題挑戦プログラムを選択した場合でも、履修する科目群・卒業要件は標準プログラムと同じで、所属するコースによって定められています。

特別プログラムでは、推奨する履修モデルに沿って学修を進めながら、並行して「特別科目」(表8-2)を履修し、履修プログラムが目指すスキルを修得します。修得した特別科目の単位は、「関連科目・特別科目」として卒業要件に含めることができます。(関連科目との合計で16単位まで)

なお、科学コミュニケーションプログラム・課題挑戦プログラムを選択するには、修得科目に関する要件があります。また、課題挑戦プログラムには、定員(表8-9)があり、選択希望者が定員を超えた場合は、2年次前学期までに修得した科目の成績合計点(GPT)が高い順に選抜を行います。(GPTの計算についてはP55を参照) 選抜に漏れた場合は、標準プログラムの選択となります。科学コミュニケーションプログラムの選択希望者が多数となった場合は、調整を実施します。標準プログラムには定員がありません。

科学コミュニケーションプログラム・課題挑戦プログラムを選択後に標準プログラムへ変更する場合の条件や制限はありません。履修プログラムを変更する場合は、学期開始前に理学部事務課学務チームへ「履修プログラム変更届」を提出し、変更後の学修計画について相談してください。(科学コミュニケーションプログラム・課題挑戦プログラムへの変更は原則としてできません。)

#### 【特別プログラムの選択要件】

特別プログラムの選択に際しては、下記の要件を満たす必要があります。(標準プログラムの選択に関する要件はありません。)

- (1) 卒業のために修得が必要な共通教育科目のうち22単位以上を修得済みである。
- (2) 「理学部基礎セミナー」(1単位)及び理学部共通基礎科目8単位以上を修得済みである。
- (3) 科学コミュニケーションプログラムの選択には、「科学コミュニケーションI」を修得済みである必要がある。

- (4) 課題挑戦プログラムの選択には、「課題挑戦キックオフセミナー」を修得済みである必要がある。  
 なお、課題挑戦プログラム（宇宙科学分野）を選択する場合は、上記に加え「物理学Ⅰ・Ⅱ」、「力学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「電磁気学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」、「物理数学Ⅰ」の9科目から4科目以上を修得済みである必要がある。なお、「解析学の基礎」を修得した場合は、それを「物理数学Ⅰ」として選択要件に含めることができる。

表8-9 履修プログラムの定員

標準	科学コミュニケーション	宇宙・地球・環境 課題挑戦		
		宇宙科学分野	地球科学分野	環境科学分野
なし	40程度	20	20	20

### A. 科学コミュニケーションプログラム

科学コミュニケーションプログラムは、特別研究や課題研究といった研究活動に加えて、地域や海外といったフィールドでの実践機会から学ぶことを志向する学生のための特別履修プログラムです。所属コースの講義科目・実験科目で基盤となる専門知識・実験技術を培うとともに、地域フィールドまたは海外フィールドのどちらかで実践を通じた演習に取り組みます。本プログラムを志向する学生には、所属コースの主要科目と並行して他コースの基盤的・俯瞰的科目や基礎実験を履修することが推奨され、幅広い理学の汎用的能力を培うことが期待されています。また、多様なキャリアパスを実現するために、キャリア科目の履修を推奨しています。

#### (1) カリキュラムの特徴

まず、科学コミュニケーションプログラムを選択するには、1年次第4クォーターから開講される「科学コミュニケーションⅠ」の受講が必要です。その後、地域フィールドを志向する学生は「科学コミュニケーションⅡA・Ⅲ」を受講し、大学主催の公開講座などを題材にグループワーク・教材作成などに取り組み、自ら工夫した方法で小中学生・高校生や一般の人に科学の魅力を伝える実践力を磨きます。また、海外フィールドを志向する学生は「科学コミュニケーションⅡB・ⅢB」を受講し、キャンパス内外や国内外の国際交流イベントに主体的に関わり、世界の人々と科学分野でのコミュニケーションを円滑に行うための実践力や、英語を中心とした外国語力を磨きます。

#### (2) 履修モデル（2026年度）

科学コミュニケーションプログラムを選択した場合の代表的な履修モデルを示します。所属する教育コースとキャリアビジョンに合わせて適切な履修計画を立ててください。

1 主要スケジュール  
 2 愛大生コンベンション  
 3 教育学部の理念と教育方針  
 4 大学で学ぶ基本知識  
 5 単位制度  
 6 履修登録単位数の上限  
 7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
 8 教育目標・履修科目  
 9 履修登録手続き等  
 10 他学部授業科目履修  
 11 単位互換科目  
 12 受講上の注意事項  
 13 試験・成績  
 14 卒業認定、卒業認定、早期卒業  
 15 履修プログラム変更、転学部の履修プログラム  
 16 学びのサポート  
 17 教育職員免許状  
 18 その他資格  
 19 留学・アクティビティの支援

## 科学コミュニケーションAの履修例（物理学コース）

		1年次				2年次				3年次				4年次			
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
全学 共通 教育 科目	English Foundation	English Communication Competency (ECC) L.C.(202)															
	微積分	微積分															
	情報リテラシーI	情報リテラシーII	知的財産入門	社会力入門	卒業研究リテラシー Beyond Skills												
	スポーツ こころと健康 新入生セミナー																
理学部 共通 基礎 科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	理学部基礎セミナー																
	化学I	化学II	化学III	化学IV	地学I/生物学I	生物学II/地学II											
	数理情報の基礎 数学の基礎 物理学I	数学I	数学II	基礎物理学実験													
物理学 コース 体系 科目	カ学I	カ学II	カ学III	カ学IV	カ学V												
	電磁気学I	電磁気学II	電磁気学III	電磁気学IV	電磁気学V	物理学I	物理学II	熱統計カ学I	熱統計カ学II	熱統計カ学III	熱統計カ学IV	量子カ学I	量子カ学II	相対性理論			
	物理学実験I	物理学実験II	物理学実験III														
	科学コミュニケーションI	科学コミュニケーションIIA	科学コミュニケーションIIIA														
特別 他コース 関連 キャリア	科学コミュニケーションI 科学コミュニケーションIIA 科学コミュニケーションIIIA 地球環境学序論 インターンシップ キャリアデザインI キャリアデザインII キャリア形成セミナー																

➤ 上記以外の理学部共通基礎科目や他コースの体系科目を幅広く履修しましょう。

## B. 宇宙・地球・環境課題挑戦プログラム

宇宙・地球・環境課題挑戦プログラムは、先端研究院の宇宙進化研究センター・地球深部ダイナミクス研究センター・沿岸環境科学研究センターが取り組む宇宙科学・地球科学・環境科学分野の学際的前端研究を志向する学生のための特別プログラムです。所属コースの講義科目・実験科目で基盤となる専門知識・実験技術を培うとともに、2年次後学期～3年次には課題挑戦科目を履修して、研究センターが主催する定期学術セミナーに参加します。卒業後は大学院に進学してさらに研鑽し、国際的に活躍する技術者・研究者に成長することが期待されています。

### (1) カリキュラムの特徴

まず、1年次第3クォーターの「課題挑戦キックオフセミナー」を受講して、宇宙・地球・環境科学の3分野を俯瞰します。2年次前学期終了時に分野を選択し、2年次後学期～3年次に選択した分野の少人数セミナー（課題挑戦科目）を受講して、各分野の研究に必要な基礎知識と応用力を身につけ、4年次の特別研究に備えることができます。

#### (a) 宇宙科学分野「宇宙科学セミナーI・II・III」

宇宙進化研究センターでは、銀河の形成と進化や宇宙の大規模構造との関係、銀河中心の巨大ブラックホールや銀河系内のブラックホールの進化、太陽表面の爆発現象や地球周辺の宇宙プラズマへの影響などの宇宙における物理現象について研究しています。セミナーでは、これらの研究に必要な基礎知識や論理的思考力を物理や数学を使った演習形式で学びます。4年次の研究では、すばる望遠鏡やXRISM、ひのといった衛星望遠鏡の観測データや計算機シミュレーションを使った先端研究に取り組むことができます。

#### (b) 地球科学分野「地球科学セミナーI・II・III」

地球深部ダイナミクス研究センターは地球惑星科学を中心に物理学・化学・材料科学の「高圧力科学」を推進する世界的な研究拠点です。セミナーではマントルから内核までの物質と地球深部の動的性質の研究、高圧合成、惑星内部に相当する数百万気圧の超高压発生による新物性探索など、「高圧力科学」の最新の研究活動に触れることができます。4年次の研究では卒業研究として自身の研究テーマに主体的に取り組めます。学部の講義で学ぶ数学、物理学、化学、地学の系統的な理解を深め、教員との議論と実験技術の習熟を通じて世界に発信できる研究能力を養います。

(c) 環境科学分野「環境科学セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ」

沿岸環境科学研究センターでは、新規内分泌かく乱化学物質の分析法開発やアジア太平洋地域を対象とした環境汚染物質の時空間トレンド及び生物蓄積・濃縮機構の解明、環境汚染物質による野生生物への毒性影響とその発現機序の解明及びリスク評価法の開発、魚介類の病原微生物と宿主免疫系の研究、沿岸域や縁辺海での海洋循環や物質循環の研究、海洋環境や生態系の長期変動に関する古海洋・古環境学的研究などを行っています。セミナーでは、専門的知識・技術を駆使して環境問題を科学的に解析し、他の学生や教員と問題解決に向けて議論し、貢献できる力を涵養します。4年次の研究では、国際的な調査・研究に参画することも可能です。

(2) 履修モデル (2026年度)

課題挑戦プログラムを選択した場合の代表的な履修モデルを示します。所属する教育コース・履修プログラムとキャリアビジョンに合わせて適切な履修計画を立ててください。

宇宙科学分野—物理学コース

	I年次	2年次				3年次				4年次			
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1	2	3	4	1	2	3	4
全学共通教育	English Foundation	English Communication Strategies (OEG L-C140)											
	微積分												
	情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ	知的財産入門	社会力入門									
	スポーツ	未来思考リテラシー Beyond SDGs											
	新入生セミナー												
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
理学部共通	理学部基礎セミナー												
	共通基礎	生物学Ⅰ/地学Ⅰ		化学Ⅰ	化学Ⅱ	地学Ⅱ/生物学Ⅱ							
	数理情報の基礎	数学Ⅰ		数学Ⅱ	基礎物理学実験								
	数学の基礎	物理学Ⅰ											
物理学コース	課題	科学研究倫理											
	体系			力学Ⅰ	力学Ⅱ	力学Ⅲ	力学Ⅳ	力学Ⅴ					
	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電磁気学Ⅲ	電磁気学Ⅳ	電磁気学Ⅴ								
	物理数学Ⅰ	熱統計力学Ⅰ		熱統計力学Ⅱ	熱統計力学Ⅲ	熱統計力学Ⅳ	熱統計力学Ⅴ	熱統計力学Ⅵ					
	量子力学Ⅰ	量子力学Ⅱ	量子力学Ⅲ	量子力学Ⅳ	量子力学Ⅴ	量子力学Ⅵ							
	天文学	宇宙物理学											
	相対性理論	物性物理学											
	物理学実験Ⅰ	物理学実験Ⅱ		物理学実験Ⅲ									
	特別	キックオフセミナー		宇宙科学セミナーⅠ		宇宙科学セミナーⅡ		宇宙科学セミナーⅢ					
	他コース関連												
キャリア													

地球科学分野—物理学コース

	I年次	2年次				3年次				4年次			
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1	2	3	4	1	2	3	4
全学共通教育	English Foundation	English Communication Strategies (OEG L-C140)											
	微積分												
	情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ	知的財産入門	社会力入門									
	スポーツ	未来思考リテラシー Beyond SDGs											
	新入生セミナー												
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目							
理学部共通	理学部基礎セミナー												
	共通基礎	生物学Ⅰ/地学Ⅰ		化学Ⅰ	化学Ⅱ	地学Ⅱ/生物学Ⅱ							
	数理情報の基礎	数学Ⅰ		数学Ⅱ	基礎物理学実験								
	数学の基礎	物理学Ⅰ											
物理学コース	課題	科学研究倫理											
	体系			力学Ⅰ	力学Ⅱ	力学Ⅲ	力学Ⅳ	力学Ⅴ					
	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電磁気学Ⅲ	電磁気学Ⅳ	電磁気学Ⅴ								
	物理数学Ⅰ	熱統計力学Ⅰ		熱統計力学Ⅱ	熱統計力学Ⅲ	熱統計力学Ⅳ	熱統計力学Ⅴ	熱統計力学Ⅵ					
	量子力学Ⅰ	量子力学Ⅱ	量子力学Ⅲ	量子力学Ⅳ	量子力学Ⅴ	量子力学Ⅵ							
	天文学	宇宙物理学											
	相対性理論	物性物理学											
	物理学実験Ⅰ	物理学実験Ⅱ		物理学実験Ⅲ									
	特別	キックオフセミナー		地球科学セミナーⅠ		地球科学セミナーⅡ		地球科学セミナーⅢ					
	他コース関連	固体地球物理学		地球物理学		地球内部構造論							
キャリア													

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大生生活
- 3 学部教育理念
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録の上限
- 7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択
- 8 教育目標
- 9 履修登録の手続き等
- 10 他学部履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業認定
- 15 履修プログラムの変更・転学の窓口
- 16 学びのサポート
- 17 教育職員免許状
- 18 その他の資格
- 19 留学・アクティビティの支援

## 環境科学分野—地学コース

		1年次				2年次				3年次				4年次					
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
全学共通教育	基盤 未修	新入生セミナー						卒業見送り 情報リテラシー	Beyond SDGs										
		スポーツ こころと健康	微積分																
		English Foundation		English Communication Strategies (30もしくは40)															
		情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ	知的財産入門	社会力入門														
		教養科目(選択)	教養科目(選択)	教養科目(選択)	教養科目(選択)														
理学科共通	必修 基礎 課題	理学部基礎セミナー																	
		地学Ⅰ 数理情報の基礎 数学の基礎 物理学Ⅰ	地学Ⅱ 数学Ⅰ 数学Ⅱ 物理学Ⅱ 化学Ⅰ 化学Ⅱ	基礎地学実験 生物学Ⅰ															
															科学研究倫理 特別演習Ⅰ 特別研究Ⅰ			特別演習Ⅱ 特別研究Ⅱ	
地学コース	体系 課題			最新地球惑星科学	地質学概論 鉱物学概論 岩石学概論 海洋学概論 生態学	地層学 海洋物理学Ⅰ 分析化学Ⅰ 力学Ⅰ	古生物学 海洋物理学Ⅱ 情報地球科学 力学Ⅱ	地球環境学特論 地球化学 沿岸海洋学											
					地質野外実習Ⅰ	地質学実験 岩石鉱物学実験 地球物理学実験	情報地球科学演習 沿岸海洋学研究	地学課題演習											
特別		ラップトップセミナー			環境科学セミナーⅠ	環境科学セミナーⅡ	環境科学セミナーⅢ												
他コース 関連							物理数学Ⅰ												
キャリア							生物化学基礎Ⅰ 生物化学基礎Ⅱ												

- 地学コースの体系科目・課題科目において、地球科学に関連した基礎知識と応用力を身につけます。並行して、数学・数理情報コース、物理学コース、生物学コースの関連する基礎的な体系科目を履修することを推奨します。3年次の「環境科学セミナーⅢ」や4年次の「特別演習Ⅰ・Ⅱ」、「特別研究Ⅰ・Ⅱ」では、沿岸域や縁辺海での海洋循環や物質循環の研究、海洋環境や生態系の長期変動に関する古海洋・古環境学的研究などをテーマとする調査・研究に参画することができます。

### 8-4 科目ナンバリング

大学で開講している授業の水準や授業内容などを授業科目毎に特定の記号や数字を付与し、カリキュラムの体系性(科目群の構成や科目間の順次性)をわかりやすく示したものです。学生のみなさんにとっては、科目ナンバリングを教育課程表やシラバスで確認することで、授業の登録や履修を主体的かつ計画的に進めるための一助となります。

(例1) 共通教育基盤科目「こころと健康」 GnE1G-0BAS-002

GnE + 1 + G - 0 + BAS - 002  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

(例2) 理学部理学科共通基礎科目「数学の基礎」 ScS1A-5MBa011

ScS + 1 + A - 5 + MBa + 011  
 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥

①開講学部学科

コード	名称
GnE	共通教育
ScS	理学部理学科

②学年レベル

コード	年次
1	1
2	2
3	3
4	4

③科目区分

共通教育科目		専門教育科目	
コード	名称	コード	名称
G	基盤科目	G	必修基礎科目
F	未来思考支援科目	A	共通基礎科目
C	教養科目	B	共通課題科目
D	発展科目	C	キャリア科目
E	留学生対象科目	D	コース体系科目
		E	コース課題科目
		F	特別科目

④分野大分類

コード	名称
5	理学
0	その他

⑤科目分類

共通教育科目		専門教育科目			
コード	名称	コード	名称	コード	名称
基盤科目		共通		生物学	
ENG	英語 (科目群)	XCB	必修基礎	BBa	基礎
MTH	数学 (科目群)	XRe	課題科目	BCD	細胞・発生
BAS	その他	XCa	キャリア	BAP	動物・植物生理
未来思考支援科目		XSC	科コミ	BGE	遺伝・進化
FTS	未来思考支援科目	XCh	課題挑戦	BEE	生態・環境
教養科目		数学		BMo	動物・植物形態
STD	愛大スタンダード科目	MBa	基礎	BBM	生化学・分子生物学
PRI	愛大プライム科目	MAL	代数	BPE	プレゼン・英語
SEM	課題発見基礎セミナー	MTG	位相・幾何	BFW	野外実習
ALI	大学間連携科目	MAn	解析	BES	実験・セミナー
FRL	初修外国語	MPS	確率・統計	地学	
TCH	教員免許に関する科目	MAp	応用	EBa	基礎
発展科目		MPE	プレゼン・英語	EGL	地質学
XTN	発展科目	MES	実験・セミナー	EPM	岩石鉱物学
留学生対象科目		物理学		EGP	地球物理学
INS	留学生対象科目	MBa	基礎	ECC	海洋学
		MAL	代数	EPE	プレゼン・英語
		MTG	位相・幾何	EFW	野外実習
		MAn	解析	EES	実験・セミナー
		MPS	確率・統計		
		MAp	応用		
		MPE	プレゼン・英語		
		MES	実験・セミナー		
		化学			
		CBa	基礎		
		COr	有機化学		
		Clo	無機化学		
		CQc	量子化学		
		CPh	物理化学		
		CBi	生物化学		
		CAn	分析化学		
		CEc	環境化学		
		CPE	プレゼン・英語		
		CES	実験・セミナー		

⑥科目番号  
科目ごとに付番する。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大生コンピテンシー
- 3 教育の理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 プログラムの選択及び履修の選択
- 8 教育目標
- 9 履修登録手続き等
- 10 他学部履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業認定・卒業制度
- 15 履修プログラム変更、転学部の教員
- 16 サポート
- 17 教育職員免許状
- 18 その他の資格
- 19 留学・アクティビティの支援

## 9 履修登録手続き等

授業科目を履修するためには、履修しようとする授業科目を登録しなければなりません。履修登録は、各自が修学支援システムから行います。

### 9-1 履修登録の時期

履修登録は、各学期の履修登録日程に沿って行ってください。詳しい日程は、こちらから確認できます。

🔗 履修登録日程（大学ホームページ）



🔗 履修登録日程（修学支援システムポータルサイト）



### 9-2 履修登録の手順

① 履修登録に必要なものを確認します。

- 愛媛大学アカウント及びパスワード
- 履修の手引
- 時間割表
- その他の履修登録関連資料

② 教育課程表で、各学期に履修すべき授業科目や単位数をよく確認します。

③ 時間割表とシラバスを確認し、履修する科目を決定します。（シラバスについては、P49参照）

🔗 【共通教育科目時間割表】



🔗 【専門教育科目時間割表】



- 専門教育科目の時間割表は、各学期始め（4月、9月）に理学部ホームページへ掲載します。
- 時間割表には、時間割番号、授業科目名、開講曜日、時限、担当教員名、教室が示されています。自分の受けようとしている授業科目が開講されているか、曜日・時限が重複していないか確認するようにしてください。

※時間割表では、学生証番号の中の「個人番号」を用いてクラス分けを示す場合があります。学生証番号の見方については以下を確認してください。

#### 学生証番号

学生証番号とは学生個人を表す番号で、学生証に8桁で表されています。出席カード、レポート、試験の答案など、重要な書類の提出の際に必要となりますので、学生証は常に携帯し、学生証番号も間違いのないように記憶しておいてください。

学生証番号の構成（理学部1番の学生の場合）

入学年度 (西暦下1桁)	学部コード (1桁)	学科・課程コード (2桁)	個人番号 (3桁)	チェックデジット (アルファベット1字)
6	3	20	001	A

学部、学科・課程コード表

学部	学部コード	学科・課程	学科・課程コード
理学部	3	理学科	20

#### ④修学支援システムにアクセスし、選択した科目を登録します。

##### ☑ 修学支援システム

※抽選対象科目については、定員を超過した場合、修学支援システムの抽選機能を用いて抽選が行われます。必ず抽選結果を確認し、抽選漏れした場合は履修登録修正期間中に他の授業科目を登録してください。

※修学支援システム利用のてびきには、修学支援システムで履修登録を行う際の操作方法も含め、詳しい手順が記載されていますので参考にしてください。

##### ☑ 修学支援システム利用のてびき ※学内限定アクセス

なお、集中講義には、履修登録方法・履修登録期間を別途指定しているものがあります。これらの科目の履修を希望する場合は、学務チームや共通教育チームからの案内にしたがってください。



## 9-3 履修計画

### (1) 学生生活担当教員

愛媛大学では、学年進行に伴う学習の進み具合を確認するため、半期に一度（入学時を除く）、学生生活担当教員と面談する機会を設けています。一貫性のない履修計画により学期途中で受講を中断したり、試験を放棄したりすることのないよう、履修制度や授業内容を理解した上で、履修計画に取り組みましょう。

### (2) シラバス

シラバスとは、授業計画を表し、授業担当教員、授業の概要、各回の授業の計画等が記載されたものです。授業の到達目標や成績評価方法なども記載されており、履修の指針となる重要な資料であると言えます。シラバスは修学支援システムの「シラバス検索」メニューで閲覧することができますので、履修計画を立てる際に必ず確認してください。

##### ☑ シラバス検索



## 9-4 共通教育履修モデル

共通教育では、所属学部の専門とは異なる分野からも授業を選択し、幅広い教養を身に付けることを推奨しています。履修計画を立てる際の参考にしてください。

##### ☑ 共通教育履修モデル



## 9-5 履修登録科目の確認について

履修登録した授業科目が正確に登録されているか、履修登録の確認・修正期間中に必ず確認してください。履修登録が行われていない場合は、受講できないので注意してください。次の授業科目は、理学部事務課学務チームでの履修登録が必要です。

### (1) 基礎実験（2-4年次）

理学部共通基礎科目の「基礎物理学実験」「基礎化学実験」「基礎生物学実験」「基礎地学実験」（各1単位）は、同じ授業時間帯に並行して開講されます。同一内容の授業が年に2回クォーター制で開講され、1年間で2科目（2年間で4科目）まで履修することができます。

基礎実験の履修を希望する場合は、履修希望年度の前年度の2月に「基礎実験希望願」を理学部事務課学務チームに提出してください。履修希望者数が実験ごとに設定されている定員を超えた場合には、抽選による調整を行います。なお、履修に修得科目等の要件が設けられている場合があります。受講の際には、第1回に行われるガイダンスを必ず受講してください。

## (2) 他学部・他大学等の授業科目

愛媛大学の他学部の授業科目及び他大学等の授業科目の履修を希望する場合は、理学部事務課学務チーム窓口で履修手続を行ってください。

## (3) 一部の集中形式の授業科目・新たに追加開講される授業科目

履修登録期間に開講の詳細が決まっていない一部の科目については、詳細が決まり次第、修学支援システムにて通知されます。

## 9-6 履修登録科目の修正について

第2、第4クォーターの始めに履修登録修正期間が設定されるため、第2、第4クォーターの登録科目について修学支援システムから履修登録を修正することが可能です。(ただし、共通教育科目は取消のみ可能で追加はできません。)

なお、この期間外での授業科目の追加については、「履修登録科目追加願」による所定の手続きが必要です。手続きの詳細は学務チームに確認してください。(ただし、共通教育科目は原則として追加はできません。)

## 9-7 履修登録科目の取消について

病気・けがなどによって長期間履修できなくなり、それ以降の履修を取りやめる場合は、授業担当教員の承認を得た上で、「履修登録科目取消願」を学務チーム(共通教育科目は共通教育チーム)に提出し、取消の手続きを行ってください。ただし、既に欠席が開講回数の3分の1を超えている場合の取消は認められません。取り消さず、履修登録されたままの科目は成績評価の対象科目となり、GPAに算入されます。

なお、履修登録後、休学・退学した場合及び除籍された場合は、履修登録科目は自動的に取消されます。履修登録は、学生生活担当教員(指導教員)の履修指導を受け、履修計画を立ててから行ってください。

 履修登録科目の確認・修正・取消について(修学支援システムポータルサイト)



## 10 他学部授業科目履修

他学部の授業科目を履修する場合は、授業担当教員の了承を得て、履修登録期間中に「他学部授業科目履修願」を理学部事務課学務チームへ提出してください。実験・実習科目など、授業科目の特性上他学部学生の履修が適当ではない場合は、履修が認められない場合がありますので、シラバスをよく確認してください。

理学部では最大合計16単位まで特別科目・関連科目として卒業に必要な専門教育科目とすることができます。

## 11 単位互換科目・他大学科目

愛媛大学は、複数の大学と単位互換に関する協定を結んでおり、希望者は協定校の授業科目を履修することができます。単位互換科目を受講するには「特別聴講学生入学願」「履修願」を教育支援課に提出してください。



### ☑ 履修可能な授業科目

修得した単位は、理学部では、以下の授業科目の単位について関連科目の単位として認定されます。

- 1) 松山大学・松山短期大学・聖カタリナ大学・聖カタリナ大学短期大学部、松山東雲女子大学・松山東雲短期大学及び今治明德短期大学で定められた授業科目の単位
- 2) 広島大学で定められた授業科目の単位
- 3) 放送大学における以下の授業科目の単位  
「外国語科目」（認定は4単位まで）  
英語、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語、イタリア語  
「自然と環境」（修得した全ての単位が認定される）

愛媛大学が協定を結んでいる海外の大学に留学し、修得する科目の単位の認定を希望する場合は、事前に日程の余裕をもって理学部事務課学務チームに申し出てください。

入学前に国内外の大学・短期大学等（科目等履修生としての在学を含む）において修得した単位は、学業上有益と認められる場合、規定の範囲\*で本学の授業科目名に読み替えて理学部において修得した単位として認定を受けることができます。認定された科目の成績は「認定」となり、個別成績表等の GPT、GPA 算出の対象に含まれません。単位認定を希望する場合は、入学手続き時に必要資料を添えて理学部事務課学務チームに申し出てください。

\*編入学の際に認定可能な単位数の上限は、60単位です。

在学中に愛媛大学が単位互換に関する協定を結んでいない大学等（海外を含む）の授業科目を履修しようとするときは、事前に学部長を経て学長の許可を得なければなりません。

許可を得た上で履修して修得した科目については、本学の授業科目名に読み替えて単位を認定する場合があります。認定された科目の成績は原則として「認定」となり、個別成績表等の GPT/GPA 算出の対象に含まれません。


認定を受けた他大学等の科目の単位は、読み替え先科目名が以下の区分に含まれる場合に、読み替え先科目として卒業要件に算入することができます。

- ・ 共通教育科目
- ・ 理学部の必修基礎科目・共通基礎科目・共通課題科目及び所属コースの体系科目・課題科目
- ・ キャリア科目及び資格に関する科目（教科の指導法に関する科目・教育の基礎的理解に関する科目等・博物館に関する科目）
- ・ 関連科目（他コースの科目・他学部開講科目等）

## 12 受講上の注意事項（授業の実施場所、休講・補講、授業欠席）

授業を受ける際の注意事項を説明します。知らないばかりに授業を受けられなかったり、必要な連絡ができなかったり、学生生活上に必要な支援が得られなかったり、さまざまな不都合が生じることになりま  
す。受講上の基本的な注意事項については、特に確認しておきましょう。

授業に関するいろいろな連絡は、修学支援システムで行われます。シラバス、休講・補講、落とし物、  
行事予定、メッセージ、その他の大事なお知らせ情報が掲載されます。特に、お知らせ情報、メッセージ  
には重要な情報が含まれるため、毎日確認してください。また、登録している学籍情報（住所、電話番号、  
メールアドレス等）に変更があった場合には、必ず修正してください。修正しなければ、重要な連絡事項  
がある際に連絡がつかず不利益を被る可能性がありますので注意してください。

 修学支援システム



### 12-1 授業の実施場所等

#### (1) 教室

授業は、主に、次の教室（建物）で行われます。受講する授業の教室は修学支援システムで確認してく  
ださい。

- ・愛大ミュージズ……………M21 ～M33、M演習室1～2
- ・コラボハウスホール……………C H
- ・共通講義棟A……………共A11 ～共A53、多レク1、多レク2、A L R
- ・教育学部4号館……………E 41、E 42、M P R
- ・総合情報メディアセンター……………第1～第3演習室、メディア演習室
  
- ・理学部講義棟／数学棟  
1F……………S11、S12、S13、S14  
2F……………S21、S22、S23、S24  
3F……………S31、S32、S33
- ・理学部本館／総合研究棟 I ……セミナー室／実験室等

#### (2) 教室変更


授業科目ごとに確定した受講者数にとまない、授業開始前後に教室を変更することがあります。教室の  
変更については、修学支援システムで確認してください。

### 12-2 休講・補講

#### (1) 通常の休講・補講

授業担当教員が、出張又は病気等の理由で担当する授業を休講する場合、また、休講授業の補講をする  
場合は、修学支援システムで通知しますので、毎日確認するようにしてください。

#### (2) 気象等に関する特別警報又は台風に伴う暴風警報が発表された場合

 特別警報又は台風に伴う暴風警報が発表された場合の休講について



### 12-3 授業の欠席

病気、怪我等のやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、授業担当教員へ欠席理由を申し出るよう  
にしてください。

なお、「愛媛大学学業成績判定に係る授業欠席の取扱いに関する申合せ」に定められた理由によりやむ

を得ず授業を欠席する場合には、出席には取り扱われませんが、正当な理由による授業欠席として認められる場合があります。修学支援システムの学生ポータルサイトを確認し、所定の手続きを行ってください。

☑ 正当な理由による授業欠席について



## 13 試験・成績

### 13-1 試験等における受験上の注意

試験については、授業担当教員の指示に従ってください。

- (1) 受験に際しては、「学生証」を必ず持参し、試験時間中は机の上に置いてください。
- (2) 「学生証」を所持していない場合は、携帯電話等の端末を用いて、修学支援システムの学籍情報照会メニューに表示される顔写真を授業担当教員に提示してください。
- (3) (1) (2) が行えない場合、試験を受けることができない場合があります。

### 13-2 不正行為

試験の際に不正行為を行った者は、「愛媛大学学業成績判定に関する規程」により、当該学期の全成績を判定しないという処置がとられます。また、「愛媛大学学生懲戒処分規程」により退学以下の懲戒処分を受ける場合があります。

### 13-3 レポートの提出

提出方法については、授業担当教員の指示に従ってください。指示された提出期限を超えると、受理されませんので注意してください。レポート・論文の中で他者の意見を引用する場合は、引用がわかる表示が必要です。適切な表示のない場合は、盗作とみなされることがあります。

【参考】レポート作成上で、守るべき事項（ガイドライン）

- ① 書籍・雑誌等から他者（先輩や同級生も含む。）の文章を引用する場合は、該当箇所を明確にした上で、必ず出典を明示すること。これには、インターネット上の文章から引用する場合も含まれる。
- ② 他者が執筆した文献や書籍・雑誌を参考にした場合は、文献名などを明示すること。但し、論旨に直接関連しない場合には、明示の必要はない。
- ③ 他者のデータ等を利用する場合は、該当箇所を明確にした上で、出典等を明示すること。
- ④ 他者との共同による学習成果を利用する際には、その旨を明記すること。
- ⑤ 他者のレポート等をそのまま写して提出すること、他者に依頼し作成したレポートを提出すること、あるいは複数科目において同一内容のレポートを提出することは、言うまでもなく絶対に行ってはならない行為である。また、自己の学習成果を盗用目的の他者に供与することも厳に慎むべき行為である。

なお、学習における生成AIの活用については、気を付けるべき点をまとめて大学ホームページで随時発信していますので、確認しておいてください。

☑ 教育活動における生成AIの活用における留意事項について（第2報）  
～学習における生成AIの活用について～（令和5年11月16日）



### 13-4 追試験

次に掲げる事情で、定められた期日に受験できなかった場合、追試験を受けることができる場合があります。

ます。

- (1) 正当な理由による授業の欠席として認めることができる事由
- (2) その他やむを得ない理由であると認められるもの

なお、追試験を受けようとする者は、当該科目の授業担当教員の指示に従い、必要に応じて「追試験願」及び「その事情を証明できる書類等」を授業担当教員または学務チーム（共通教育科目は共通教育チーム）へ提出してください。なお、授業担当教員には、試験日の翌日から起算して3日後以内に申し出てください。また、3日を超える場合であってもやむを得ない事情であると統括教育コーディネーター等が判断した場合は認められる場合があります。

## 13-5 成績の評価

成績は、試験及び平素の成績をもとに総合的に評価されます。試験は、筆記、レポート等により実施されます。平素の成績は、授業時間中の小テスト、課題の提出状況等によって判定されます。授業科目ごとの成績判定については、シラバスの「成績評価方法」の項目に記載されていますので参考にしてください。

成績の判定には、当該授業科目の開講時間数のうち、少なくとも3分の2以上の出席が必要です。ただし、欠席の理由によっては、「正当な理由による欠席」として認められる場合があります。

[☞ 成績判定について](#)



## 13-6 成績の確認と成績確認申立

成績は、所定の期日以降に修学支援システムにより、確認してください。成績通知日は前学期末及び後学期末の年2回です。

成績判定について疑義が生じた場合は、成績の通知後、原則として1週間以内に、成績確認申立書を提出し、成績の確認を申し立てることができます。申立てを行う場合は、「学業成績判定に関する申立てについて」の内容に従い、具体的な理由を明確にしたうえで、学務チーム（共通教育科目は共通教育チーム）に申し出てください。

[☞ 成績確認・成績確認申立てについて](#)



## 13-7 保証人への成績情報の開示について

本学では、事前に同意いただいている場合、保証人がWeb上で成績情報を確認できます。成績情報の確認に際しては、事前に本学から保証人にご案内をお送りします。

[☞ 成績確認について（保証人向け）](#)



## 13-8 GPA及びGPTについて

学生自身による学習プロセス及び達成状況の自己管理に役立てるとともに、教員による学生の学修状況の把握及びきめ細やかな指導・助言を行うために、「全学共通GPA」を導入しています。また、理学部ではGPT（GPの合計）も導入しています。

[☞ 全学共通GPAについて](#)



## GPT と GPA

授業科目の成績の評語：秀・優・良・可・[不可、評価しない] をそれぞれ 4・3・2・1・0 と数値化したものを成績点 GP (Grade Point) といいます。履修した各授業科目の GP にその単位数を掛けて合計した値が成績合計点 GPT (Grade Point Total) です。

$$GPT = \sum_{\text{履修登録科目}} (GP \times \text{単位数})$$

ここでΣは履修登録した科目のすべてについて和をとることを表す記号です。

履修した科目について GP の平均をとったものが成績平均値 GPA (Grade Point Average) です。

$$GPA = \frac{\sum_{\text{履修登録科目}} (GP \times \text{単位数})}{\text{総履修登録単位数} ※}$$

※ [不可・評価しない] の科目は GP = 0 として加算されます。授業科目ごとの GP に単位数による重み加わるので、全履修科目の GP の単純な平均（相加平均）とは値が異なります。なお、成績が [認定／合格／不合格] で評価される科目（他の大学等で修得した単位を認定した場合など）は、GPT・GPA の算出対象から除外されます。

TC（合計修得単位数）は学修の量、GPA は学修の質、GPT は量と質の両面から学修を評価する指標といえます。修学支援システムの「個別成績表」「成績集計値・GPA」に、通算 GPA/GPT、学期 GPA/GPT が表示されます。

※GPT、GPA の使用例

GPT：課題挑戦プログラムの選択希望者が定員を超えたときの選抜

GPA：早期卒業制度の適用・早期卒業の判定

## 14 卒業認定、早期卒業制度

### 14-1 卒業認定・学位授与

理学部の定める教育課程を修め、規定する期間以上在学し、厳格な成績評価に基づき所定の単位を修得し、卒業要件を満たした学生に対して、卒業を認定し学位（学士）を授与します。

#### <規定する期間：修業年限>

理学部の修業年限は4年（休学期間を除く。編入学の場合は定められた年数）です。（学則第9条）ただし、特に優秀な成績で卒業要件の単位を修得したと認められる場合は、在学期間が3年以上4年未満の時点で卒業を認定することがあります。（学則第47条・理学部規則第11条）（早期卒業制度）

なお、在学期間が修業年限の2倍（8年）を超えることはできません。（学則第10条）

通常、4年次の3月に要件を満たして卒業が認定されますが、9月（前学期終了時）に卒業要件を満たした場合は、9月に卒業が認定されます。9月卒業を希望する場合は、その年の3月末までに理学部事務課学務チームに申し出てください。

卒業に関する規定は「学生生活の手引」に掲載の「学則等」を参照してください。理学部卒業のために修得が必要な単位に関する要件については、「8. 教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング」を参照してください。

#### 卒業判定

卒業判定は、学期末（3月・9月）に修業年限を満たす全学生について、卒業要件単位を修得済みであることを確認することで行われます。卒業判定を実施する学期の成績通知日（2月末・8月末）までに認定された単位が対象となり、成績通知日以降に遅れて認定された単位は、その学期に開講された科目のものであっても判定の対象に含まれません。

夏季休業期間や年度末に実施される集中形式の科目は、単位認定が成績通知日より遅れることがあり、その場合、卒業判定の対象となりません。

### 14-2 早期卒業制度（学則第47条・理学部規則第11条）

理学部の早期卒業制度は、単位取得状況・成績が良好な学生に対して、通常4年間のカリキュラムを3.5年に短縮して卒業を可能とする制度です。この制度の適用を受けると、CAP制の上限を超えた履修登録が可能となり集中的な学修ができるほか、修業年限（4年）の規定から外れて、特別に在学期間3.5年（休学期間は含まない）での卒業が可能となります。早期卒業や最大半年間の休学を含む在籍期間4年での卒業などが選択できます。

ただし、制度適用者が3.5年の在学期間で教員免許を取得することは、カリキュラム上不可能です。学芸員資格の取得を考えている場合は、早期卒業制度申請時に理学部事務課学務チームに相談してください。

#### （1）早期卒業制度の申請

早期卒業制度の適用を希望する場合は、2年次前学期授業期間終了時（8月初旬）に、理学部事務課学務チームへ「早期卒業制度申請」を提出してください。制度が適用されるためには、下記の要件を満たす必要があります。

- （1）共通教育科目の基盤科目13単位及び教養科目12単位を修得していること。
- （2）卒業に必要な単位のうち、合計60単位以上を修得していること。
- （3）GPAが3.00以上であること。

## (2) 早期卒業の認定

早期卒業制度の適用者が、在学期間3.5年(休学期間は含まない)となる時点で卒業要件の単位をすべて修得し、その成績が優秀である場合に、早期卒業が認められます。

早期卒業制度適用者が要件を満たす見込みで早期卒業を希望する場合は、卒業見込の1年前の指定時期に、理学部事務課学務チームへ「早期卒業制度認定願」を提出してください。早期卒業を希望しない場合は、通常の4年の在学期間で卒業となります。

## (3) 早期卒業制度適用の途中辞退

早期卒業制度の適用を受けたのちに、単位取得状況・成績の不振やゆっくり学びたいなど、何らかの理由で制度適用を途中辞退したい場合には、特に手続きは必要ありません。

制度適用者も通常の4年間のカリキュラムに沿って学修し卒業することができます。

### 【標準プログラムの早期卒業制度適用者の履修モデル (生物学コース)】

	1年次				2年次				3年次				4年次				
	前学期	後学期		前学期	後学期		前学期	後学期		前学期	後学期		前学期	後学期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
全学共通教育	English Foundation		English Communication Strategies (E&L C 020)														
	微積分		知的財産入門		社会力入門				未来思考リテラシー	Sky and SDGs							
	情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ															
	スポーツ こころと健康																
理学部共通	新入生セミナー																
	理学部基礎セミナー																
	数理情報の基礎		化学Ⅰ	化学Ⅱ													
	生物学Ⅰ/地学Ⅰ 物理学Ⅰ		生物学Ⅱ/地学Ⅱ 物理学Ⅱ		基礎生物学実験	基礎化学実験											
生物学コース																	
					生物学Ⅰ	細胞学	分類学	分子遺伝学	生体分析化学Ⅰ								
					植物学	植物生理学	形態形成論	動物生理学	分子遺伝学特論								
					生化学	動物群生化学	行動生態学	行動生態学	進化神経学								
特別					生物化学基礎Ⅰ	生物化学基礎Ⅱ	環境化学Ⅰ	環境毒性学	進化植物学								
					環境化学Ⅱ	古生物学											
					基礎生物学演習	生物学実験Ⅰ	生物学実験Ⅱ	生物学実験Ⅲ	生物学実験Ⅳ								
					基礎生物学英語	生物学英語	文獻読解	生物学ゼミナールⅠ	生物学ゼミナールⅡ								
他コース					臨海実習	生物統計学演習											
キャリア																	

- 2年次前学期終了時に「早期卒業制度申請」を提出し、審査により認められる必要があります。申請には修得単位数とGPAに関する要件を満たす必要があります。
- 早期卒業予定者は、3年次後学期から「特別演習Ⅰ」「科学研究倫理」等を履修します。

## 15 履修プログラム／教育コースの変更、転学部

### 15-1 履修プログラムの変更・・・履修プログラム変更届 (3年次前・後学期開始前)

科学コミュニケーションプログラム／課題挑戦プログラムから標準プログラムへの変更には制限がありません。学期開始前に理学部事務課学務チームへ「履修プログラム変更届」を提出してください。他の履修プログラム(標準プログラム等)から科学コミュニケーションプログラム／課題挑戦プログラムへの変更はできません。

### 15-2 教育コースの変更・・・コース所属変更願・審査(各学年末)

特別入試(学校推薦型選抜、私費外国人留学生)を受験して入学した学生が受験したコースと異なるコースへの所属を希望する場合は、1年次以降の学年末に、一般選抜(前期日程・後期日程)を受験して入学した学生が2年次以降に所属しているコースから異なるコースへ変更を希望する場合は、2年次以降の学年末に、理学部事務課学務チームへ「コース所属変更願」を提出します。(2月頃)

1 主要スケジュール  
2 愛大生コンピテンシー  
3 教育学の理念と教育方針  
4 大学で学ぶ基本知識  
5 単位制度  
6 履修登録単位数の上限  
7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択  
8 教育目標と修業科目  
9 履修登録の手続き等  
10 他学部授業科目履修  
11 単位互換科目・他  
12 受講上の注意事項  
13 試験・成績  
14 卒業認定・早期卒業制度  
15 履修プログラム／教育学部の履修プログラム  
16 サポート  
17 教育職員免許状  
18 その他  
19 留学・アクティビティの支援

コース所属変更の審査（3月中旬頃）が面接及び書類・成績審査によって行われ、合格すれば希望コースへの所属変更が認定されます。

コースを変更すると卒業要件等が変更先のコースのものに変更になります。学生生活担当教員・教育コーディネーター・理学部事務課学務チームに相談し、履修計画・既修得単位の取り扱いなど、事前によく確認してください。

## 15-3 転学部

愛媛大学の一部の学部には、学内の他学部からの転入（転学部）を受け入れる制度があります。転学部の募集要項・選考方法等は、希望する転出先学部の学務チーム（医学部は学務課教務チーム）に問い合わせてください。

# 16 学びのサポート（教科書、自主学習スペース、学習支援、履修相談窓口）

## 16-1 教科書

### (1) 購入方法

毎学期の始め、愛媛大学生協で販売されます。使用する教科書はシラバスで事前に確認をしてください。

### (2) 活用方法

大学における教科書は、単に授業時間内だけに利用されるものではありません。1つの授業で伝えるべき内容は数多くあり、授業時間内に伝えることのできる範囲は限られています。授業で理解できないことや、疑問点を解消するために予習することが、授業を受講するのと同様に大切なことです。自習用のテキストとしても大いに活用してください。

## 16-2 大学内での自主的な学習

### (1) 図書館を利用する

図書の貸出、閲覧をはじめ、図書館は皆さんが必要とする情報を収集できる場です。詳細については以下のサイトで確認してください。

[愛媛大学中央図書館](#)



### (2) 学内の学習スペースを利用する

授業時間外学習促進のための自主学習スペースを積極的に活用してください。利用にあたっては、注意事項を守り、お互いが気持ちよく使えるように心がけてください。

#### ・共通スペース

##### ●コミュニケーションラウンジ

利用時間：授業期間中の月～金曜日 8：30～21：00

授業期間外の月～金曜日 9：00～17：00

※土日祝日、夏季一斉休業、年末年始は使用できません。

場 所：共通講義棟A1階

##### ●スカイラウンジ・ノース

利用時間：月～金曜日 8：30～21：00

※土日祝日、夏季一斉休業、年末年始は使用できません。

場 所：愛大ミュージズ3階



## 16-6 相談窓口

履修方法、進路、学生生活、課外活動、友人関係、健康管理などで直面する疑問・不安・悩みに対して、気軽に相談できるように様々な相談窓口を設けています。

「学生生活の手引」で確認してください。

[☑ 学生生活の手引 | 大学生活 | 愛媛大学](#)



履修に関する各種問い合わせ先は、修学支援システムのポータルサイトでも確認することができます。相談内容に応じて、該当する窓口へ問い合わせてください。

[☑ お問合せ先（修学支援システムポータルサイト）](#)



## 17 教育職員免許状

幼稚園や小・中・高等学校の先生になるには教育職員免許状を取得することが必要であり、そのためには、法律に定められた内容を学修することが求められます。

愛媛大学では、教職課程の質的水準の向上を目指して教職総合センターを設置し、全学的に責任ある指導体制のもと、教員養成に取り組んでいます。また、「教職課程のディプロマ・ポリシー（愛媛大学で教師を目指す者が卒業時に身につけておくべき資質能力）」を定めて到達目標を明示しています。「教職課程のディプロマ・ポリシー」を念頭に置きながら、「子どもとともに成長する先生」を目指し学修を積み重ねてください。

愛媛大学での教職履修の詳細については、教職総合センターホームページに掲載されている「先生になるために－教職履修の手引－」（令和8年度入学者適用）（以下、「先生になるために」という。）を必ず確認してください。

[☑ 教職総合センターホームページ](#)



[☑ 「先生になるために－教職履修の手引－」](#)



### 愛媛大学教職課程のディプロマ・ポリシー（DP）

1. 教科・教職に関する幅広い基礎知識と、得意分野の専門的知識を有している。
2. 学校現場で生じている問題を始めとして地域や社会全体に関わる課題について、適切な対応を考え議論することができる。
3. 幼児・児童・生徒の発達に応じた保育・授業の構成や教材・教具の工夫ができる。
4. 実践から学び、自己の学習課題を明確にして、理論と実践を結びつけた学習ができる。
5. 教育的愛情を持って幼児・児童・生徒に接することができるとともに、多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。

### 取得できる教育職員免許状の種類

本学において、所定の授業科目の単位を修得し、学士の学位を取得した者は、各自の所属する学部及び学科・課程に定められた種類及び教科の教育職員免許状を取得することができます。原則として、所属す

る課程に定められた教育職員免許状以外は卒業時に取得することはできません。

理学部で卒業時に取得可能な教育職員免許状は次のとおりです。

- ・中学校教諭一種免許状（数学、理科）
- ・高等学校教諭一種免許状（数学、理科）

なお、以降、教育職員免許状の種類を次のとおり表記します。

中学校教諭一種免許状：中一種免 高等学校教諭一種免許状：高一種免

※「学校設置者等及び民間教育保育等事業者による児童対象性暴力等の防止等のための設置に関する法律」、通称「こども性暴力防止法」の施行に伴い、教育実習等のこどもと関わる実習について犯罪事実確認が行われる可能性があります。特定性犯罪前科が確認された場合は実習を行うことができません。実習を行うことができない場合は、教育職員免許状の取得要件を満たすことができず、教育職員免許状を取得することはできません。

## 17-1 「教育職員免許状」の取得方法

本学の「教育職員免許状」の取得方法については、「先生になるために II 教育職員免許状取得までの流れ」を確認してください。

### (1) 基礎資格 及び (2) 所定の科目(単位)の修得

教育職員免許法（以下、「免許法」とする）に定められた基礎資格及び最低修得単位数については「先生になるために IV. 基礎資格及び必要な単位数」を確認してください。

免許法の規定に基づき、本学では各区分の最低取得単位数を設定しています。

理学部で修得すべき単位数は表17-1の通りです。表17-2A/B、17-3の科目表に従って計画的に履修してください。（事情により開講時期が変更される場合もあります。）

表17-1

免許状の種類	愛媛大学において修得すべき最低単位数				
	① 教科及び教科の指導法に関する科目	② 教育の基礎的理解に関する科目等	③ 大学が独自に設定する科目	合計	文部科学省令で定める科目
中一種（数学）	28	28	3	59	8
高一種（数学）	24	24	11	59	8
中一種（理科）	28	28	3	59	8
高一種（理科）	24	24	11	59	8

### 「教職科目」

教職総合センターでは、教育職員免許状を取得する上で必要となる科目のうち、次の科目を教職課程における「教職科目」と位置づけ区分しています。

- 「教科の指導法に関する科目（教科教育法など）」
- 「教育の基礎的理解に関する科目等（教職基礎論や教育制度論、教育実習など）」
- 文部科学省令で定める科目「教職日本国憲法」「スポーツと教育」

#### 「教職履修ガイダンス」の受講と「教職履修希望届」の提出

教職科目は「教職履修ガイダンス」の受講と「教職履修希望届」の提出が履修条件となっています。「教職履修ガイダンス」は1年次前学期に実施されますので、教職を志望する場合は必ず受講し、ガイダンス受講後、「教職履修希望届」を提出してください。

- 1 主要スケジュール
- 2 愛媛大学生コンピテンシー
- 3 教育学部の理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択
- 8 教育目標・履修科目・修得単位数
- 9 履修登録手続き等
- 10 他学部履修科目
- 11 単位互換科目
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業認定、卒業認定早期卒業
- 15 履修プログラム変更/プログラムの履修
- 16 学びのサポート
- 17 教育職員免許状
- 18 その他資格
- 19 留学・アクティビティの支援

■教科及び教科の指導法に関する科目

表17-2A 数学

	区分	科目名	単位数	開講学年・クォーター								中一種	高一種	科目コード	ラーニング・ログ*	
				1年次		2年次		3年次		4年次						
				前	後	前	後	前	後	前	後					
教科の指導法に関する科目	教科の指導法に関する科目	数学科教育法1	2			○							○	○	/	○
		数学科教育法2	2				○						○	○		○
		数学科教育法3	2					○					○			○
		数学科教育法4	2						○				○			○
教科に関する科目	代数学	代数学Ⅰ	4			△							○	○	ScS2D-5MAI014	○
		代数学Ⅱ	4				△						○	○	ScS2D-5MAI024	○
		代数学Ⅲ	4					△							ScS3D-5MAI034	
		代数学Ⅳ	2						△						ScS3D-5MAI042	
	幾何学	幾何学Ⅰ	4				△						○	○	ScS2D-5MTG024	○
		幾何学Ⅱ	2					△							ScS3D-5MTG042	
		集合と位相Ⅱ	4				△						○	○	ScS2D-5MTG014	○
		位相数学Ⅰ	2					△							ScS3D-5MTG032	
			位相数学Ⅱ	2					△						ScS3D-5MTG052	
	解析学	解析学の基礎	3				△						○	○	ScS2D-5MAAn073	○
		解析学Ⅰ	4					△					○	○	ScS2D-5MAAn014	○
		解析学Ⅱ	2						△						ScS3D-5MAAn022	
		解析学Ⅲ	2							△					ScS3D-5MAAn032	
		現象の数理解Ⅰ	2						△						ScS3D-5MAAn042	
		現象の数理解Ⅱ	2							△					ScS3D-5MAAn082	
	[確率論、統計学]	確率統計学Ⅰ	4				△						○	○	ScS2D-5MPS014	○
		確率統計学Ⅱ	3					△					○	○	ScS2D-5MPS023	○
		確率統計学Ⅲ	2						△						ScS3D-5MPS023	
	コンピュータ	数理情報処理Ⅰ	2				△						○	○	ScS2D-5MAp012	○
		数理情報処理Ⅱ	2					△					○	○	ScS2D-5MAp022	○
数理情報処理Ⅲ		2						△						ScS3D-5MPS082		
数理情報処理Ⅳ		2							△					ScS3D-5MPS092		
数理応用Ⅰ		2							△					ScS3D-5MPS102		

※○の科目は必修。各科目区分で○の科目を1科目以上修得する。

\*ラーニング・ログ：各科目区分で○の科目を1科目以上含み、中一種12単位以上、高一種16単位以上の作成が必要。

・修得した教科の指導法に関する科目の単位は、「キャリア科目」として一部を卒業要件に含めることができます。(キャリア科目の合計で10単位まで)

中一種免取得の場合は、「教科及び教科の指導法に関する科目」28単位として、表17-2A「教科の指導法に関する科目」8単位、表17-2A「数学の教科に関する科目」20単位以上を修得する必要があります。加えて、「大学が独自に設定する科目」3単位として、表17-2A「数学の教科に関する科目」3単位以上を修得する必要があります。そのため、表17-2A「数学の教科に関する科目」から合計23単位以上を修得する必要があります。

高一種免取得の場合は、「教科及び教科の指導法に関する科目」24単位として、表17-2A「教科の指導法に関する科目」4単位、表17-2A「数学の教科に関する科目」20単位以上を修得する必要があります。加えて、「大学が独自に設定する科目」11単位として、表17-3「教育の基礎的理解に関する科目等」及び表17-2A「数学の教科に関する科目」の修得が必要な単位数を超えて修得した単位を充てるので注意してください。



表17-2B 理科

区分	科目名	単位数	開講学年・クォーター				中一種	高一種	科目コード	ラーニングログ*				
			1年次		2年次						3年次		4年次	
			前	後	前	後					前	後	前	後
教科の指導法に関する科目	教科の指導法に関する科目	理科教育法1	2						◎	◎	/	◎		
		理科教育法2	2			○				◎		◎	◎	
		理科教育法3	2			○				◎			◎	
		理科教育法4	2				○			◎			◎	
教科に関する科目	物理学	物理学Ⅰ	2	○						○	○	ScS1A-5PBa012	○	
		物理学Ⅱ	2		○					○	○	ScS1A-5PBa022	○	
		力学Ⅰ	2		4							ScS1D-5PMe-012		
		電磁気学Ⅰ	2		4							ScS1D-5PEm-012		
		力学Ⅱ	2			1						ScS2D-5PMe-022		
		電磁気学Ⅱ	2			1						ScS2D-5PEm-022		
		力学Ⅲ	2			2						ScS2D-5PMe-032		
		電磁気学Ⅲ	2			2						ScS2D-5PEm-032		
		物理数学Ⅰ	2			○						ScS2D-5PPM-012		
		熱統計力学Ⅰ	2				3					ScS2D-5PTs-012		
		電磁気学Ⅳ	2				3					ScS2D-5PEm-042		
		力学Ⅳ	2				3					ScS2D-5PMe-042		
		物理実験学	1				3					ScS2D-5PES-021		
		熱統計力学Ⅱ	2				4					ScS2D-5PTs-022		
		電磁気学Ⅴ	2				4					ScS2D-5PEm-052		
		力学Ⅴ	2				4					ScS2D-5PMe-052		
	物理数学Ⅱ	2				○					ScS2D-5PPM-022			
	熱統計力学Ⅲ	2					1				ScS3D-5PTs-032			
	量子力学Ⅰ	2					1				ScS3D-5PQM-012			
	化学	化学Ⅰ	1	1	3					◎	◎	ScS1A-5CBa011	○	
		化学Ⅱ	1	2	4					◎	◎	ScS1A-5CBa021	○	
		化学Ⅲ	1		3					○	○	ScS1A-5CBa031	○	
		化学Ⅳ	1		4					○	○	ScS1A-5CBa041	○	
		物理化学Ⅰ	1		4							ScS1D-5CPh011		
		有機化学Ⅰ	1		4							ScS1D-5COr011		
		分析化学Ⅰ	1		4							ScS1D-5CAn011		
		無機化学Ⅰ	2			○						ScS2D-5ClO012		
		量子化学Ⅰ	2			○						ScS2D-5CQc012		
		生物化学基礎Ⅱ	1			2						ScS2D-5CBI021		
		機器分析Ⅰ	1			1						ScS2D-5CAn051		
		物理化学Ⅱ	2			○						ScS2D-5CPh022		
		有機化学Ⅱ	2			○						ScS2D-5COr022		
分析化学Ⅱ		1			1						ScS2D-5CAn021			
分析化学Ⅲ		1			2						ScS2D-5CAn031			
無機化学Ⅱ		2				○					ScS2D-5ClO022			
量子化学Ⅱ	2				○					ScS2D-5CQc022				
生物化学Ⅰ	2				○					ScS2D-5CBI032				
物理化学Ⅲ	1				3					ScS2D-5CPh031				
物理化学Ⅳ	1				4					ScS2D-5CPh041				
有機化学Ⅲ	2				○					ScS2D-5COr032				
環境化学	2				○					ScS2D-5CEc012				
機器分析Ⅱ	1				3					ScS2D-5CAn061				
機器分析Ⅲ	1				4					ScS2D-5CAn071				
機器分析Ⅳ	1					1				ScS3D-5CAn081				
有機化学Ⅳ	2					○				ScS3D-5COr042				
生物化学Ⅱ	2					○				ScS3D-5CBI042				

区分	科目名	単位数	開講学年・クォーター								中一種	高一種	科目コード	ラーニング・ログ*	
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
教科に関する科目	生物学Ⅰ	2	○								○	○	ScS1A-5BBa012	○	
	生物学Ⅱ	2		○							○	○	ScS1A-5BBa022	○	
	細胞学	2			○								ScS2D-5BCD-012		
	発生学	2			○								ScS2D-5BCD-022		
	植物形態学	2			○								ScS2D-5BMo-012		
	生態学	2			○								ScS2D-5BEE-012		
	生物化学基礎Ⅰ	1			1								ScS2D-5BBM-011		
	分類学	2				○							ScS2D-5BMo-022		
	形態形成論	2				○							ScS2D-5BCD-032		
	分子遺伝学	2					○						ScS3D-5BBM-042		
	進化神経学	2						○					ScS3D-5BMo-042		
	行動生態学	2						○					ScS3D-5BEE-042		
	環境毒性学	2						○					ScS3D-5BEE-062		
	地学	地学Ⅰ	2	○								○	○	ScS1A-5EBa012	○
		地学Ⅱ	2		○							○	○	ScS1A-5EBa022	○
		最新地球惑星科学	2		4									ScS1D-5EBa-022	
		地質学概論	2			○								ScS2D-5EGL-012	
		鉱物学概論	2			○								ScS2D-5EPM-012	
		岩石学概論	2			1								ScS2D-5EPM-022	
		固体地球物理学概論	2			○								ScS2D-5EGP-012	
		海洋学概論	2			○								ScS2D-5EOC-012	
		岩石学	2				○							ScS2D-5EPM-032	
		鉱物学	2				○							ScS2D-5EPM-042	
		地層学	2					△						ScS2D-5EGL-022	
		固体地球物理学	2				○							ScS2D-5EGP-022	
		海洋物理学Ⅰ	2				○							ScS2D-5EOC-022	
		情報地球科学	2						○					ScS3D-5EGP-032	
		地球内部構造論	2						○					ScS3D-5EGP-042	
		古生物学	2						○					ScS3D-5EGL-032	
		海洋物理学Ⅱ	2						○					ScS3D-5EOC-032	
	沿岸海洋学	2							○				ScS3D-5EOC-042		
	地球化学	2							○				ScS3D-5EPM-052		
	実験	基礎物理学実験	1			1,2					◎	○	ScS2A-5PES011	○	
基礎化学実験		1			2,3					◎	○	ScS2A-5CES011	○		
基礎生物学実験		1			1,2					◎	○	ScS2A-5BES011	○		
基礎地学実験		1			1,2					◎	○	ScS2A-5EES011	○		

※◎の科目は必修。各科目区分で○の科目を1科目以上修得する。

\*ラーニング・ログ：各科目区分で○の科目を1科目以上含み、中一種12単位以上、高一種16単位以上の作成が必要。

- ・修得した教科の指導法に関する科目の単位は、「キャリア科目」として一部を卒業要件に含めることができます。(キャリア科目の合計で10単位まで)

中一種免取得の場合は、「教科及び教科の指導法に関する科目」28単位として、表17-2B「教科の指導法に関する科目」8単位、表17-2B「理科の教科に関する科目」20単位以上を修得する必要があります。加えて、「大学が独自に設定する科目」3単位として、表17-2B「理科の教科に関する科目」3単位以上を修得する必要があります。そのため、表17-2B「理科の教科に関する科目」から合計23単位以上を修得する必要があります。

高一種免取得の場合は、「教科及び教科の指導法に関する科目」24単位として、表17-2B「教科の指導法に関する科目」4単位、表17-2B「理科の教科に関する科目」20単位以上を修得する必要があります。加えて、「大学が独自に設定する科目」11単位として、表17-3「教育の基礎的理解に関する科目等」及び表17-2B「理科の教科に関する科目」の修得が必要な単位数を超えて修得した単位を充てるので注意してください。

1 主要スケジュール  
2 愛大生生活シ  
3 教育学の理念  
4 大学で学ぶ  
5 単位制度  
6 履修登録単  
7 教育コース  
8 教育目標  
9 履修登録  
10 他学部履修  
11 単位互換  
12 受講上の  
13 試験・成績  
14 卒業認定  
15 履修プログラム  
16 学習のサポート  
17 教育職員  
18 その他  
19 留学・支援

【教員免許（中学理科）取得希望者履修モデル（物理学コース）】

	1年次				2年次				3年次				4年次			
	前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4
全学共通教育	English Foundation															
	微積分															
	情報リテラシーI	情報リテラシーII	知的財産入門	社会力入門					卒業研究リテラシー Beyond Skills							
	スポーツ	スポーツと健康							スポーツと教育							
理学部共通	新入生セミナー															
	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目	教養科目
	理学部基礎セミナー															
	共通基礎															
	生物学I/地学I				化学I				化学II							
	数理情報の基礎				地学II/生物学II											
	数学の基礎				数学I				基礎物理学実験				基礎化学実験			
	物理学I				化学III								基礎地学実験			
													基礎生物学実験			
物理学コース																
他コース関連																
キャリア																

- 教員免許取得希望者は、多数の科目を履修・修得する必要があります。慎重に無理のない履修計画を立ててください。
- 中学理科の教員免許取得を希望する場合は、2年次に「基礎物理学実験」を履修することを強く推奨します。

■教育の基礎的理解に関する科目等

表17-3

区分	科目名	必要単位数		開講学年・クォーター								ラーニングログ*	備考
		中学一種	高校一種	1年次		2年次		3年次		4年次			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
教育の基礎的理解に関する科目	教職基礎論	2	2	○								◎	
	教育原論	2	2			○						◎	
	教育制度論	2	2			○						◎	
	発達と学習	2	2			○						◎	
	特別支援教育の基礎・基本	2	2						○			◎	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	1	1					○				◎	
	教育の課程と方法	2	2					○				◎	
	教育相談論	2	2					○				◎	
	道徳教育指導論	2	2					○				◎	
	教育とICT活用	1	1					○				◎	
	特別活動論	1	1						○			◎	
教育実践に関する科目	生徒指導・進路指導論	2	2						○			◎	
	教育実習事前・事後指導	1	1							○	○		
	教育実習1	4	2										中学校(4単位) 高等学校(4単位) 中学校(2単位) 高等学校(2単位)
	教育実習2												
	教育実習3												
教育実習4													
教職実践演習(中・高)	2	2								○			

・教育実習は、原則として愛媛大学附属高等学校、各自の出身高等学校または出身中学校において行ってください。

「教育実習1」「教育実習2」は4単位、「教育実習3」「教育実習4」は2単位です。

中一種免の授与を受ける場合、4単位以上選択必修。高一種免の授与を受ける場合、2単位以上選択必修。

- ・科目表から開講時期が変更になる場合や集中開講に変更となる場合があります。
- ・修得した◎の科目すべてについてのラーニング・ログと教育実習・介護等体験についてのプラクティス・ログを作成する必要があります。
- ・修得した表17-3の科目の単位は、「キャリア科目」として一部を卒業要件に含めることができます。(キャリア科目の合計で10単位まで)

### ■大学が独自に設定する科目の修得

表17-1「大学が独自に設定する科目」11単位として、表17-2A/B上部分「教科の指導法に関する科目」及び表17-3「教育の基礎的理解に関する科目等」及び表17-2A/B「数学の教科に関する科目」、「理科の教科に関する科目」の修得が必要な単位数を超えて修得した単位を充てます。

### ■文部科学省令で定める科目の修得

以下の共通教育科目は文部科学省令で定める科目です。必ず修得してください。開講される年次・学期等については「8. 教育目標、教育課程表、履修方法、科目ナンバリング」で確認してください。

文部科学省令で定める科目 (単位数)	左記に対応する本学の 開講科目	単位数	開講時期	区分
日本国憲法	教職日本国憲法※	2	2年次(後)	教養科目
体育	スポーツ	1	1年次(前)	基盤科目
	スポーツと教育※	1	2年次(後)	教養科目
外国語コミュニケーション	English Communication Strategies	2	1年次(後)	基盤科目
数理、データ活用及び人工知能に関する 科目又は情報機器の操作	情報リテラシー入門Ⅰ	1	1年次(前)	基盤科目
	情報リテラシー入門Ⅱ	1		
合計		8		

※「教職日本国憲法」は以下①、②を、「スポーツと教育」は以下①～③を満たすことが履修条件です。

- ①「教職履修ガイダンス」に出席していること
- ②「教職基礎論」を修得済みであること
- ③「スポーツ」を修得済みであること

※第Ⅰ期リフレクション・デイに参加し、教職e-ポートフォリオ(リフレクション・ログを含む)を提出していることを②の代替条件とすることができます。

### (3) 教職e-ポートフォリオ(教職課程学習ポートフォリオ)の作成

本学の教職課程では、Web上(Moodle)で①ラーニング・ログ(学習記録)・②プラクティス・ログ(実践体験記録)・③リフレクション・ログ(省察記録)の蓄積・整理する「教職e-ポートフォリオ」を作成します。作成方法などは「教職履修ガイダンス」やMoodle上で説明されています。

### (4) リフレクション・デイへの参加

本学では、理論と実践を結びつけた学習を支援し実践力の高い教員を養成するため、リフレクション・デイ(第Ⅰ期・第Ⅱ期・第Ⅲ期)を設けています。リフレクション・デイでは、各自が作成した教職e-ポートフォリオを用いて、授業や様々な活動を通して学んだ知識や技能などの振り返り(省察)をします。リフレクション・デイの実施時期など詳細は「先生になるために V 教職実践演習へ向けて」を確認してください。

すべてのリフレクション・デイに参加しなければ、4年次後学期に開講される「教職実践演習」の履修ができず、教育職員免許状を取得することができません。

### 「教職実践演習」

「教職実践演習」は、教職課程の授業科目やそれ以外での様々な活動を通じて学生が身に付けた資質能

力が、教員として最小限必要なものとして有機的に統合され形成されたかについて、大学が自ら養成する教員像や到達目標等（教職課程のディプロマ・ポリシー）に照らして最終的に確認する必修科目で、4年次後学期に開講されます。

「教職実践演習」の履修希望については4年次前学期の履修登録期間に合わせて、修学支援システムで通知されます。

### 「教職実践演習」の履修条件

- ① 「教職課程学習ポートフォリオ（教職eポートフォリオ）」を作成している。
- ② 「リフレクション・デイ」（第Ⅰ～Ⅲ期の3回）に参加している。
- ③ （教育実習、教育実習事前・事後指導、教科教育法を除き）未修得の「教育の基礎的理解に関する科目等」が、3科目以内である。
- ④ 「数学科教育法」の半数（中一種免：2科目、高一種免：1科目）以上、または「理科教育法」の半数（中一種免：2科目、高一種免：1科目）以上を修得済である。

### 「教職実践演習」の単位認定条件

次の2つの条件を満たさなければ「教職実践演習」の単位は認定されません。

- ① 教育職員免許状を取得するために必要なすべての単位を修得していること。
- ② 必要な「教職課程学習ポートフォリオ（教職e-ポートフォリオ）」を作成していること。

## （5）教育実習

教育職員免許状の取得に必要な教育実習の単位及び履修の手続きについては「先生になるために VI. 教育実習・養護実習」を確認してください。

なお、事前・事後指導を受講しなければ、教育実習の単位は認められませんので、必ず履修してください。

### 教育実習の履修要件

- ・履修の前年度までに、「教科の指導法に関する科目」及び「教育の基礎的理解に関する科目等」を合計12単位以上修得している。
- ・「教育実習事前指導」を受講している。
- ・4年次終了時に学位（学士）を取得する見込みで、卒業時に教員免許の取得が可能である。

## （6）介護等体験（「中学校教諭一種免許状」に必要）（単位なし）

中学校の教育職員免許状の授与を受けようとする者には、「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律（以下、「介護等体験特例法」という）」により、7日間以上の介護等体験を行うことが義務付けられています。理学部では社会福祉施設等で4日間、特別支援学校で3日間の体験を行います。

介護等体験は、3年次の授業期間中に随時実施されます。ガイダンス（2年次1月頃）・事前指導を必ず受講し、体験時には礼節を守って行動してください。体験の時期が決定したら、「正当な理由による欠席」の「授業欠席届」を授業担当教員に提出してください。実施後は、プラクティス・ログの作成が必要です。

介護等体験は、単位は付与されませんが、介護等体験終了時に学校や社会福祉施設から介護等体験を行ったことを証明する証明書が交付されます。証明書は教育職員免許状申請時（4年次の12月）に申請書類として愛媛県教育委員会に提出します。

詳細は、「先生になるために VII. 介護等体験」を確認してください。

## （7）愛媛県教育委員会への授与申請（一括申請）

本学卒業予定者で、本学が定める教育職員免許状取得の所要資格を満たす見込みの者は、本学が愛媛県教育委員会へ一括して申請することにより、卒業と同時に愛媛県教育委員会から免許状の授与を受けるこ

とができます。(授与された教育職員免許状は、全国の都道府県で有効です。)

手続きの時期など、詳細については「先生になるために VIII 教育職員免許状申請」を確認してください。

## 17-2 その他 「地域連携実習」

「地域連携実習」とは愛媛県内の教育関係機関からの依頼を受けて実施している教育体験活動です。在学中に、実際の教育現場などで、体験を通して学ぶことができます。参加を希望する場合は毎年度「地域連携実習ガイダンス」を受講してください。

また、地域連携実習での活動を評価する制度として、活動実績に応じて「地域未来教育賞」「地域教育支援認定証」という2種類のオープンバッジが授与されます。オープンバッジは履歴書やメールの署名等に記載することができるデジタル証明書です。

地域連携実習の受付は教職支援ルームで行っています。詳細は、教職支援ルームのホームページを確認してください。

### 学生支援について

本学では、教職支援ルームの開設や教職課程を有する学部に「教職コーディネーター」と呼ばれる教員の配置等、教員を目指す全学生を対象に様々な支援を行っています。

また、修学支援システムの就職に関するお知らせ情報に教員採用試験関係（募集要項、採用試験説明会）の情報を掲載しています。

上記のほか、学生支援についての詳細は「先生になるために IX 学生支援」や教職支援ルームのホームページを確認してください。

[☑ 教職支援ルームホームページ](#)



## 18 その他の資格（学芸員資格・測量士補資格）

### 18-1 学芸員資格

「学芸員」とは、博物館において、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究、その他これと関連する業務を担当する「博物館法」に定められた専門的職員です。

学芸員の資格は、「学士の学位を有する者で、大学において文部科学省令の定める博物館に関する科目の単位を修得したもの」（博物館法第5条第1項第1号）に与えられます。学芸員資格の取得を希望する学生は、理学部で開講される「博物館に関する科目」（表18-1：11科目20単位）をすべて修得してください。資格取得に必要な授業科目は、コースの専門教育科目の授業と時間割が重なる場合があります。4年間で学芸員資格を取得するのはかなり困難な道のりです。資格の取得を目指す場合は、綿密な履修計画を立て、確実に単位を修得してください。

その他、学芸員資格についての詳細は、文化庁のホームページで確認してください。

[☑ 文化庁ホームページ](#)



1 主要スケジュール

2 愛大生コンベンション

3 学部の理念と教育方針

4 大学で学ぶ基本知識

5 単位制度

6 履修登録の上限

7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択

8 教育目標・履修科目・修学方法

9 履修登録の手続き等

10 他学部授業科目履修

11 単位互換科目・他

12 受講上の注意事項

13 試験・成績

14 卒業認定・卒業時期

15 履修プログラム/卒業生の履修ポートフォリオ

16 学びのサポート

17 教育職員免許状

18 その他の資格

19 留学・アクティビティの支援

表18-1 博物館に関する科目

区分	科目名	単位数	開講学年・クォーター								
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前	後	前	後	前	後	前	後	
博物館法施行規則に定める科目 (理学部の開設科目)	生涯学習概論	2						○			
	博物館概論	2	○								
	博物館経営論	2			○						
	博物館資料論	2			○						
	博物館資料保存論	2			○						
	博物館展示論	2		○							
	教育原論	2				○					
	博物館教育論	1			○						
	博物館情報・メディア論	2				○					
	博物館実習Ⅰ	2									△
	博物館実習Ⅱ	1									△
	必要単位数の合計		20								

### (1) 博物館実習Ⅰ (学内実習)

「博物館実習Ⅰ」は、博物館での見学実習、資料を実際に取り扱う実務実習、博物館実習の事前及び事後指導を行う通年の学内実習です。実習に要する経費（交通費等）は、個人負担となります。履修には次の条件を満たす必要があります。

- ①「博物館実習Ⅱ」及び「博物館経営論」を除くすべての博物館に関する科目が修得済であること。
- ②履修年度に「博物館実習Ⅱ」を履修予定であること。

### (2) 博物館実習Ⅱ (館園実習)

「博物館実習Ⅱ」は、登録博物館又は博物館指定施設（大学においてこれに準ずると認められた施設を含む）で行う館園実習です。実習期間は、5日間以上（30～45時間相当）が必要です。実習先施設は、愛媛大学ミュージアム又は外部施設（美術館、博物館等）等、各自で確保することとなります。実習に要する経費（交通費等）は、個人負担となります。履修には次の条件を満たす必要があります。

- ①「博物館実習Ⅰ」を履修中で「博物館実習Ⅰ」及び「博物館経営論」を除くすべての博物館に関する科目が修得済であること。

詳細について、3年次の7月頃にガイダンス（詳細な日程は修学支援システムで通知）を実施します。

## 18-2 測量士補資格

測量士補とは、測量法の規定によって測量士の作成した計画に従い測量に従事し、測量士の補佐を行う技術者に求められる国家資格です。また、卒業後1年以上測量に関する実務の経験を有した場合は、測量士となる資格を有することができます。

理学科地学コースは、測量法施行令第14条に規定する「相当する学科」に認定されています。地学コースに所属の学生は、測量に関する科目（表18-2）から40単位以上を修得し、卒業すれば、測量士補（資格種別第1号）となる資格が得られます。測量士補の登録申請は個人で行うことになっています。

測量士補の登録等の詳細については、[国土地理院のホームページ](#)で確認してください。



表18-2 測量に関する科目

区分	科目名	単位数	開講学年・クォーター										
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			前	後	前	後	前	後	前	後			
共通基礎科目	数学の基礎	1	1										
	数理情報の基礎	1	1										
	物理学Ⅰ	2	○										
	地学Ⅰ	2	○										
	数学Ⅰ	2		3									
	数学Ⅱ	2		4									
	物理学Ⅱ	2		○									
	地学Ⅱ	2		○									
	基礎物理学実験	1			1,2								
	基礎地学実験	1			1,2								
コース体系科目	最新地球惑星科学	2		4									
	地質学概論	2			○								
	鉱物学概論	2			○								
	岩石学概論	2			1								
	固体地球物理学概論	2			○								
	海洋学概論	2			○								
	岩石学	2				○							
	鉱物学	2				○							
	地層学	2				△							
	固体地球物理学	2				○							
	海洋物理学Ⅰ	2				○							
	力学Ⅰ	2				4							
	力学Ⅱ	2						1					
	情報地球科学	2						○					
	地球内部構造論	2						○					
	古生物学	2						○					
	海洋物理学Ⅱ	2						○					
	沿岸海洋学	2							○				
熱統計力学Ⅰ	2					3							
コース課題科目	地質野外実習Ⅰ	2			△								
	地質学実験	2				○							
	岩石鉱物学実験	2				○							
	地質野外実習Ⅱ	2				△							
	情報地球科学演習	2						○					
	地質図学演習	1						1					
	地質調査法実習	1						△					
	地質野外研究	6						○					

- 1 主要スケジュール
- 2 愛大学生コンベンション
- 3 教育学の理念と教育方針
- 4 大学で学ぶ基本知識
- 5 単位制度
- 6 履修登録単位数の上限
- 7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択
- 8 教育目標・履修方法・科目ナンバリング
- 9 履修登録手続き等
- 10 他学部授業科目履修
- 11 単位互換科目・他
- 12 受講上の注意事項
- 13 試験・成績
- 14 卒業認定、卒業制度、早期卒業
- 15 履修プログラム変更、転学部の交換留学
- 16 学びのサポート
- 17 教育職員免許状
- 18 その他の資格
- 19 留学・アクティビティの支援

# 19 留学・アクティビティの支援

## 19-1 在学期間中の留学・アクティビティ

在学中に、海外留学や長期のボランティア活動などに参加すると、一定期間修学できず、その間に開講される授業科目の単位が修得できなくなります。理学部では、2—3年次のいずれかの1クォーターにおいて、必修科目を配置しない配慮を行い、留学・アクティビティをサポートします。該当のクォーターで開講される科目はすべて選択科目ですので、次の年度以降に履修することができます。2か月未満の留学等の活動は、夏季休業期間または該当のクォーターの期間に計画することを勧めます。カリキュラムがコースにより異なるので、活動を計画する前に履修の手引・時間割をよく確認してください。なお、不在（修学しない）期間を「休学」にすると、在学期間が不足し、4年次終了時での卒業ができなくなるので注意してください。

## 19-2 留学・海外渡航の相談

在学中に留学・海外渡航をする場合は、学生生活担当教員の承諾を得たうえで、十分な日程の余裕をもって事前に所属するコースの国際連携推進委員に相談してください。留学中の単位の取扱や休学に関する事など、必要なアドバイスを受けることができます。愛媛大学には、協定校との交換留学や派遣留学プログラムなどがあります。渡航計画の前に調べておきましょう。留学に際しては、「海外渡航届」など必要な届出を忘れず提出してください。

## 19-3 早期卒業を利用した留学・アクティビティの例

早期卒業制度と半年間の休学を組み合わせることで、半期アクティビティ期間を取得することができます。この期間は留学や長期のボランティア活動等、興味のあることに挑戦することができます（ただし、4年次の3月に早期卒業認定の条件を満たせない場合には卒業が少なくとも半年遅れる可能性があることに注意してください）。

【標準プログラムの半期アクティビティ期間取得者（早期卒業適用者）の履修モデル（化学コース）】

		1年次				2年次				3年次				4年次					
		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期			
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q		
全学 共通 教育	未 来 思 考 支 援	新入生セミナー						未来思考/チャレンジ	Beyond SDGs										
		こころと健康 スポーツ	微積分																
	発 展 支 援	English Foundation		English Communication Strategies (3Q or 4Q)															
		情報/プレゼン I   情報/プレゼン II		知的財産入門	社会力入門														
理 学 部 共 通	必 修	教養科目(選択) 4~5単位	教養科目(選択) 6~8単位	教養科目(選択) 4~6単位	(教養科目)														
		理学部基礎セミナー	理学部基礎セミナー																
	基 礎	化学 I	化学 II	化学 III	化学 IV														
		数学の基礎 数理情報の基礎	数学 I																
		物理学 I	物理学 II																
		生物学 I / 地学 I	地学 II / 生物学 II			基礎生物学実験													
	課 題																		科学研究倫理
																			特別演習 I 特別研究 I
	化 学 コ ー ス	体 系				量子化学 I	量子化学 II	分子分光学											
					物理化学 I	物理化学 II	物理化学 III	物理化学 IV											
				無機化学 I	無機化学 II	無機化学 III													
				有機化学 I	有機化学 II	有機化学 III	有機化学 IV												
				機器分析 I	機器分析 II	機器分析 III	機器分析 IV	機器分析 V											
課 題				分析化学 I	分析化学 II	分析化学 III	分析化学 IV												
						環境化学	環境化学	環境毒性学											
				生物化学基礎 I	生物化学基礎 II	生物化学 I	生物化学 II												
				化学実験 I	化学実験 II	化学実験 III	化学実験 IV	化学実験 V											
				化学実験法															
特 別 関 連						植物生理学	動物生理学												
キ ャ リ ア						キャリアデザイン I	キャリアデザイン II												

- 2年次前学期終了時に「早期卒業制度申請」を提出し、審査により認められる必要があります。制度の認定には修得単位数とGPAに関する要件を満たす必要があります。
- 制度適用者は、2年次後学期から「化学実験 II・III」を履修します。

☞ 学内図



1 主要スケジュール

2 愛大学生コンベンション

3 学部の教育理念と教育方針

4 大学で学ぶ基本知識

5 単位制度

6 履修登録単位数の上限

7 教育コースの選択及び履修プログラムの選択

8 教育目標・履修目標表・履修方法・科目ナンバリング

9 履修登録手続き等

10 他学部授業科目履修

11 単位互換科目・他大学科目

12 受講上の注意事項

13 試験・成績

14 定業、卒業認定、早期卒業制度

15 グラム履修プログラム/コース/学部変更、転学部の教員

16 学びのサポート

17 教育職員免許状

18 その他の資格

19 アクティビティの支援

